

ベトナム革命

その基本問題と主要課題

レ・ズアン著
長尾正良訳

ベトナム革命

その基本問題と主要課題

レ・ズアン著
長尾正良訳

新日本新書=160

英訳者はしがき

インドシナ共産党（現在のベトナム労働党）創立四十周年にあたり、レ・ズアン第一書記は、ベトナム革命の大きい問題、主要課題、原則、方法について分析をおこなった。

これは、きわめて重要な文献であり、ベトナム問題を立ち入って研究しようとするすべての人びとに、不可欠のものである。この文献は、ある点では、世界革命の二、三の側面にも光を投げかけている。以下に、その英語訳をかかげる。

目次

一 人民の民族民主革命	17
1 革命戦略の諸問題	17
2 革命行動の原則と方法	36
3 南ベトナム革命と抗米救国の人民戦争	55
二 北ベトナムの社会主義革命	75
1 プロレタリアートの執権と達成すべき三重革命	76
2 初期経済発展のための路線	91
a 重工業の合理的発展を第一とすること	93
b 軽工業に大いに馬力をかけること	99
c 農業の発展につとめること	101

d 中央経済と地方経済を同時に建設すること	107
e 経済管理を改善すること	117
三 党、それはすべての勝利の組織者である	132
1 わが国の具体的条件に創造的に適用された マルクス・レーニン主義の勝利	132
a あたらしい段階で党の指導性を強めるために 努力すること	137
b 党を不断に強化、建設すること	151
2 国際的団結を強くし、平和、民族独立、民主主義、 社会主義をめざす闘争を強化すること	169

ベトナム革命

その基本問題と主要課題

レ・ズアン

英雄的な人民であるわが人民は、自分の国を建設し防衛する闘争の永い歴史のなかで、ずっと早い時期に民族意識にめざめ、きわめて熱烈な愛国心を示した。ほぼ一世紀つづいたフランス植民地主義の支配のもとで、わが人民は、奴隷の境遇にあまんじることを拒否し、侵略者と売国奴にたいし、くりかえし武器をとって立ちあがった。しかし、フランスの支配に抵抗し救国をめざす過去の運動は、すべて結局は失敗におわった。

今世紀の二〇年代になって、カン・ヴォン〔勤王〕の反乱が^(註)ふみつぶされたあと、はげしくにえたぎっていた民族解放運動は、どのような路線をとるべきかをめぐって深刻な危機に直面した。フランス植民地主義者は、一方では愛国者をきびしく弾圧し、これにテロルをくわえながら、一方では、降服主義思想をうえつけるのにやつきとなり、改良主義や協調主義のさまざまの傾向を助長するためには、どんなことでもやった。人民の側では、民族解放のためにどのような革命路線をとるべきかをめぐって、愛国勢力のなかで、二つの主要な傾向、つまり若いプロレタリアートの傾向と民族ブルジョアジーの傾向のあいだで、はげしい抗争がおこった。どちらの側も、独自の政治綱領を提示して、大衆を味方につけようとした。

ホー・チ・ミン大統領が、あの天分と革命運動の実践をもって、歴史のこうした緊急課題

に、時機を誤らず回答を出したのは、まさにこのときであった。大統領は、当時の学者やブルジョア革命家の民族主義の制約をうちやぶって、早くからマルクス・レーニン主義を自分の思想とし、プロレタリア革命の道をえらんだ。大統領は述べた——「国を救い民族を解放するには、プロレタリア革命のほかには道はない。」^(注2)

ホー・チ・ミン大統領の第一のすばらしい業績は、ベトナム革命を国際労働運動にむすびつけ、大統領自身がすでにあゆんでいた道、愛国主義からマルクス・レーニン主義へつづいていく道へ、ベトナム人民を案内して来たことである。それは、解放にいたるただ一つの道であり、ロシア十月革命が、全世界の勤労人民と被抑圧民族のまえに開いた道であった。

ベトナム人民にとって、マルクス・レーニン主義は「飢え渴いた旅人のための食べもの」と飲み^(注3)のようであった。マルクス・レーニン主義は、ベトナムの愛国者を力よくプロレタリア革命の道に引きつけ、全国に民族民主の波をわき立たせ、そのなかで労働者階級が独立の政治勢力となった。われわれの時代のもっとも革命的な思想であるマルクス・レーニン主義が、もっとも革命的な階級であり農民の親密な同盟者である労働者階級のはげしい闘争にむすびつき、革命的興奮の頂点にあった民族の愛国運動とむすびついたとき、それは、一九三〇年二月三日、わが党の創立にみちびいたのである。

このきわめて重要な出来事は、ベトナム革命史の上で根本的な転回点となった。それは、植

民地国半封建国へのマルクス・レーニン主義の普及を意味した。これこそ、ベトナム民族の進化のなかでもっともかがやかしい反乱の時期、最大の飛躍をもって前進した時期、あの一九四五年八月革命とベトナム民主共和国の樹立からはじまった時期に、先行する必要な準備の第一歩であった。

わが党とわが人民の過去四〇年の歴史は、革命闘争のすばらしい記録である。

それは、革命的高揚の反復と数かずの勇敢な反乱の歴史である。すなわち、一九三〇年〜三一年には革命の高波、一九三六年〜三九年にもおなじ、そして一九四〇年〜四五年には、八月革命の勝利にみちびいた愛国の波というふうに。

それは、英雄的なわが人民が、民族解放闘争を完成し、祖国を防衛し、平和、民族独立、民主主義、社会主義をめざす世界の諸国人民の偉大なたたかいに参与するために、フランス植民地主義者、アメリカ帝国主義侵略者とたたかった二つの長期抗戦の歴史である。

それはまた、われわれの時代の二つの偉大な革命、すなわち人民の民族民主革命と社会主義革命の歴史である。この二つの革命の課題は、過去一〇年のあいだ、わが党と南ベトナム解放民族戦線の指導のもとに、密接に調整しあい、共通の目的、すなわち南を解放し北を守り国の平和的再統一に進むことを目指して来た。

偉大なホー・チ・ミン大統領を先頭とするわが党の指導のもとに、全国の人民は、わが民族

の歴史のもっともすばらしいページをしるし、独立と自由の時代、つまり社会主義時代を切りひらいた。

過去四〇年間ずっと、ベトナム革命の道案内をつとめて来たわが党とホー・チ・ミン大統領は、植民地国従属国の民族の中で、民族解放革命を成功裏に遂行し、全国土で権力をかちとった最初の民族の一つとして、旧植民地主義をうちやぶって帝国主義の植民地制度を一つ一つ掘り崩して行く過程を開いた最初の民族の一つとして、帝国主義の巨頭、国際的憲兵、アメリカ帝国主義の新植民地主義を打倒しつつある前衛戦士として、わが人民を世界の舞台に登場させた。

わが労働者階級とわが民族は、わが党の指導のもとに、帝国主義と封建制にたいする数かずのすばらしい勝利により、また北部でいま遂行しつつある社会主義革命によって、社会主義兄弟諸国の人民と肩をならべて、いま世界におこりつつある歴史的変革の過程に、もっとも積極的に寄与しつつある。

過去四〇年のあいだにわが人民がおさめたかがやかしい成功は、いずれもわが党、すなわち労働者階級と民族の最高の利益に絶対的に忠誠な党の明敏な指導に負うものである。

わが革命とわが人民がふみ出す一步一步は、いずれも無敵の革命の教義、あたらしい時代を照らす真理、マルクス・レーニン主義がかちとった成功である。

それは、わが勤労人民とわが全民族が、独立、自由、社会主義をめざす闘争のなかでなしとげた無敵の戦闘的団結のはかり知れない勝利である。

ベトナム革命が過去四〇年のあいだにあげた業績は、ロシア十月大革命とともににはじまったあたらしい時代、世界的規模で資本主義から社会主義へ移行する時代の世界革命の進展と密接にむすびつき、ドイツ・イタリア・日本のファシスト枢軸にたいするソ連の偉大な勝利とも、中国革命のすばらしい成功とも、人間社会の進化の決定的要因である社会主義陣営の圧倒的優位とも、資本主義諸国の強力な民族解放運動や労働者階級、勤労人民の激しい闘争とも、全世界にまきおこっている民主平和運動とも、密接にむすびつついている。

わが党と人民は、こうしたかがやかしい成果をあげるまでには、数え切れない労苦と試練にあわねばならなかった。党の旗のもとに、どれだけ多くの幹部と党员、民間人と戦士が、前衛階級と民族の英雄精神を発揮し、祖国と人民解放の大業と不滅のマルクス・レーニン主義とへの無限の忠誠をあかしつつ、その生命をおとしたことか！英雄主義のこうした模範は、わが党、わが人民とともに、いまの世代、未来のすべての世代とともに、永遠に生きつづけるであらう。

かくも意義深いこの記念の日に、われわれの胸はかぎりない悲しみに満たされる。敬愛するわがホー・チ・ミン大統領は、もはやいない。

わが党とわが全人民は、われわれの偉大な指導者に永遠の感謝をささげる。

ホー・チ・ミン大統領は、ベトナムの土壌にマルクス・レーニン主義を種まき、ベトナム革命を花開かせ、実らせた最初の人であった。大統領は、わが党のために多数の精鋭幹部を養成するのみに努力し、党を、団結し、統一した、堅固な一枚岩のものに築きあげるのに精魂をかたむけた。わが党は、ベトナム革命の教師、偉大な民族の英雄、傑出した国際的戦士であるホー・チ・ミン大統領によって創設され、指導され、鍛えられ、練りあげられて、早い時期に労働者階級のあたらしい型の党、闘争のきわめて豊かな経験とかがやかしい記録をもつ党となった。

過去四〇年のあいだに、わが人民とわが党がふみ出した一步一步は、ホー・チ・ミン大統領の無限に能動的で高貴な革命家としての生涯とむすびついていた。大統領の生涯の事業と、わが人民、わが党の業績とは、ベトナム革命の不朽の叙事詩を織りなしている。

ホー・チ・ミン大統領は、党の偉大な指導者であり、わが民族の偉大な指導者である。大統領は、独立、自由の理想と社会主義、共産主義の理想を、熱烈な愛国心と真のプロレタリア国際主義を、一身の中に渾然と統一している。

大統領は、わが人民が四〇〇〇年の歴史を通じてはぐくみつづけた精神の宝を代表している。大統領のなかで、わが民族の最良の資質が、われわれの時代の思想の最高峰、マルクス・

レーニン主義ととけ合っている。

大統領の生涯は、光のように純粹である。それは、ゆるぎない革命的確固性、独立と主権を守る決意、人類愛と人民にたいする深い愛情、公共の利益への全面的な献身、完全な無私、謙虚、質素のすばらしい模範である。

ホー・チ・ミン大統領の気高い心と高貴な徳性は、われわれにとって永遠に精神を啓発し道義を高める源泉であるだろう。大統領の光かがやく旗は、われわれの前進する道を永遠にさし示すであらう。

注1 カン・ヴオン〔勤王〕の反乱——王党派の愛国運動。文人運動とも呼ばれる。

注2 『ホー・チ・ミン選集』、『邦訳第三卷、一九六八年、新日本出版社、三二八ページ』

注3 同前、『二五七ページ』

福をもたらし、ベトナム人の文化的精神的な宝を回復すること、これがベトナムのすべての愛国者の切実な願望であった。

しかし、民族のこの願望は、帝国主義侵略者によって踏みじられた。そして彼らと同盟していたのが封建階級である。帝国主義と封建制のこのような結託は、植民地体制の特徴的な姿である。したがって、わが人民と侵略的帝国主義との矛盾は、人民を封建体制に、つまり帝国主義の支配と搾取の支柱に対決させる矛盾と結びついている。だから、反帝の課題は、反封建の課題と切りはなすことはできぬ。民族解放革命は必然に民主的内容をもたねばならぬ。

どの時代でも、真の民族運動であればかならず、はっきりした民主的内容をもたねばならぬ。なぜなら、どんな階級でも民族主権を取りもどそうとし、あるいは「みずから民族になるう」とするのであれば、人民大衆、つまり民族運動の勝利を決定する勢力の一定の民主的要求をみたすほかないから。

わが国は、人口の九〇%が農民からなる農業国である。帝国主義は、本質的には農民層からなるわが人民を搾取するために封建制に依拠する。だから民族の解放とは、なによりもまずそして本質的に農民の解放を意味する。ここでは民主主義とは、なによりもまずそして本質的に農民のための民主主義を意味する。農民の熱烈な願望は、民族が独立し、耕作者が土地をもち、農民が帝国主義と封建制の二重の抑圧から解放されることである。農民が地主の手による

抑圧と搾取からまぬがられるのは、封建制の擁護者であり保護者であり、同時にわが民族の最悪の敵、農民層の最悪の敵である帝国主義が打倒されたときはじめである。封建地主がかけた首かせから農民を解放し、農民に土地をあたえること、これが民主革命の基本的内容である。同時にそれは、民族解放の事業のさしこまれた要求をみたすことにもなる。なぜなら「植民地諸国の民族問題は、本質において農民問題である」から。

わが党は、「民族独立」と「土地はたがやすものへ」の二つの戦略スローガンをしるした民族民主の旗をしっかりと高くかかげて、農民層の中のおおぜいの大衆に先頭をきる労働者階級のあとにつづかせ、他の人民階層を動員して、労働者農民といっしょに反帝反封建のたたかいの現場に立たせるのに成功した。革命の進行とともにわれわれは、具体的な階級関係の分析にもとづき、帝国主義者や封建地主からなる敵の隊列を分断する可能性を見すえて、革命の烈火をその瞬間の最も危険な敵に集中させるために、上記の戦略課題をそれぞれの時期にびつたりした具体的な形にした。しかしどの時期でも、党が設定した具体的な政治課題は、その根底に民族的内容も民主的内容も同時にふくみ、反帝の課題にも反封建の課題にもかたく結びついたものであった。

八月革命のあと、フランス植民地主義者にたいする抗戦のあいだ、革命の鋒先を主として帝国主義侵略者とその手下に向けつつ、党は、一步一步土地革命の課題を遂行した。一九五三

年、抗戦がもつとも決定的な段階にはいったとき、党は、「土地はたがやすものへ」のスローガンを実行して、地代の思い切った引下げと農地改革に大衆を動員した。このおかげで、数百万の農民の抵抗の精神と力量は強力に盛り上げられ、労農同盟は補強され、人民権力と民族統一戦線は強化され、人民軍の戦争能力はかつてない速度で向上し、すべての抵抗活動はぐんぐん前進した。この大衆運動がディエン・ビエン・フーの大勝利に決定的に寄与した。抗戦の進行中に農地改革を遂行すること、これはわが党のきわめて思慮深い創造性のある政策であった。

いま南ベトナムで革命が不敗の強さを示しているのは、一千万をこえる農民を主体とする南部の人民が、革命によって真の民族的民主的権利をあたえられたこと、南部の革命が、アメリカ帝国主義者の新植民地主義にたいするたたかひの中で民族、民主の二つの課題を構想力に富んだ仕方でも結合したこと、この二つにもとづく。

新植民地主義を特徴づけるものは、それが帝国主義者による直接の行政をつうじてではなく、封建地主階級と買弁ブルジョアジーの利益を代表し、「民族、民主」の看板をかかげた卑屈な土着政権をつうじて、実行されることである。こうした状況のもとで革命は、かいらい政権をぐらつかすため、これに強力な攻撃をくわえ、帝国主義が新植民地主義を実行するのに利用している支柱を打ち倒すほかはない。南部の人民は、ゴ・ジン・ジエム政府を崩壊させるこ

とによって、アメリカ帝国主義者の新植民地主義に致命的な打撃をあたえ、これが発端となつてかいらい政権にとってははてしもない危機の時期がはじまった。一九五六年半ばにアメリカ帝国主義者は、敗北を受けいれることを拒否し、そのたくらみにかたく固執し、局面の挽回を夢みつつ、アメリカの部隊を大量に南ベトナムへ導入した。しかし南ベトナム人民は、後退するどころか、決然として前進し、人民戦争の烈火をアメリカの侵略部隊に集中し、同時にかいらい軍とかいらい政府に強打をあびせつづけた。「アメリカ人が出ていき、かいらいが倒れる」まで、アメリカ人とかいらいもたたかいつづける南部の人民は、勝利に力づけられ、いま嵐のように前進している。かれらは、当面の基本目標、すなわち独立、民主、平和、中立、繁栄の南ベトナムと、最終的には国の平和的再統一とをなんとしても達成することを決意している。

北部のわが人民は、民族民主革命の完成をめざし南部の同胞と固く結んでたたかいつつ、党の指導のもとに、早くも一九五四年フランス植民地主義者にたいする抗戦の勝利のあと、社会主義建設にとりかかった。党の第一次綱領を厳格に実現するこの措置は、民族民主革命が資本主義の発展の段階をとおらずに社会主義革命へ直接進む時代、われわれの時代の民族解放運動の抗しがたい動向に一致するものである。これこそ、帝国主義と植民地主義の首かせによっていままで未発達におしとどめられていた諸国民に、民族解放の事業の完全な勝利、真の独

立、たえまない進歩と繁栄を保障するただ一つの道である。

過去十余年にわたって進行してきた社会主義革命は、まだ最初の成果を刈り取ったにすぎぬ。にもかかわらずこの成果は極度に重要である。それは、政治、経済、社会、文化と、すべての分野で北ベトナムの姿を根本的に変えたし、また変えつつある。それは、北ベトナムを、国全体に民族民主革命を完成するための根拠地、ますます強大になる根拠地に変えている。わが人民は、社会主義を建設し、アメリカ帝国主義者がしかけた破壊戦争を完全に挫折させ、アメリカの侵略に反対し救国をめざす抵抗の偉大な前線にたいする大後方地としての任務を完遂することによって、われわれの時代の最大の真理、すなわちこの時代には民族独立と民主主義と社会主義は切りはなせないものだという真理をいきいきとえがき出している。

百余年まえマルクス主義は、「万国の労働者、団結せよ！」とたたかいの雄叫びをもって登場した。

資本主義が「母国」のプロレタリアートと勤労人民に耐えがたい首かせとなっているだけでなく、植民地諸国の人民にも苦役の足かせをはめている時代、帝国主義の時代にレーニンは、マルクス主義を発展させて、「万国の労働者と被抑圧民族、団結せよ！」と叫んだ。この戦略スローガンの力強さは、それがつぎの点をさし示しているところにある。すなわちこの時代には、資本主義を打倒し人類を社会主義にみちびくことをめざす革命は、すべての国ぐにのプロ

レタリアートの闘争と植民地諸国の人民の帝国主義にたいする闘争を一つの大運動の中で結びつけることによってはじめて、勝利できるものであること、植民地国従属国の人民の民族解放、独立、民主主義をめざすたかいは、それがこの時代の人類社会発展の必然的な動向、つまり社会主義への前進という動向に一致して、世界プロレタリア革命の一部分となったときはじめて、全面的な勝利に終ることができるとのこと、この二つである。ホー・チ・ミン大統領が主張したように「社会主義だけが、共産主義だけが、世界の被抑圧民族と勤労人民を苦役から解放できるのである。」^(注1)

資本主義がその最後の腐朽におちこむにつれて、民族独立と民主主義の諸問題は、植民地国従属国の人民の肩にかかっているだけでなく、発達した資本主義諸国の共産党・労働者党が社会主義と共産主義をめざすたかいはたさねばならぬ責任でもある。事実、これらの国ぐにで支配権をにぎっている独占資本家たちは、いまやアメリカ帝国主義者、国際資本家団体、超国家的侵略軍事ブロックに民族主権をこま切れに売り渡してきたし、また売り渡しつつあり、一方、自国ではそれぞれ労働者階級と勤労人民の搾取と抑圧を強め、たとえブルジョア民主主義的自由にもせよ、すべての民主的自由を切りくずし、さらには踏みこむ場合さえ多い。したがって、いまや共産主義者は、スターリンが指摘したように民族民主の旗をかかげて前進せねばならないのである。

民族民主の旗を高くかかげ、資本主義的發展の段階をとおらないで社会主義へ直接前進すること、わが党のこの戦略路線は、過去四〇年にわたるベトナム革命の現実によっても、その全面的な正しさが実証されている。ベトナム革命の勝利は、植民地半封建国の条件に創造的に適用されたマルクス・レーニン主義の勝利である。

*

わが党は、その思慮深い路線のおかげで、党のまわりに愛国的なすべての階層を結集し、民族と人民の解放をめざしてたたかう強大な革命軍を建設するのに成功した。

革命の第一の重要な問題は、労働者階級の指導的役割をたたく十分に主張することである。労働者階級は、その経済的、政治的、歴史的 position のゆえに、われわれの時代には人類社会の進歩の代表となった。労働者階級こそ勤労人民をその運命の主人に引きあげることができただだ一つの階級である。ベトナムのプロレタリアートは、年は若く数はすくないが、まぎれもなく革命的な階級である。ベトナムのプロレタリアートは、民族ブルジョアジーが出現するまえに生まれ、一人前になるかならないうちにマルクス・レーニン主義の革命の光明を吸収し、急速に国の三つの部分、北部、中部、南部をつうじて統一された自覚的な政治勢力となった。窮乏した勤労農民層から出てきたプロレタリアートが農民層と固く結びついていることは、しっかりした労農同盟を打ち立てるのに有利な条件をつくり出した。さらにベトナムの労働者階級は、ロシア十月大革命が勝利し、革命のひびきが五大陸にこだましていたとき、そして隣国の中国で、ブルジョアジーの裏切りのあとプロレタリアートが前進し、民族民主の旗をすでに堅持していたとき、政治の舞台上に登場した。こうした歴史的背景が、ベトナムのプロレタリアートの政治的威信に光をくわえた。こうした特色によって、ベトナムのプロレタリアートは、巨大な力と道義的優位をあたえられ、これが助けとなつて、エン・バイ反乱^(注2)の失敗後ぬきんでた地位を占め、ベトナム革命の指導権をにぎったのである。

ホー・チ・ミン大統領は述べた。「労働者階級は、もともと勇敢で、もともと革命的な階級であり、帝国主義者と植民地主義者にたいしひるまず恐れを知らず立ち向かう。わが労働者階級は、前衛の革命的教義と国際プロレタリア運動の経験をもって武装し、ベトナム人民の指導者として、いちばんその名に値いし、いちばん信頼するに足るものであることを実証した。」^(注3)わが党がすべての時期をつうじてたゞしい政治コースをたどり、ベトナム革命を勝利から勝利へとみちびいてきたのは、労働者階級の立場を固くまもり、労働者階級の革命的教義であるマルクス・レーニン主義を徹底して理解していたからである。

指導的な階級としての労働者階級のほかに農民層は、帝国主義と封建制にたいするもともと積極的な反対者である。農民は、わが国の人口の大多数を占め、民族民主革命の最大の勢力である。だから、農民を労働者階級の先導のあとにつづかせ、農民の偉大な革命的底力を最大限

に発展させ、労働同盟を建設することは、革命に勝利を保障する基礎的な条件である。

労働同盟の問題は、マルクス・レーニン主義の戦略的原則であり、プロレタリアートが指導するすべての革命の普遍的な必要条件であるが、わが国のような国では特殊な重要性をもつ。植民地半封建体制のもとで、わが国のプロレタリアートが、数はすくないがその数をはるかにうわまる力強さを発揮したのは、わが国のプロレタリアートが正しい革命コースをたどったほかに、自然な同盟者、もつとも信頼できる同盟者、強大な部隊と高い革命的気概をもつ同盟者、すなわち農民層を味方につけたからである。わが党が創立後まもなく革命的指導者としての地位を確立できたのは、わが党が早い時期に労働同盟を建設するのに成功していたからである。わが党の政治的威信と革命にたいする指導性が絶対的であり、争いの余地のないものであるのは、この威信と指導性が党の草の根の大衆、すなわち労働者農民大衆の無敵の力に由来しているからである。

現在の時代に、社会解放、民族解放をめざす運動は、この運動の中核が労働者と農民からなり、この運動が労働者階級の指導のもとに労働同盟の力量とともに発展するとき、はじめて真に革命的であることができる。革命が大衆の事業であるとすれば、それならわが国のような国の条件のもとでは、ほんとうに革命的な運動であるためには、その主要部隊が二つの構成部分、すなわち労働者と農民からなる運動でなければならぬ。労働同盟を実現し、このしっかり

した基盤に依拠したときはじめて労働者階級の党は、革命の隊列をひろげて、民族民主の傾向をもつ他の階層もこの隊列にふくめることができよう。労働同盟なしに民族統一戦線はあり得ない。八月革命から生まれたわが人民民主主義国家は、広範な民族統一を反映しているが、それはなによりもまず労働者階級の指導のもとにある労働者農民の権力である。これこそ、北部で民族民主革命が基本的に完成したあと、人民民主主義国家がもう一つ別の政治革命をおこなう必要なしに、ただちにプロレタリアートの執^{イニシアチブ}権の責任の遂行に着手できた理由である。労働同盟がなければ、資本主義的発展の段階をとおらずに社会主義革命へ前進することはできぬ。同様に、わが国の民族民主革命できわめて重要な強力装置である革命軍は、労働軍、つまり労働者階級と農民層が生みだし、労働者階級の党であるわが党の直接の絶対的な指導のもとにおかれた軍でしかあり得ない。

したがって、労働者階級の前衛である党をもち労働同盟をもつことは、すべてをにぎることの意味する。ベトナム革命に勝利を保障する一連の要因の中で、なによりも優位をあたえねばならないのは、労働者階級の党の指導性と労働同盟が演じる役割とである。

他の多くの国ぐにの農民層とはちがってベトナムの農民は、民族ブルジョアジーの先導にしがたがったことはなかった。民族ブルジョアジーは、経済的に弱く政治的に無気力であったし、農民の革命的熱意と願望は、ブルジョアジーの力のおよぶ範囲をはるかにこえていたからであ

る。農民層は、きわめて革命的であるが、革命を先導することはできぬ。なぜなら農民層は、なんら独特の生産様式を代表せず、独立の政治的立場も独自の思想もたないから。わが国の民族民主革命の中で農民層は、労働者階級とともに歩み、労働者階級に道案内してもらえただけである。農民層それ自体では、土地革命を遂行することさえできぬ。古い型のブルジョア民主主義革命では、土地問題はブルジョアジーの路線と利益に一致する限りにおいてしか解決できなかつた。あたらしい民主主義革命では、土地革命はプロレタリアートの指導のもとにプロレタリアートの観点と路線にもとづいて遂行されねばならぬ。そのときはじめて農民層の基本的利益は、当面のそれも長期のそれも満たされる。労働者階級の友としてはじめて農民層は、巨大な勢力となるであろう。労働者階級の力は、偉大な同盟者、農民層を得て数倍となるが、農民層の力量は、労働者階級と同盟してその道案内をうけたときはじめて、全面的に發揮できるものであることも理解せねばならぬ。

わが党は労働者階級の党である。その政治路線は、労働者階級の立場と観点を反映しており農民の熱烈な願望と死活の利害にこたえてきた。だからこそ過去四〇年にわたって農民大衆は、労働者階級の党の先導に忠実にしたが、労働同盟をますます固くますます強くしてきた。ベトナム革命は実証している——労働者階級の路線、マルクス・レーニン主義の路線をまもり、労働同盟を強大な主力とする革命運動であれば、敵がどんなに強力であろうと、また、

どんなに数多くの試練と危険に直面せねばならないとしても、必ず勝利するものであることを。

わが党は、民族民主革命のすべての時期をつうじ、強固な労働同盟の力にたよりつつ、愛国的進歩的なすべての人民階層を一つにまとめ、国内のすべての少数民族、すべての宗派、結集できるすべての勢力を団結させた。わが党は、民族の共通の敵に敵対するすべての勢力を味方につけ、広範な民族統一戦線をつくり出し、中立化させうるすべての勢力を中立化させて、革命の鋒先を帝国主義侵略者とその手下に向けた。革命が達成した成功は、わが党が追求した正しい統一戦線政策から切りはなすことはできぬ。

経験が示しているように、統一戦線政策を遂行するとき、右翼的傾向にも「左翼的」傾向にも警戒し対決せねばならぬ。

統一戦線は、対立物の統一であって、そこには、はっきりした共通の闘争綱領にもとづいて相互に同盟しあうさまざまな階級がふくまれている。したがって、無階級の統一戦線など考えられぬ。原則に忠実な路線をとるためには、統一戦線政策に関連するすべての問題を階級の立場からとりあげ解決する必要がある。いろいろな階級があるが、それぞれの利害が本質的に類似している場合もあれば、利害関係の結びつきがある程度までに限られる場合もある。どの階級も、自分自身の利益のため、かつ共通の利益のために、統一戦線の中で他の階級と力をあわ

せるのである。のみならず、共通の利益そのものも、各階級がそれぞれ独自の視角からとりあげるものである。プロレタリアートの場合は、その歴史的な地位から、その階級的利益と共通の民族的利益は、完全に一つになっている。しかし他の階級の場合は、それぞれの利益と共通の民族的利益は、ある点では一致するが、ある点ではくいちがう。したがって統一戦線の各成員のあいだでは、統一を維持し、その強化に努力しながらも、ちがった階級を代表するいろいろな観点のあいだで、必然に闘争が起こらざるを得ない。闘争を伴わない一面的な統一は、実践上統一の破壊と統一戦線の解体にみちびく。原則に忠実な闘争、つまり共通の政治綱領にもとづきその実現をめざす闘争のやり方さえ心得れば、それは統一を破ったり統一戦線を弱めたりするどころか、統一を強め統一戦線をかためるただ一つの道を歩むことになる。

わが党は、革命の指導者であり、共通の民族的利益を全面的に代表する政治路線の立案者であって、当然に統一戦線の指導者と認められてきた。革命の利益と民族の利益にとっては、統一戦線の内部でわが党の指導的役割を持続的に高め強めること、党独自の政治路線と党独自の組織を堅持すること、党の役割を低めたり、党を統一戦線のなかへ解消したりするすべての傾向に反対することが必要である。統一戦線の中で党の指導性を堅持し、統一戦線を強化する鍵は、たえまなく労農同盟を補強することである。労農同盟をしっかりとした土台としない限り、真の民族民主戦線はあり得ないし、それをひろげることができない。

わが国のようにかつて植民地国であった国の小ブルジョアジーは、大きな革命的熱情を示す。とりわけ知識人や学生のさまざまの階層は、愛国心に燃え、民族のすばらしい文化的伝統の擁護と、帝国主義者や封建主義者にさげすまれてきた高貴なベトナム人特有の精神的宝の復興に熱心である。彼らは、みずから立証してきたように歴史の意識に富み、事件の動向に敏感である。彼らは、労働者農民の革命の高揚によって目ざまされ刺激されて、ますます数多く革命の隊列にくわり、とりわけ都市において人民闘争の中で重要な役割を演じてきた。

帝国主義に痛めつけられてきた民族ブルジョアジーも、ある点では愛国的である。かれらは、民族解放闘争に一定の寄与をしてきた。歴史的にはまったく時代おくれであることがわかった資本主義が、いま、まさにわが国土でその憎むべき反動的特徴を新旧植民地主義の形でみせびらかしている。社会主義は、ますます明らかに人類社会の発展の不可避の動向となっている。こうした歴史のつながりの中で、かつ大衆の強力な革命運動と革命の偉大な成果の前に、民族ブルジョアジー出身の一定の知識人や、さらには一部の民族ブルジョアさえ、とりわけその子弟が、時代の動向に目ざめ、だんだんにその立場を基本的に変化させるようになってきた。彼らは一歩一歩労働者農民の側にうつり、あたらしい時代の民族独立と民主主義の道をとっていき

わが党は、基本勢力である労働者農民に依拠し、階級関係に起こった変化をそれぞれの時期

に正確に評価しつつ、打倒すべきもつとも危険な敵をえぐりだし、きわめて柔軟な戦術を適用し、たえまなく民族統一戦線をひろげ、統一戦線の各組織の中へ、あるいは革命の一定の当面の具体的な的をめざしたさまざまな形態の統一行動の中へ、つぎつぎとあたらしい勢力を引き入れてきた。

わが党は、こうした統一戦線政策を遂行しつつ、一方、敵の陣地と影響力を弱め、革命の力を最高度に増大させ、革命の前進に道をひらくために、敵の隊列のなかの矛盾を最大限に利用し、敵を分断し、最大限に孤立させることをゆるがせにはしなかった。

敵の内部抗争を利用することは、プロレタリア革命において戦略的意義ある諸問題の一つである。

資本主義が不可避的に崩壊し、社会主義にとってかわられるのは、資本主義を打倒するためプロレタリアートがおこなう闘争の結果であるとともに、資本主義的生産制度とブルジョアジーの内部にあつて資本主義体制をだんだんに弱らせる内部矛盾の結果である。

レーニン主義は、帝国主義時代の世界革命戦略を練りあげるために、三つの基本的な矛盾、すなわち、プロレタリアートと資本の矛盾、被抑圧民族と帝国主義の矛盾、帝国主義者自身のあいだの矛盾を出発点とした。十月革命のあと、もう一つの基本的な対立があらわれた。すなわち二つの世界体制、社会主義体制と資本主義体制の対立である。こうした矛盾の全体として

の展開が、革命と反革命のあいだの世界的規模での力関係をつくりだしている。

共産主義者は、敵の隊列内の矛盾から起こるかもしれないものについていかなる幻想もいдаかず、また受身で待ちうけたりはしない。のみならず、敵の部隊は人民による行動のまえに、革命に対抗して「自分たちの隊列を詰める」ことを夢みつつ内輪げんかをとりつくりおおうとするものであることをわれわれは知っている。しかしいっそう基礎的な真理がある——「資本主義的所有は彼らを解体させ、彼らを同盟者から野獣に変えた」^(註4)のである。

われわれは、敵の隊列内の対立に望みをかけるどころか、こうした矛盾の発展も、これをどこまで利用できるかという限界も、結局のところは革命の現実の力によってきまるものであることを十分に知っている。ほんとうに人民的なすべての革命の経験が示しているように、革命勢力が力強く成長し革命の波が高揚すればするほど、敵の隊列はますます矛盾によって引き裂かれ、ますます分裂しやすくなり、最後には、敵のさまざまな派閥のあいだであらゆる妥協を不可能にするまで、そして革命情勢の成熟のまぎれもない徴候の一つとなるまで、こうした抗争が激化するときがくる。このとき革命が勃発し、敵の支配は決定的戦闘のなかで打倒される。

わが国の革命の一つの特徴は、それがつねに強敵帝国主義に直面せねばならなかったこと、多くの場合一つではなくていくつもの敵と同時に対決せねばならなかったことである。このよ

うな状況の中でわが党は、つぎのようなレーニンの賢明な勧告を創造的な仕方でも適用してきてきた。「力がまさっている敵をうちやぶるのは、最大の努力をかたむけてはじめてできることであり、敵のあいだにある裂け目は、どんなに小さい裂け目でも、とことんまで、慎重に、注意深く、たくみに、かつ義務的に利用することによってはじめてできることであり（……）、また、大衆をたとえ一時的で、動揺し、不安定で、信頼できず、条件つきの同盟者であっても、同盟者として味方につける機会^{注5}は、どんなに小さい機会でもとらえることによってはじめてできることである」。

わが党は、敵の内部矛盾を利用し、敵を分断し孤立させるために、原則を堅持しつつ、きわめて柔軟で賢明な仕方でもさまざまな戦術を用いてきた。八月革命のまえにわが党は、抗日救国運動を大きく促進するために、まさに時機を得た仕方でも日本とフランスのあいだの致命的な抗争を利用し、日本の降伏後は、人民の先頭にたち、この機会をとらえて勝利の全面的反乱を起こさせた。八月革命のあと革命権力はまだおさなく、われわれは内外の敵がくり出した深刻な危険に直面し、情勢はまさに「一髪千鈞」ともいふべきとき、ホー・チ・ミン大統領を先頭とするわが党は、原則では厳格、戦術では柔軟な、見通しはきわめてたしかな政治路線のおかげで、この国に一見こえがたいと思われた無数の困難をのりこえさせた。われわれは、フランス植民地主義者と対決するのに手をしばられないために、蒋介石と一時的に妥協したこともあ

るし、蒋介石軍を追いだし、反動とその手下を一掃するために、フランスと妥協したこともある。このようにして、わが勢力を強化し、党が不可避であることを知っていたフランス植民地主義者の侵略にたいして全民族的な抵抗を準備する時間をかせいたのである。こうしたきわめて明快な動きは、わが国の革命史の中で、敵の隊列内の矛盾を利用し、原則を堅持しつつ譲歩をあたえるというレーニン主義の戦術のすぐれた実例として語りつがれるであろう。

革命の大業への限らない忠誠、民族と人民を解放する鉄の決意、大衆の力へのかたい信頼、これらすべての徳性がずばぬけた政治的賢明さ、ずばぬけた政治的眼識と結合されたもの、これこそ、革命を休みなくあたらしい陣地へ前進させるために敵の内部矛盾を利用するという戦略的原理を創造的、効果的に適用するのに必要なものである。

注1 『ホー・チ・ミン選集』、「邦訳第三卷、四五二ページ」

注2 エン・バイ反乱——一九三〇年二月民族主義政党であるベトナム国民党がおこした反乱。

注3 『ホー・チ・ミン選集』、「邦訳第三卷、四二七ページ」

注4 『レーニン全集』、第三〇巻、「邦訳」、「ロシア共産党第九回大会」四六三ページ」

注5 『レーニン全集』、第三一巻、「邦訳」、「共産主義内の『左翼主義』小児病」五八ページ」

2 革命行動の原則と方法

革命を勝利にみちびくために第一義的に重要なことは、全般的方向と戦略目標、各時期の特殊な方向と特殊な目標をただしくきめることである。しかし、方向と目標の決定におとらず重要なのは、ひとたびこうした決定が下されたとき、これをどのようにして実行するかの問題である。つまり、どのような道をたどるか、どのような形態を採用するか、どのような手段を用いるかである。経験が示すように、はっきり規定された方向や目標がないからではなくて、本質的には革命行動のための適切な原則と方法がなかったから、革命運動が足ふみしあるいは失敗することさえある。

革命行動の方法は、革命の敵をもっとも有利な仕方でも打ちやぶり、革命ができるだけ早くその目的を達成できるようにすることがねらいである。ここでは勇氣のほかに知恵が必要である。これは科学であるだけでなく一つの芸術である。

革命行動の方法という分野ほど、革命家にたいし高い創造精神を要求する分野はない。革命は創造である。構想力と発明力なしに革命は成功することはできぬ。革命をおこすのに、どんな状況、どんな時期にもびったりした単一の公式など存在したこともないし、これからのない

であろう。あたえられた一つの方法は、ある国では適切かもしれないが、他の国では不適である。あるときある条件のもとでは正しい方法も、他のとき他の状況のもとでは誤りであるかもしれない。すべては具体的、歴史的条件下にかかっている。レーニンが述べた。「マルクス主義は、闘争形態の問題を絶対的に歴史的に検証することを要求する。この問題を具体的、歴史的状況から切りはなして扱うのは、弁証法的唯物論の初歩を理解していないことを示す。(……)一定の運動の一定の発展段階における具体的な状況を綿密に点検せずに、特定の闘争手段を採用するかどうかの問題に可否を答えようとするのは、マルクス主義の立場を完全に放棄することを意味する。^(註1)」

ある方法やある闘争形態は、それがあたえられた具体的状況の要求を全面的に満たすとき、それが適用される状況に完全に合致しているとき、それが革命勢力、進歩勢力を奮起させ、行動に立ち上がらせることができるとき、それによって敵の弱点を徹底的に利用できるとき、そしてこれらすべての理由によって、そのときの力関係を前提として最大の成功が可能と思われるときに、はじめてもっともすぐれ、もっとも賢明なものと考えることができる。

一世紀をこえる革命闘争の結果、国際プロレタリアートは貴重な経験の宝庫を打ち立てている。われわれが具体的、歴史的観点を身につけ、自国の独特の特徴を十分に考慮するのであれば、外国で得られた革命の経験についてわれわれがより多く知れば知るほど、自国で革命の発

明力を發揮する可能性はますます大きくなる。わが党は、闘争を遂行しつつ、わが党がもっている革命知識の蓄積を豊富にし、政治指導において党の構想力と熟練を休みなく発達させる方法を心得ている。これは、われわれ自身の革命から得た経験をたえまなく吟味し、総括し、それに改善をくわえることによってだけでなく、ベトナム革命の特殊な条件に十分注意しつつ、外国で得られた革命経験を注意深く慎重に選択的に研究することによってである。

革命家である以上は、日常政治の中であれ、革命闘争の実践の中であれ、どのような仕方にせよ、またどのような状況のもとにせよ、最終の到達点を見失ってはならぬ。これは原則の問題である。小さい日常の利益と当面の目標をめざすたかいたか「すべて」と考え、最終の到達点を「ゼロ」と見なし、「運動の現在のために将来を犠牲とする」のは、最悪の日利見主義をさらけ出すことであり、人民大衆を永久に奴隷の境遇にしばらくつける結果になるだけである。

しかし、最終目標を理解しているだけでは、けっして十分ではない。革命の到達点をしっかりと心にとどめつつも、一歩一歩賢明な仕方、勝利してゆく方法を心得るところに、革命指導の芸術がある。革命は、人民大衆に属する幾百万の人びとの事業であり、かれらが立ち上って、巨大な暴力機構もその他の物質的精神的手段も自由に駆使している支配階級を打倒するのである。したがって、革命はつねに長い過程である。革命は、最初の数歩から最終目的まで、一つ、また一つと障害をとり除き、革命と反革命の力関係をだんだんに変え、ついには支配階級

にたいして圧倒的な優位に達するまで、困難に満ち複雑きわまる、曲折した多くの闘争段階を必然にへていかねばならぬ。敵を押しもどし、革命のために一つ、また一つと成功をもぎとり、前進して敵に全面的な敗北を味あわせ、革命に完全な勝利を確保すること、これが革命闘争の法則である。

こうした理由から、最終の到達点にいたる長い道程では、それぞれの時期におこなわれる戦闘をめぐる具体的条件を十分考慮することを怠ってはならぬ。すなわち、革命の側についていえば、いつ、どのような状況で大衆が行動にはいりつつあるのか？ さまざまの社会的勢力がどのように配置されているのか？ 相手の側についていえば、敵の強味と弱点はなにか？ 敵はどのように策動し、なにをねらっているのか？ などである。レーニンがつねに要求したように、共産主義者は、国内情勢だけではなく世界の政治経済の全要素、国内だけでなく世界中のすべての階級勢力とこれら諸勢力間の関連性をたえず注視し、できるかぎり客観的に吟味せねばならぬ。革命家は、具体的な動く現実のこうした要因全部に十分注意しないとすれば、せいぜい闘争の終局目標を知っているだけのことで、それを達成する手段はなに一つもたないことになる。このような革命家は、その到達点に達する道も方法も実践上のやり方もわからず、戦術的戦術的に革命の道案内をするうえで重大な誤りをおかしやすい。

思慮深く一歩一歩勝利をおさめるにはどうするかを心得ているとは、一定のとき、一定の状態

況のもとで、もっとも適当な具体的な目標を設定し、客観的法則の力にもとづいて、最大の成功をおさめるようにたまたかいをみちびき、革命のいつその前進に道をひらき、終局の勝利のためにもっとも確実な見通しをひろくにはどうするかを心得ていることである。

わが革命は、このような一歩一歩をたどった。「一九四五年の」八月革命の勝利は、それに先だつ一九三〇年〜三一年、一九三六年〜三九年の運動や一九四〇年〜四五五年の愛国の波がなかったとすれば、不可能であったにちがいない。

一九三〇年〜三一年運動ががちとったものは、そののち帝国主義者と封建地主の残忍な白色テロルによっても抹殺できなかったものであるが、この運動のきわめて偉大な成果は、わが党によって代表されるプロレタリアートの革命にたいする指導権と指導能力を、この運動が実践のなかで確認した点と、この運動が、農民層にプロレタリアートへのゆるぎのない信頼をそそぎこむと同時に、労働大衆に自分たちがもっている巨大な革命的底力への確信をつぎこんだ点とにある。プロレタリアートの革命路線の正しさと労働者農民の革命的能力のすばらしさを実証したこの運動は、一方では、民族ブルジョアジーと小ブルジョアジーの冒険主義、改良主義、妥協への傾向、動搖、中途半端性を暴露し、また同時に、地主階級と買弁ブルジョアジーの極度に反動的な性格を全人民の前にさらけ出した。それは、革命のそののちの全発展にとつて決定的な意味をもつ最初の成功の一步であった。事実、労働者農民がずばぬけた革命的エネ

ルギーを發揮した一九三〇年〜三一年の大地をもゆるがす階級闘争がなかったとすれば、一九三六年〜三九年の高揚はあり得なかつたであらう。

合法的半合法的行動が隠密の非合法活動と結びあわされていた一九三六年〜三九年のような時期は、植民地国ではまれにしかみられない。フランスで人民戦線が政権をとったとき、わが党は、これを革命を一歩前進させるのに有利な機会であると見たが、党がこの機会を利用できたのは、党が早くも一九三〇年〜三一年に強固な基本的な戦闘陣地を築いておいたからである。「具体的な政治目標は具体的な状況の中に設定せねばならぬ」^(注2)というレーニンのすすめに

したがって、党は、一九三六年〜三九年の時期の当面の課題として、反動的植民地主義者に反対し(植民地主義支配全体の打倒ではなく)、ファシズムと戦争に反対し、民主的自由とまともな水準の生活と平和をめざす闘争をかかげた。党は、こうした要求がけつして最終の到達点でないこと、改良によって古い社会制度を根本的に変革できるものでないこと、結局は立ち上がって帝国主義と封建制の支配を強力によって粉碎し人民の側に権力をかちとるのでなければ、革命の目標を達成できないことを知りぬいていた。しかし、レーニン自身が述べたように、二月革命(一九一七年二月)がもたらした民主的自由がなかったとすれば、十月革命にみちびいた大きな規模と深さの大衆闘争の口火を切ることは不可能だったにちがいない。おなじような言葉で、一九三六年〜三九年の民主運動がそのあと八月革命の勝利にあたえた影響について述べ

ることができよう。それはフランス支配のもとでは先例のないはげしい大衆の扇動の時期であった。党は、フランス植民地主義者が設立した「人民代表議会」や「植民地評議会」をわれわれの利益のために利用することをふくめて、組織と活動の柔軟で多様な幾多の形態をつうじて数百万の人民とりわけ労働者農民を政治闘争に動員し、これに政治教育を施した。こうした政治闘争は都市と田舎をまき込み、工場、農園、鉱山から農村へ、部落へとひろがり、一九四〇年～四五年の時期のあたらしいはげしい闘争に大衆をみちびき入れる条件をつくりだしたのである。

第二次世界大戦の勃発後、フランス植民地主義者は、屈服してインドシナを日本のファナシトに提供し、わが人民の首には二重の首かせがおかれることになった。党は、この時期には抑圧と搾取と戦争が人民をますます強力な革命行動に立ち上らせ、革命は不可避的に燃えあがるものと考えた。ホー・チ・ミン大統領の発意にもとづいて、党は、民族民主勢力をもっとも幅広く結集する目的で、ベトナム統一戦線を創設し、同時に革命根拠地の建設と最初の武装部隊の創設に着手し、「フランスとたたかい日本を追い出せ」運動を発足させ、遊撃戦を拡大し、部分反乱を積みかさねた。党が予見したとおり、日本がフランスの足をすくったとき、党は時機を失せずすばやく切りかえて抗日救国運動を開始した。これは、沸きたつような強力な大衆動員の時期であり、このとき政治勢力は、町でも田舎でも、平地でも山地でも、いたるところ

で武装軍と肩を組み、広がりる点でも深さの点でも発展をとげた。そして来るべき総反乱にそなえて全面的な準備がおこなわれた。

八月革命のかがやかしい勝利は、一九四〇年～四五年の時期の民族解放運動の結果であるばかりではなく、一九三〇年～三一年と一九三六年～三九年の二つの総稽古によってはぐくまれ準備された革命過程の帰結でもあった。

革命闘争は、政治、経済、文化など社会生活のすべての分野で休みなく展開する。だから、一步一步勝利するというのは、それぞれの闘争舞台で敵の政策をつぎつぎ挫折させ、敵のたくらみと策動を一つ一つ打ちやぶる目的で、大衆を動員し組織することであり、そのとき、その戦闘で達成できるはずのすべての目標を指し示し、なんとしてもこの目標に到達し、これによって運動を前進させ、より高い水準に押しあげることである。成功は成功をよぶ。この点成功にまさるものではなく、一定の分野でかちとった成功は一つ一つ他の分野の闘争を促進する。ゼロから出発した運動は、このようにして日ましに高い水準に発展し、うるたえる敵をあの隅この隅から追い出し、運動の部分的な成果をかため、革命の戦場を全面勝利にいたる方向へぐんぐんひろげていく。ベトナム革命の場合、権力の掌握にあらわれているのは、部分反乱から総反乱への進展というこうしたきわだった特徴であり、これこそ「一步一步勝利する」方法をわが革命の特殊な条件に適用したものである。

要するに、この方法は、目的の確固不動と具体的な動く現実の明敏な把握とを統一したものにほかならない。それは、原則の確固さと政策の柔軟さを弁証法的に結合する方法をわきまえる芸術であり、漸次的変化から飛躍への発展法則を革命指導の仕事に適用する芸術である。あたらしい課題をさだめ、あたらしい計画をたてる時、大胆さと決断を示さねばならず、やがておこなわれる行動の結果と客観的情勢の発展動向として可能なすべてのものを、すくなくとも大まかに予見できねばならぬ。実践の中では、あたらしい要因やあたらしい可能性がたえず生まれてくるものであるから、これらを考慮に入れて自分の動きを変更しあるいは是正し、戦略上戦術上の道案内が変化しつづける情勢とかならず歩調をあわせるように、あたらしい計画をすみやかに練りあげねばならぬ。このようにしてはじめて、わが道をたじろぐことなくたかい進み、革命運動と力関係の中であちらこちらに大小の飛躍をふくむ漸次的過程をとおしぬけ、最後の勝利への決定的な場面にむかうことができる。

レーニンは、政治的受動性のすべての徴候にも主観主義や主意主義にも断固として反対した。レーニンは、共産党が「客観的情勢とその進展を分析するときの完全な科学的明快さと、(注3) 大衆の革命的なエネルギー、創造性、創意が演じる役割の絶対的な承認とを結びつけること」
によって、党の政策と戦術をつくりあげるよう要求した。

革命はクーデターではない。それは陰謀の成果ではない。革命は大衆の事業である。したが

って、大衆の部隊を結集し、動員すること、革命の政治軍を創設し、拡大することが、基本的、決定的な問題である。この課題には、すべての時期をつうじ、革命情勢がまだあらわれないときも、革命情勢がすでにおこり、熟したときも、たゆまず持続的に応えていかねばならぬ。そのためには、日常生活のなかで大衆にとけこみ、大衆がいるところではどこでも、敵の組織の内部分でさえ、必ず活動せねばならず、敵陣営とわが陣営の双方の情勢に歩調をそろえ、敵のすべてのたくらみ、動き、能力を正しく評価し、敵の隊列におこっているすべての変化を正確に見定め、同時に大衆の心の状態、希望、底力を十分に知っていなければならぬ。このようにしてはじめて、痛烈であるとともに時機に適した適切なスローガンを持ちだすことができ、このスローガンがもっとも広範な大衆を行動に立ちあがらせ、大衆を低い闘争形態から、高い闘争形態へみちびき、それによって、大衆の政治意識をたえまなく高め、革命軍を規模の面でも厚みの面でも建設していくことができる。

まだ権力をにぎらず、権力の掌握をめざしているときは、革命にとって、また大衆にとって利用できるただ一つの武器は組織である。プロレタリアートが指導する革命運動の刻印は、その高度の組織水準である。大衆が決起して支配階級を打倒する点まで大衆をみちびくことをめざすすべての活動は、結局のところ組織し、組織し、組織することに帰するといつて差支えない。政治的宣伝扇動の目的も、実は大衆を組織することである。大衆をなんらかの仕方で組織

することに於てはじめて、大衆を教育し、革命の巨大な力を築く条件がつくりだされる。なぜなら、ひとたび組織されたとき、大衆の力は百倍も強まるから、大衆が組織されるのは戦闘のためであるが、また逆に、大衆が組織され教育され、革命勢力が拡大するのは、戦闘をつうじてである。したがって宣伝と組織と闘争は、決定的な飛躍にそなえて大衆政治軍を形成し拡大することを共通の目的として、手をたずさえてゆかねばならぬ。

わが党は、すべての時期をつうじ、すべての機会をとらえ、あらゆる適当な手段と適切な形態で大衆を組織してきた。党は、われわれ自身の部隊を建設し拡大しつつ、大衆をして大小を問わず目前の政治的事件に関心をもたせ、行動に立ちあがらせ、これによって敵を混乱と受け身に追いこむすべを心得ている。党の活動がもっとも厳格な隠密性を必要とするときでさえ、党は、多様な、幅広い、柔軟な形態で、あらゆる組織を考案してきた。それは、大衆を革命行動に結集させ、低い闘争形態から高い闘争形態へ案内し、それによって大衆を教育し、革命の隊列をひろげることをめざしていた。党は、つねに非合法行動を基礎としつつ、これを合法行動のあらゆる可能性とたくみに結びつける。一定の状況のもとでは、党は合法性をめざす全面的な運動をはじめられるかもしれないが、これは権力への「合法的な」道についてならぬかの幻想をいだいてみずから欺き、このような幻想を大衆の中にうえつけるためではなく、大衆を教育し動員する場をひろげ、革命の影響力を大きくするためである。このような瞬間には、党は、

しりごみや臆病に対決せねばならないが、同様に、組織の隠密性という党原則に違反する合法主義や、党と大衆の中核組織とを建設し拡大する活動の放棄にたいして警戒し、これを克服せねばならぬ。合法主義は、たえず警戒し、時機を失せずたかたかといかないと、情勢に突然の変化がおこり、敵が革命を攻撃し、党が非合法活動へ敏速、完全に切りかえねばならないとき、きわめて危険な結果にみちびく恐れがある。

組織し闘争し、闘争し組織し、ふたたび闘争する……。一つの戦闘がまたつぎの戦闘にみちびく。大衆は、ひとたび戦闘にはいれば、ますます政治的自覚を高め、自分自身の経験によって真実に目をひらかれ、どの道をとるべきかを教えられる。ここでスローガンの特殊な重要性を指摘しておきたい。革命に戦略上戦術上の道案内する芸術も、闘争を方向づける芸術も、なによりもまず、情勢とみあった、切れ味鋭い、びったりしたスローガンにあらわれる。

経済的スローガンは改良主義的で、政治的スローガンだけが革命的だという単純化しすぎた考えをもつてはならぬ。政治的スローガンでも改良主義的性格をもったものがあり得るし、経済的スローガンでも革命的内容をふくんだものがあり得る。問題は、いつ、どのようなつながらの中で、なにを目標に、そのスローガンが出されたか、である。真に革命的な党、革命の終局目標にゆるぎなく献身する党であれば、すべてのスローガン、すべての組織形態と闘争形態に、なんらかの仕方で革命の封印を押す能力がある。こうしたスローガンや組織形態や闘争形

態には、政治色がきわめてうすいものも含まれるが、それらは情勢がまだ全面的な革命行動に熟していないとき、大衆を結集するのに必要と考えられるものである。

党は、すべての時期をつうじ、とりわけ一九四五年の八月革命のまえの時期に、当面の目標と基本目的を結びつけるため、行動のスローガンと宣伝のスローガンをたくみに結合した。具体的な情勢にびったりしたスローガンであれば、それによって全運動を盛りあげることでもできる。そのいきいきとした実例は、八月革命の準備期にわが党がかかげたスローガン「備蓄米を手に入れ、飢饉を根だやしにせよ」である。これは、恐ろしい飢饉がバク・ポ「北部」とチュン・ポ「中部」北部で荒れ狂っていた時期に出され、大衆のきわめてさし迫った熱望にこたえるものであった。これによって大衆の怒りと憎しみの炎をかきたて、大衆を決起させ、燃える革命的熱情をもって反乱と権力獲得に立ちむかわせた。

大衆を決定的な戦闘にまき込む時期が早すぎたり遅すぎたりしないために、宣伝のスローガンと行動のスローガンは区別せねばならぬ。宣伝のスローガンも行動のスローガンも、闘争の進展にみあうようにたえず変えていかねばならないが、とくに行動のスローガンは、日常の努力と密接に結びついており、したがって一時間ごとに変わりさえするほど、極度の柔軟性をもたねばならぬ。情勢の発展につれて、だんだんに行動のスローガンの水準を引き上げ、最後に時期が到来すれば、いままでは宣伝のスローガンであったものを断固とした直接行動のスロー

ガンに変えねばならぬ。革命が大衆を決定的闘争に引き入れる時期が遅すぎても、早すぎても、革命にとって危険である。どのような状況のもとでも、いちばん肝心であり、誤りをおかさないためにいちばん基本的な保障となるのは、一般的な推論においても、行動のためにくだす決定の一つ一つにおいても、具体的な現実を徹底的にとらえることである。革命期には、事件はきわめて早い速度で、きわめて複雑な仕方で行進する。この点で、レーニンは指摘している。「具体的なものかわりに抽象的なものをおくのは、革命におけるもっとも大きくもっとも危険な罪悪である。」^(注4)

レーニンは、歴史の急激な曲り目に立ってあたりらしい情勢に適應せず、昨日はただしかったが今日は無意味なスローガンに固執する人びとを非難した。

革命が勃発し勝利するためには、革命情勢が行きわたっていなければならぬ。革命情勢は、客観的要因も主観的要因も含めて必要な要因全部の組合せの産物である。革命を受け身で待ち構える傾向も、「中間段階を飛びこえる」過熱した傾向も、ともに警戒せねばならぬ。

第一次世界大戦の前後には、革命情勢も革命の勃発や勝利も、全体として帝国主義がひきおこした世界戦争となんらかの仕方で行きついていた。しかし、戦争は革命の自然的な源泉だとか、必要条件だとか、したがって革命をおこすには戦争がはじまるまで待たねばならぬなどという結論をひき出してはならぬ。革命は、なによりもまず、ある国で極度にまで激化した階級矛

盾の結果である。かつて帝国主義戦争が不可避であったとき、戦争が、客観的には各国で革命的危機を促進する結果となった。この情勢を利用して共産主義者は、「帝国主義戦争の革命的内乱への転化」を主張した。

現在の国際情勢は、第一次世界大戦前後のそれとは根本的にちがっている。いまや社会主義世界体制と、社会の社会主義的変革をめざし帝国主義にたいしてたたかっている勢力とが、人類社会の歴史的発展の本質的な内容、方向、特徴を形づくりつつあるとき、帝国主義のくさりの中の残った部分で弱い環を破る可能性は、いままではなく高まり、同時に世界戦争を防ぐ現実的な可能性があらわれている。世界のプロレタリアートと人民と民族の基本的な利益は、各国で、革命を前進させつつ、世界平和をまもることにある。これら二つの目的は、それぞれ互いに前提条件となり、有機的に結びついている。世界革命の戦略攻勢の姿勢を十分意識している共産主義者が、世界革命のすべての潮流、平和・民族独立・民主主義・社会主義をめざしてたたかうすべての勢力を一つにあわせた統一戦線の樹立に成功さえすれば、そして、帝国主義者がおこすすべての侵略戦争を打ちやぶり、帝国主義者の好戦的な動きやたくらみをも一つ一つ失敗させ、帝国主義を一步一步後退させ、一つ一つたたき伏せ、最後に帝国主義を全体として打倒することを決意さえすれば、上記の二つの目的は、二つとも完全に実現できる。

わが国の南部の革命は、このような正しい前進の道を示している。それは、世界戦争がおこなわれておらず、実は世界平和を守っていかねばならぬときだのに、それにもかかわらず革命が燃えあがり、かがやかしい成功をおさめ得ることを実証している。反帝革命を強化することは、平和の擁護と両立しないどころか、真に効果的に世界平和を擁護するためには、このようなきわめて基本的な方向で帝国主義にたいし攻勢をかけねばならないことが実践の中で証明されている。逆に、世界戦争を防ぎ、平和を守ることは、これまた帝国主義に攻勢をかけ、すべての国ぐんで革命の前進にいつそう有利な客観的条件をつくり出すとき、たどらねばならぬきわめて重要な方向である。

南ベトナム革命はまた、ファシスト独裁も革命の勃発を防ぎ得るものでないことを実証している。わが国の南部でかいらい政府が人民にたいし野蠻きわまるファシシヨ的手段に訴えざるを得なかつたとき、それはかれらが政治の分野で決定的な失敗をなめたこと、革命情勢が熟していたこと、革命は勃発し得ることを意味したのであり、事実、革命は勃発したのである。

革命情勢がゆきわたっているとは、権力獲得の問題が直接さし迫っていることを意味する。どのようにして権力を獲得するかは、各国の特殊な条件に依存する。しかし、どのような状況のもとでも、権力へのただ一つの道は、革命にあって、改良にはない。

革命は、階級闘争の頂点として出現し、被抑圧階級は、政治権力の問題を解決するために、強力をもって支配階級に対決するのをつねとする。強力は、さまざまの形態であらわれ、さま

さまの形態で行使されるであろうが、要は、革命的強力はかならず二種類の勢力、すなわち武装勢力と政治勢力に依拠し、かならず二つの闘争形態、つまり軍事闘争の形態と政治闘争の形態および両者の組合せを含むといつてよい。ベトナム革命の経験は、革命が勝利するためには、政治勢力のほかに武装勢力をもたねばならないこと、軍事行動と政治行動を、賢明に、かつ、一定の場所、一定の時点の具体的情勢に応じて、遂行するすべを心得ねばならないことを示している。武装勢力を含む部隊を整備しておかないならば、敵のはげしい襲撃に抵抗することはできない。しかし強力は、武装勢力だけに依拠するものではなく、またもっぱら軍事闘争の形態をとるわけではない。政治勢力と政治闘争は不可欠である。大衆の政治勢力と政治闘争がなければ軍事行動と武装勢力によって成功をかちとることはできぬ。いうまでもなく、政治闘争のすべての形態が強力を意味するわけではない。強力を意味すると考えてもよいのは、政治権力の問題が提起されたあと、支配階級の、国法の範囲外で大衆がぐわだてる革命行動であり、支配階級の支配の打倒を直接めざし、人民のために権力をにぎることをめざしたものである。

支配階級の打倒をめざす革命的強力は、必然に大衆の、それであり、抑圧され搾取される広範な大衆のそれではなければならぬ。大衆は、党の指導のもとでは、その力と決意を数限りない仕方方で發揮することができる。最良の、もっとも革命的な方法は、情勢にいちばんびつたりした

強力形態を生みだし、組織できる方法であり、大衆の力量を最高度に動員し、それを支配階級にたたきつけ、もっとも有利な条件で革命に勝利をもたらすことができる方法である。その必要が生じたとき軍事闘争をあえて開始しなかつたり、あるいは逆に、不利な状況のもとでこのような努力にかかわることは、重大な誤りである。

一九四五年八月革命のなかでわが党は、権力を獲得するために、強力革命と反乱の法則を創造的に適用した。八月革命は、政治闘争と軍事闘争を結びつけ、政治勢力と軍事勢力のきめ細かい準備と、大衆を帝国主義者、封建地主の支配打倒の行動に立ちあがらせる好機を敏速にとらえることを結びつけた。大衆の広範な革命運動のなかで生まれはぐくまれた救国解放武装軍は、その威信において、その兵数と交戦の規模をはるかに上まわっていたが、一九四一年〜四五年の時期に大衆の愛国の高波をつくりあげるうえできわめて重要な役割を演じた。閩東軍にたいするソ連のかがやかしい勝利が、日本ファシストを無条件降伏に追い込んだとき、党は、またとないこの機会を敏速にとらえ、田舎と都市の広範な大衆の政治勢力に依拠しこれを革命武装軍と結びつけつつ、総反乱を開始し、首都とその他の都市で敵の枢要機関を粉碎し、地方における敵の行政網を解体させ、全国で権力をにぎった。

革命的強力を十二分に理解し、革命のために圧倒的優位を打ち立て、真に固く強い労農同盟を基礎としつつきわめて広範な人民大衆を指揮し、同時に、敵を極度に分断し孤立させ、敵の

抵抗力を打ちやぶり、支配階級の国家機構を解体し、そして人民権力を打ち立てるよう努力せねばならぬ。ここではすべての革命の経験が証拠だてているように、政治勢力、軍事勢力の準備のほかに、きわめて重要なひとつの問題は、適当な瞬間をとりえることである。この瞬間は、国内の革命勢力によってつくり出されることもあれば、海外の条件によってつくり出されることもある。十分な革命勢力がなければ、われわれは有利な機会をつくり出すこともできないし、たとえその機会がおとずれても時機を逸せずこれをとらえることもできない。したがって、決定的なことは、われわれに有利になるように局面をかたむけ、構えの点でも力の点でも革命の側に決定的な優位をきずくことをめざして、持続的に努力することである。さて、いつ革命の炎が燃えあがるであろうか？ どのような火花が火薬庫に火をつけるのであろうか？ 革命がひとたび確固とした構えと力をもち、敵が追いつめられると、日常の政治生活と社会生活は、われわれに大運動を燃えあがらせるのに有利なあらゆる機会と状況を提供し、問題はただ一つ、指導者の特殊な明敏さと政治的眼力だけにかかることになる。レーニンが述べたように、全体として歴史は、とりわけ革命の歴史は、つねに最良の政党やもっとも進歩的な階級のもっとも階級意識ある前衛が想像するよりも、はるかに豊富であり、はるかに変化に富み、はるかに多様であり、はるかにいきいきとし、はるかに独創的である。だからこそ、革命のあゆみの中で、指導者が基本的な方向づけと一定の基本的な要因と条件を十分にぎざぎざしているこ

と、指導者があえて行動すること、これだけで十分な場合が多い。行動が進展すれば、ものごとはその発展の可能性と動向を明らかにし、同時に歴史をつくる大衆のかぎりない創造力が、われわれにすべての実践的な問題を解決する方向と方法を提供するのである。

注1 『レーニン全集』、第一巻、「邦訳」、「バルチザン戦争」二〇七ページ]

注2 同前、第九巻、「邦訳」、「民主主義革命における社会民主党の二つの戦術」八〇ページ]

注3 同前、第一三巻、「邦訳」、「ボイコットに反対する」二三三ページ]

注4 同前、第二五巻、「邦訳」、「スローガンについて」二〇六ページ]

3 南ベトナム革命と抗米救国の人民戦争

わが人民は、全国で権力を掌握した直後、アメリカ干涉主義者の援助のもとにふたたびわが国土を侵略したフランス植民地主義者にたいし抗戦をおこなわねばならなかった。この神聖な第一次抗戦は、八月革命のつづきであった。それは、わが党に代表される労働者階級の指導のもとに、正しい政治軍事路線にもとづいておこなわれた、民族解放と祖国防衛をめざす戦争であった。この路線が主張したのは、全人民によってたたかわれる戦争、すなわち、主としてわ

れわれ自身の勢力に依拠し、革命大衆の強力な政治勢力と武装勢力を結びつけ、政治勢力を基礎として人民武装軍を建設、拡大する全面的な長期にわたる戦争であった。この人民武装軍が、三種類の部隊をもち、敵にたいする全人民の抵抗の中核となる。われわれは、武装戦闘を主要な闘争形態とし、これがある程度まで敵戦線の背後地域の政治闘争と結びつけ、同時に経済戦線のたたかひに大きな注意をはらった。このようにしてわれわれは、おくれた農業経済と貧弱な武装勢力しかもたず、はじめほどの国境もみな帝国主義にとりまかれていた小国につきまとう困難と弱点を克服するために、わが人民の政治上道義上絶対的に優勢な立場に全面的なもの言わたることができ、同時に、あたらしい時代の有利な要因を利用できたのである。ついに、まことにかがやかしい九年の闘争をへて、わが武装勢力と人民は、強大な帝国主義国の約五〇万におよぶ侵略職業軍を打ちやぶった。

それは驚異的な人民戦争の叙事詩であり、その圧巻であった偉大なディエン・ビエン・フーの戦闘は、二十世紀のバク・ダン、チ・ラン、ドン・ダ(注1)として民族の歴史に語りつがれ、帝国主義がうち立てた植民地奴隷制度の城壁をやぶったかがやかしい武勲として世界史に記録されるであらう。

南ベトナム革命は、八月革命とフランスの侵略にたいする抗戦との中で得た経験を、最大限に発展させ、あたらしい条件に適用した。

一九五九年終りから一九六〇年はじめにかけて、南部の抑圧体制は、深刻な危機におち込んだ。敵は都市ではまだ比較的強かったが、広大な農村地域ではもはや人民にたいし通常の支配をおこなうことができず、根拠地のかいらい政府機構は、一部門また一部門と弱くなり無力となる一方だった。人民大衆とりわけ農民は、革命情勢でわきかえり、敵と生死をかけた闘争をおこなう決意と用意をしていた。部分反乱をおこし敵の行政制度のもっとも弱い環を粉砕するために、農村の人民を決起させる条件が熟していた。

「この時機に勃発した「一斉蜂起」は、重大な跳躍点となり、革命を攻勢にうつし、武装戦闘が政治行動と結びついた革命の高波を南ベトナム全土におしひろげた。革命がはげしい戦争に発展するとき、軍事闘争は日ましにその数をましてきわめて重要な役割を演じた。敵を軍事的に敗北させることは、抵抗と革命の勝利にとって不可欠である。武装闘争は、敵の軍事を絶滅させる点でも、ひいては敵の軍政治上のすべてのたくらみを破産させる点でも、直接の決定的な効果をもつ基本的な闘争形態である。しかし、武装闘争は、ひきつづいて蜂起する大衆に手をさしのべ、敵の抑圧のたがを打ちやぶり、人民の側に主権をかちとり、これを維持し、革命を前進させるために、つねに政治行動と密接に調整しあう。大衆による政治闘争も、軍事闘争とともに南部の革命のすべての段階をつうじ、この革命の成功にかんし決定的な効果をもつ基本的な闘争形態である。政治勢力は、武装勢力の基礎として役立っただけでなく、組織

された大衆政治軍に組み入れられる。大衆政治軍、それは、敵の軍事的政治的経済的勢力が集中している場所をふくめて、敵の支配下にある地域のまった中で、敵につきつけられた政治闘争の中核である。政治闘争と結合した軍事闘争は、南部の革命的強力の基本形態であり、この二つの組合せが革命的方法の基本原則である。こうした二つのきわめて効果的な攻撃の剣が、巨大な総合戦力をつくりあげる。この二つが、南部の同胞一四〇〇万の力を数倍にし、わが同胞をしてアメリカ人とそのかいらいの軍事上政治上のたくらみと動きをひとつひとつ挫折させ、それによってアメリカ侵略者の侵略の意志を動揺させ、ついには打ちやぶらせるのである。南ベトナム人民は、この二つの基本的な闘争形態を實行しつつ、アメリカの侵略軍の兵士とかいらい政権の兵士、主として後者の啓発をめざし、敵の部隊の中の政治工作を強力に押し進めてきた。これは、かれらを革命の味方につけ、アメリカ帝国主義者の「ベトナム人を使ってベトナム人とたたかわせる」きわめて悪魔的な政策を挫折させるためである。これはまた、戦略的な攻撃の武器であり、「労働者、農民、兵士、団結せよ！」のスローガンの実施、新植民地主義支配の打倒、アメリカ帝国主義者の侵略戦争の撃退をめざした南ベトナムにおける革命工作の基本点である。

革命戦争と結合した大衆蜂起、これが農村地域の部分蜂起からはじまった南ベトナム革命の発展過程である。そのあとの諸段階でも大衆蜂起は、ますます力をまし、革命戦争と密接に調整しあいつつ、ひきつづいておこった。大衆蜂起は、人民の行動の場をひろげ、人民の勢力を建設し、革命戦争を拡大させ、革命戦争にますます大きい威信をもたせた。逆に、革命戦争が発展するにつれて、それは反乱の勃発と波及にますます有利な条件をつくりだした。一九六八年春、テトにはじまった総攻勢と一斉蜂起の時期は、南ベトナムの革命過程の当然の帰結であり、軍事闘争と政治闘争の結合の頂点であった。

南ベトナム革命において戦略的重要性をもつ一つの問題は、三つの地域、すなわち山岳森林地帯、平地、都市の戦略的位置を正しく評価することである。この評価にもとづいて、軍事闘争を政治闘争に結びつけ、各地域と革命発展の各段階との特質に応じて、さまざまな程度で戦闘行動を大衆蜂起と結びつけるのである。「三つの戦略地域のすべてで敵を攻撃する」という指針は、南部の革命が用いた方法の独創的な特徴である。それは、ベトナム革命が長期にわたって得た経験を総括し、これに改善を加えたことから出てきたものである。発展の全過程をふりかえってみると、ベトナム革命がつねにその主要勢力として労働者農民に依拠し、都市の革命運動にも地方の革命運動にも大きな注意をほらい、山岳森林地帯と平地にしっかりと根拠地を建設しつつ、都市における足がかりを準備し、それによって都市でも農村でも反乱をおこしたことがわかる。

簡単にいえば、部分反乱をおこし、軍事闘争を政治闘争と結びつけ、三つの武器つまり軍事

作戦、政治行動、敵の部隊の中の宣伝扇動工作をもつて、敵を攻撃し、大衆蜂起を革命戦争と調整しあい、三つの戦略地域のすべてで敵を攻撃すること、これが南ベトナムにおける革命的方法のきわだった特徴である。これらは、杓子定規に、しゃくしじょうぎほから切りはなして適用すべき公式ではなく、きわめて柔軟な、いきいきした、相互に有機的に結びついた闘争形態、闘争様式である。人民大衆の中の数百万の人びとの力と知性と創造力を全面的に発達させてきたのは、まさにこうした革命的方法である。数百万の人びとは、攻勢に出るすべを、自分たちの勢力をたくわえ建設するすべを、有利な機会をつくりだし、ますます大きい成功をおさめ、結局は敵に全面的な敗北をなめさせるために全力をかたむけつつ、長期の闘争を遂行するすべを、つねに心得ている。

フランス植民地主義者にたいする以前の抗戦とおなじように、アメリカの侵略に反対し救国をめざす現在の抗戦は、きわめて高い段階まで発展した人民戦争である。

北部でわれわれは、アメリカの侵略者がしかけた前代未聞の海空の破壊戦争にたいし、自衛の戦争をおこなった。きわめて勇敢な四年の戦闘のちに、わが武装軍と人民は、この破壊戦争を完全に敗退させた。これはわが民族がたたかった人民戦争のあたらしい意義ぶかい前進であつた。

この勝利は、きわめて大きい意味をもつた。それは、断固として全国の革命の大後方地、社会主義北部を守り、ベトナムにおけるアメリカ帝国主義者の野蛮な侵略戦争の重要な構成部分を打ちやぶり、彼らの侵略の意志に手痛い打撃をあたえた。

それは、わが党が提起した、全人民がたたかう抗戦、全人民がになう国防、経済の再調整という路線の完全な正しさを実証した。

それは、すばらしいわが社会主義体制の強い生命力、北部の人民民主主義権力の無限の力、アメリカの侵略に抵抗し救国をめざすわが武装軍と人民のゆるぎない決意と、そのすばらしい革命的英雄主義を明らかにした。

ホー・チ・ミン大統領が指摘したように、「これは、わが党の正しい革命路線の勝利であり、わが人民の熱烈な愛国心、強い団結とたたかいかつ勝利する決意の勝利であり、すばらしいわが社会主義体制の勝利である。これは、わが国の南北二つの地域の武装軍と人民の共通の成功である。これはまた、五大大陸の兄弟諸国、友好諸国の人民の勝利である。」(注2)

南部の人民戦争は、革命戦争であり、アメリカ帝国主義者がかきたてた典型的な「特殊戦争」と最大の野蛮きわまる「限定戦争」にたいしてたたかわれた解放戦争である。

いま南部で解放民族戦線の正しい指導のもとにおこなわれている人民戦争の路線は、民族解放戦争の正義の性格と南ベトナム革命の根ぶかい人民性に由来する。この路線は、南部の人民の火のような愛国心と徹底した革命精神に依拠する。南部の人民は、アメリカ帝国主義者とそ

の手下によってふみにじられた神聖な民族の権利を守り行使するために決起する決意をかためているのである。この路線は、マルクス・レーニン主義の軍事科学と、兄弟の社会主義国が得た貴重な経験とを吸収し、これらをわが国の条件に構想力豊かに適用している。この路線は、外国の侵略にたいする抵抗というわが民族のかがやかしい伝統と、われわれの祖先の軍事的練達を継承するとともに、全国的な反乱と人民戦争の中で、ベトナム革命が得たきわめて豊富な経験を継承し、これをきわめて高い水準まで高めたのである。

南部の人民戦争は、「人民のための人民による」戦争であり、全人民によっておこなわれ、南部の革命的方法を規制する一般法則の力にもとづいてきわめて高い水準まで引き上げられた全面戦争である。それは、軍事戦闘と政治行動をかねあわせ、大衆の反乱運動に由来する戦争である。この戦争は、一貫して攻勢戦略の思想によって息吹きをあたえられている。この戦略思想は、南ベトナム革命が一九五九年〜六〇年の「一斉蜂起」の高揚をつうじて攻勢に転じたとき以来、この革命をみちびいてきたものである。「特殊戦争」とたたかう時期に南部の革命戦争がとった攻勢は、政治上道義上絶対的に優勢な立場に依拠し、侵略者や売国奴にたいし、自分たちの生きる権利を奪いかえすために決起し、生死をかけてたたかうことを決意した革命大衆の圧倒的な強さに依拠していた。この攻勢は堅持されたが、軍事と政治と二つの武器によってますます強打が加えられたおかげで、その形態はますます高度になり、その性格は局地的

なものから全体的なものへ進展した。「限定戦争」と対決するときこの攻勢は、戦場のすべての戦略地域におけるわが軍事政治勢力の展開に依拠する。この展開によって南部の武装軍と人民は、アメリカ帝国主義者の「特殊戦争」を打ちやぶったあと、主導権を維持し、攻撃をつづけるため、強力な戦闘陣地と十分な力量をあたえられるのである。革命戦争の全般的進展は、攻勢戦略が不断に適用されたことを明らかにしている。つまり、きびしい、くりかえしおこなわれ、ますます激しくなる一連の強襲が漸進的な歩調と跳躍を交代させつつ、ますます高度の形態をとるのである。この過程は、ある場所ある時点では防衛的性格をもつかもしいないが、それは攻勢の継続のため道をひろくことをめざした一時的な戦術的動きにすぎぬ。南部の武装軍と人民は、こうした攻勢戦略をもってアメリカ帝国主義者の新植民地主義政策を失敗させ、ゴ・ジン・ジエムのファッショ独裁を打倒し、「特殊戦争」でアメリカ人を敗退させ、いまエスカレーションの頂点にある「限定戦争」でアメリカ人を打ちやぶっている。

南部の人民戦争の攻勢戦略は、全人民が軍事政治勢力の強さに依拠し、軍事闘争と政治闘争をつうじておこなう抗戦を主張する。攻勢戦略は、三つの戦略地域のすべてで敵を攻撃し、三種類の武装軍全部による戦闘行動を革命大衆による蜂起と結びつけ、主権をかちとる努力をしつつ、敵に攻撃を加えることを教えている。人民主権をかちとる努力は、敵軍の壊滅を促進するとともに、敵軍の壊滅がこんどは人民主権を強化する。攻勢戦略は、敵にたいしつねに主導

権をにぎり、戦場全体いたるところで敵を攻撃し、敵を受身の立場に追いこみ、敵は、われわれが選択する戦闘の仕方がなにてあれ、全力をあげてそれにとり組むほかななにもできず、敵の部隊は手薄にひろがり、包囲され、分断され、仮借ない圧力にさらされることを要求する戦略である。

南ベトナムで人民戦争の攻勢を生み出す底力は、南部の武装軍と人民、アメリカ帝国主義者とその手下、この両者の力関係の発展に見られる特徴と動向の正しい評価と結びついている。敵は、兵員数と技術手段では強力であるが、とてもおぎなえない基本的な弱点になやんでいる。一方、南部の武装軍と人民は、欠点があるにもかかわらず、ごく根本のところでは長所をもっている。この長所を敵の弱点にどのようにかみあわせるかを心得ているから、南部の武装軍と人民は、主導権をがちとり、打撃力を数倍に高めたのである。

攻勢戦略を適用するためには、軍事芸術、戦術、戦闘方法にかんする一連の問題を全部うまく解決せねばならぬ。この点で南部の武装軍と人民は、きわめて独創的で変化にとみ、柔軟で効果的な多くの適切な戦闘方法をあみだし、味方の損失を最少限にとどめながら、敵に手痛い損失を出させた。すなわち、地方軍、人民民兵、自衛団による遊撃作戦を主力部隊による集中攻撃と結合すること。小規模、中規模、大規模の行動を組み合わせて敵軍の全体としての壊滅の水準を高めつつ、三つの戦闘地域全部でたえまなく人民主権を強化し拡大すること。革命軍

の高い質によって敵の量を打ちやぶり、力の態勢をつくり出し、この態勢でごく少数の分遣隊によって敵の大軍を打ちやぶったり、貧弱な手段で莫大な手段にうまく対抗したりできるようにすること。あるときはただ一種類の部隊を用い、あるときは数種類の部隊の行動を調整しながら、大胆、巧妙、秘密、不意打ちのはげしい打撃を加え、敵の致命的な器官、敵の「頭脳」、敵の「喉もと」におそいかかり、このようにして壊滅的な戦闘効果をあげること。断固としてかつ大胆に主導権をにぎって攻撃を加え、われわれ自身の戦争の仕方を敵におしつけ、敵にその長所を活用させず、敵の戦術を受身にさせ、敵を身動きできなくし、敵の反撃と防衛からそのすべての効果を奪うこと。絶滅攻撃のいくつかの方法と形態を調整しあい、手にはいるかぎりすべての勢力、兵器、戦争手段を全面的に利用し、地勢と気候を全面的に利用し、敵が前進しておろろろが退却しておろろろが、あらゆる状況のなかで敵に攻撃を加え、敵が弱く警戒していないときでも、敵が強く警戒しているときでも、あらゆる場所あらゆる状況のなかで敵に打撃を加えること。

これらすべての戦術と戦闘方法は、解放軍の幹部と戦士、英雄的な南部の人民、つまり熱烈な愛国心と深い民族意識、階級意識を吹きこまれた男女がもっている生命力、知性、発明力に依拠する。かれらにはあえてたたかうだけでなく、またたたかう決意に燃えているだけでなく、きわめて有利な仕方であたか、かつ勝利する道を心得ている。

南ベトナムにおける人民戦争の戦略的指針は、たまたかうにつれて力をまじつつ、長期戦をたかかうことである。これは、民族解放と祖国防衛をめざして過去四分の一世紀のあいだたたかわれたわが人民戦争を規制する法則である。現在の解放戦争では、南部の武装軍と人民は、アメリカ帝国主義、すなわち巨大な軍隊と近代的装備をもち、軍事的経済的潜勢力はわれわれに数倍する残酷無類の帝国主義の巨頭と対決している。だからわれわれは、敵の部隊をだんだんに打ちやぶり、敵を弱め、その強さを限定し、その弱点をいっそうひどいものにし、われわれの軍事勢力と政治勢力を育成し発展させ、日ましに局面をわれわれに有利にかたむけ、敵にその力を消耗させ、われわれがたかうにつれてわれわれの力を増大させ、ますます大きい成功をおさめるために、時間が必要である。長期のたたかひをおこなうとは、小規模の行動から出発しつつ敵に攻撃を加え、ますます大きい行動に進み、敵を一步一步押しもどし、敵の戦略的たくらみをつぎつぎと失敗させ、最後に敵を完全に屈伏させることである。このような長期の闘争の中では、われわれがあらゆる有利な客観的条件を全面的に利用しつつ最大限の努力をするすべを心得、敵に弱点を大きくさせてこの弱点を上手に利用するすべを心得るならば、また、わが勢力に正確で効果的な戦略上の道案内をし、正しい方向をたどり、正しい目標と適当な瞬間をえらび、はげしい打撃を加えて敵を無力にし、重大な軍事的成功をおさめるならば、そして同時に、軍事闘争と政治行動、武装襲撃と人民蜂起を結びつけるすべを心得るならば、

そのときわれわれは、力関係と戦争の様相をかえるほどきわめて重要な飛躍をなしとげることができる。

このような飛躍は、事実南ベトナムの解放戦争では、一九六四年冬から一九六五年春にかけてビン・シアの戦闘で、一九六七年にチ・ティエン戦線(在3)の開戦のとき、一九六八年テトの総攻勢と一斉蜂起のときにおこった。このような大きい前進は、南部の武装軍と人民が正しい指導にしたがって、小規模、中規模、大規模の会戦を巧妙に結びつけ、連続的な長期戦をきわめて大胆な疾風のような電撃的なはげしい打撃と結びつけ、長期の闘争に持ちこたえ、それを基盤としつつ、全力をかたむけて有利な機会をつくり出し、これを時機を逸せず利用し、ますます大きい成功をおさめたことを実証している。

南部の戦争のやり方でひとつの重要な指針となっているのは、敵の中枢勢力の破壊を、人民の側に主権をかちとり、維持することと結びつけることである。人民が主人となることによつて、敵の勢力を一掃できるようになり、敵の勢力の一掃というこの行動が、こんどはまた人民主権のたえまない拡大と強化を促進する。

たしかにどの戦争でも、勝利は敵軍の破壊を意味する。しかし、この結果にみちびく方法はいくつもある。戦闘方法の選択は、戦略思想に由来し、戦争の性格、戦闘行動の目的、戦場の大きさ、その他の要因に関連している。

南ベトナムの人民戦争は、革命戦争であって、アメリカ帝国主義者とその手下の支配の打倒をめざす大衆反乱運動から成長する。戦争がつづくこと、武装軍による戦闘行動だけでなく、大衆がさまざまな形でおこなう政治闘争としての運動がおこる。その最高形態は、広範な大衆が主権をかちとるためにおこすのべつまくなしの蜂起であるが、主権をかちとる度合は、三つの戦略地域のいづれかに属する一定の場所の具体的な条件のいかんにより、まちまちである。こうした反乱は、広い範囲にわたって噴き出し、それがくりかえされたことも多い。目的は、末端のいかい行政機構を一つ一つ打ちたおし、あらゆる形態の支配や抑圧をきれいさっぱり片づけてしまうことである。こうした反乱は、軍事行動と調整しつつ開始されるきわめて重要な先鋒攻撃であり、わが武装軍が敵の軍勢の破壊をさらに強めるのに有利な条件をつくり出す。逆に、革命軍の戦闘活動は、敵の軍事力の掃討をねらいとするだけでなく、政治闘争を盛りあげ、とりわけ反乱に立ちあがった大衆が敵のあらゆる形態の支配や抑圧を断ち切り、主権を奪いかえし、なんらかの形で革命権力を樹立するのを援助することをねらいとする。

敵軍を壊滅させることと人民の側へ主権をかちとり維持すること、この二つの結合、そこに南部の武装反乱と革命戦争のあらゆる成功の秘密がある。ここでは、武装行動が権力の漸次的奪取をめざす人民反乱と結びつけられるだけでなく、人民戦争の戦略態勢が確立されるのである。軍事的にいえば、南部戦場は、規模はきわめて小さく、敵部隊の密度はきわめて高い。

一方、南部の武装軍と人民は、自分の国土でたたかい、全国的な抵抗に依拠し、武装闘争と政治闘争との結合に依拠しつつ、革命戦争を遂行している。だから、武装軍と人民は、味方に有利で敵に不利な戦略態勢をどうしてもたてねばならぬ。この目的を達成する最善の道は、敵軍を壊滅させるために主権をかちとり、逆に、主権をかちとるために敵軍を壊滅させることである。

人民とその半軍勢力にとって、主権をかちとるとは、アメリカ人とそのいかいりの支配を打倒するために決起し、自分の田畑と果樹園、自分の村と部落、自分の森林開墾地と街路のただ中で敵とたたかうことである。それは、土地にしがみつき土地の主人であること、程度こそさまざまだが行政の主人であること、情勢の主人であることを意味する。どの村も、どの部落も要塞に変わり、市民一人ひとりが戦士となって、敵とたたかうためあらゆる道をさがし、あらゆる方法を考え出し、軍事行動と政治行動と敵部隊の中の扇動工作に従事し、手にはいるかぎりの武器と手段を使用するのである。

革命武装軍にとって、主権をかちとるとは、三つの戦略地域、解放区、敵の襲撃と「平定」行動に常時さらされている地点、敵の根拠地のすぐ周辺で、要所という要所には、一つのこらざる合理的に三種類の部隊すべてを展開することである。それは、人民が行使する主権に依拠し、大衆の政治勢力の不断の成長に依拠し、南部をあらかじめ整備された戦場に変えることを

意味する。あらかじめ整備された戦場とは、現にそこにいる部隊が、味方に有利で敵に不利なように配置され、解放軍が大きい機動力と柔軟性をもって攻撃でき、敵は、包囲され仮借のない軍事的政治的襲撃をまともにもうける態勢に追い込まれる戦場である。

これが、軍事攻撃と政治攻撃、戦闘行為と大衆蜂起、遊撃戦と正規戦を結合し、三つの戦略地域全部でたかわれる人民戦争の戦闘隊形である。これが、はっきりした前線はないが戦場はたしかにいたるところにある戦争の戦闘隊形である。その戦場では一〇〇万をこえるアメリカ軍とかいらい軍が希薄に分散し、包囲され、分断され、どの側からも攻撃される。この戦場で、敵はあらゆる欠点と弱点になやんでいる。すなわち、塹壕を掘ってかくれようと思えば、かれらの防衛線は落し穴だらけとなるし、攻撃しようとするれば、わが軍が待ち伏せている場所にまともにも突っこむことになる。人民戦争の荒れ狂う海におぼれて敵軍は、その数と近代的戦備にもかかわらず、散り散りとなって消耗し、かれらが得手とする戦闘方法を使えない。一方、南部の武装軍と人民は、いつでも彼らを包囲し、ぶっつけに攻撃と蜂起をしかけ、主導権をにぎって、前線でも後方からでも、われわれがえらぶ場所でもえらぶときに彼らを襲撃できる。

南ベトナムでわが戦略があげたとくにすばらしい成果は、敵を防御態勢に追いこみ、敵が全戦線で革命武装軍の攻撃と革命武装軍自身がえらんだ戦闘方法に直面するほかないようにし、敵が政治的受身とみじめな戦略的窮地に追いこまれ、部隊を分散すべきか集中すべきか、「予定」作戦をおこなうべきか「索敵掃滅」作戦をおこなうべきか、防衛陣地に後退すべきか攻撃に打って出るべきか、心を決めかねる状態にしたことである。このような理由から、敵の侵略軍は、莫大な兵力がかえって不適となり、その強さが弱さとなる。近代兵器と高度の機動手段にもかかわらず、敵部隊は、貧弱な戦闘効率を示し、その莫大な潜勢力は全面的に発揮できなない。一方、南部の人民武装軍は、その合理的な編成、高い戦闘効率、柔軟性に富むと同時に練達した適切な戦闘方法、有利な戦略態勢のおかげで、たえず力の立場から敵に攻撃を加え、たかいたかに進むにつれてますます強くなり、ますます戦闘効率を高め、成果のある交戦をおこなう、大きな戦略的效果をあげる。

こうした成功は、人民戦争の無敵路線の成果であり、攻勢戦略の適用の成果であり、大軍を小軍でやぶり、大部隊を小部隊でうちまかし、大きな量に高い質を対決させる軍事芸術、味方の軍事的政治的力量を全面的に発揮させつつ戦場で敵の力をおさえ、主導権と攻勢の立場からいつでも敵に攻撃を加え、敵にはげしい打撃をあたえて長期戦で敵を打倒する力の態勢をつくり出すすべを心得ている軍事芸術の成果である。

南ベトナムの現在の人民戦争は、エンゲルスのつぎのような予測を偉大な、すばらしくいきいきとした姿で描いて見せる。「独立をかちとろうとする人民は、普通の戦争方法に限定してゐることはできぬ。大衆蜂起、革命戦、いたるところに遊撃隊、これが、小民族が大国をうち

(注)

まかし、小さい軍隊がもっと強力な軍隊に敵対できる唯一の方法である。」

アメリカの侵略に反対し救国をめざすわが人民の抵抗は一〇年目にはいった。一九六八年のテト以来、それはきわめて勇猛な闘争ともものすごい成功とによって特徴づけられるあたらしい段階にうつり、いま完全な勝利をめざして前進している。

アメリカ帝国主義者は、わが国全土をつうじて重大な失敗をこうむり、アメリカ合衆国自体でも世界中でも、さまざまな困難におちいつている。しかしかれらは、その頑迷で悪魔的な性質から、依然として侵略戦争に固執している。

ホー・チ・ミン大統領はわれわれに述べた。「アメリカの侵略にたいする抗戦は長びくかもしれぬ。わが人民は、あたらしく生命と財産の犠牲に直面せねばならないかもしれぬ。しかし、なにが起ころうとわれわれは、全面勝利を得るまで、アメリカ侵略者とたたかう決意を堅持しつづけねばならぬ。」(一九六九年五月十日、ホー・チ・ミン主席の遺書)

大統領の遺訓にもとづいてわれわれは、長期戦をたたかい、敵にせまって侵略のたくらみをあきらめさせ、すべての軍隊を引揚げさせ、われわれの主権と領土の保全を尊重させる決意である。全党、全人民、全軍は、最大の努力を傾け革命的英雄主義を発揮し、すべての困難と困苦をのりこえ、アメリカの侵略に反対し救国をめざす抗戦の中で全面勝利を得るまで耐えぬき、これを前進させ、南を解放し北を防衛し、国の平和的再統一へ前進せねばならぬ。

アメリカ侵略者とたたかいこれを敗北させること、これは、ベトナム革命と世界革命がわれわれの現在の生活と今後のすべての世代の将来の幸福のために、さし迫って必要とすることである。ここに、わが党と人民の榮譽と誇りがあり、祖国と世界の革命的人民にたいする義務がある。どのような犠牲と困苦に直面せねばならないとしても、また戦争がどんなに長きびしくあろうとも、われわれは、歴史によってわれわれに課せられたこの光栄ある使命をはたす決意である。

われわれは確信する——南ベトナム解放民族戦線と南ベトナム共和臨時革命政府の指導のもとに、人民戦争の無敵の路線と、わが国全体の三〇〇〇万をこえる同胞の勇氣、知性、軍事的練達、偉大な戦闘的団結のおかげで、そして世界中の兄弟と友人のはかり知れない援助をうけて、南部の人民と戦士は、たしかに完全な勝利を得るであろうことを。

*

党の経験ゆたかな指導のもとにわが人民が遂行した輝かしい革命闘争を評価して、ホー・チ・ミン大統領は述べた。「わが人民は英雄的な人民である。われわれは、日本ファシストを打倒し、フランス植民地主義者を敗退させ、いま、断固としてアメリカ帝国主義侵略者とたたかいこれを追いつめつつある。」(注5)「アメリカの侵略に反対し救国をめざすわれわれの現在の抗戦は、外国の侵略に反対するわが人民のかがやかしい闘争史の中で、最大の抗戦であり、同時に世界

の革命的人民が現在の時代に帝国主義に反対しておこなう闘争史のなかでもっともすばらしいページの一つである。

わが国における人民の民族民主革命は、いままでに得たゆたかな経験をもって、新旧を問わず植民地主義に反対してたたかう植民地国従属国の人民の革命理論の発展に寄与してきた。

ベトナム革命の貴重な教訓によって啓発されてわが人民は、ますます確固たる足どりで前進し、アメリカの侵略に反対し救国をめざす抗戦を全面的な勝利にみちびき、全国において人民の民族民主革命を完成し、このようにして平和、民族独立、民主主義、社会主義をめざして世界中でおこなわれている共通の闘争へ貴重な貢献をするのである。

注1 外国侵略者にたいし、ベトナム人民が十三世紀、十五世紀、十八世紀にそれぞれかちとつたも

ともかがやかしい決定的な勝利。

注2 一九六八年十一月三日、ホー・チ・ミン大統領の訴え。

注3 十七度線の付近。

注4 『マルクス・リエンゲルス全集』、第六卷、「邦訳「ビエモンテ軍の敗北」三八三〜三八四ページ。』

注5 一九六五年七月二十日、ホー・チ・ミン大統領の訴え。

二 北ベトナムの社会主義革命

フランス植民地主義者にたいする抗戦が勝利のうちに終わり、北ベトナムが完全に解放されて社会主義革命の段階にはいつてから一五年たった。この短い期間に北ベトナムは、多くの社会改革をなしとげ、植民地や封建制の残りかすを一掃し、国全体の革命の根拠地、社会主義北部となった。北ベトナムは、まだ立ち遅れた経済とアメリカ帝国主義の侵略にもかかわらず、ものすごい生活力を示し、大後方地としての任務をかがやく果たし、アメリカ侵略者の破壊戦争を粉碎し、社会主義革命の中でたえまなく一つまた一つと成功をおさめている。

いうまでもなく、こうした成果は、初期の数歩にすぎぬ。小生産が重要な役割を演じている遅れた農業国を、近代的な工業と農業、進歩した文化と科学をもつ社会主義国に変え、わが人民にゆたかな物質的・文化的生活を保障するために、われわれはさらに二〇年、三〇年全力をかたむけねばならぬ。

1 プロレタリアートの執権と達成すべき三重革命

マルクス・レーニン主義の光に照らされて、第三回党大会とそれにつづく中央委員会会議は、北部の情勢をすべての分野にわたって正確に吟味し、「移行期にあるわが国の最大の特徴は、農業国の立ち遅れ状態から、資本主義的發展の段階をとらずに、直接に社会主義に前進することである。」と指摘した。これを基礎として大会と中央委員会は、社会主義革命の総路線を決定し、国民經濟の各部門の發展方向を示した。大会がえがいたコースと中央委員会の諸決定は、わが国のような遅れた農業国の社会主義への前進を規制する法則を忠実に反映するとともに、あたらしい時代の特徴、内容と一致するものである。

資本主義が腐朽し、ますます崩壊しつつある現在の時代、社会主義が現実となり、それどころか世界体制となり、人類社会進化の決定的要因となっている現在の時代には、社会主義への前進の問題は、先進資本主義諸国だけでなく、民族独立をとりもどした經濟的後進国にとってもまた歴史的必然となった。

ドイツ、イタリア、日本のファシストにたいしソ連が偉大な勝利をおさめ、第二次世界大戦後多くの帝国主義国が弱まり、一連の社会主義国が誕生するとともに、ほとんどすべての植民

地半植民地国で、民族解放運動がもえあがり、帝国主義にたいする強力な先鋒部隊となった。

そして、民族的民主的性格をもつ政権が樹立された国も多い。民族的民主的性格とはいって、その度合は各国の労働者農民の強弱と階級間の力関係により、さまざまである。労働者農民が決定的役割を演じ、労働者階級の前衛が革命の指導権をにぎっている国々にて民族民主革命が成功すれば、それは、帝国主義と封建制にたいし人民が勝利しただけでなく、土着ブルジョアジーにたいしプロレタリアートが政治的に優越したこと、あたらしい形の国家が凱歌をあげたことを意味する。したがって、民族民主革命が勝利のうちに完成すれば、それは同時に社会主義革命の開始を意味する。労働者階級に指導される労働革命権力は、ただちにプロレタリアートの執権の歴史的任務、すなわち社会主義革命の遂行と社会主義の建設にとりかかる。つまり、われわれの時代では、労働者階級に指導される民族民主革命は、必然に社会主義革命と結びついている。

わが党は、結成早々に第一次政治テーゼの中で、ベトナム革命が必然に二つの段階、すなわち民族民主革命の段階と社会主義革命の段階をとらねばならないことを明らかにした。この明確なコースは、マルクス・レーニン主義の偉大な教えにも、われわれの時代の動向にも、わが人民の熱望にも完全に一致している。過去四〇年の革命的实践は、それが完全に正しいことを実証している。

歴史上すべてのブルジョア革命は、ひとつの搾取階級の独裁をもうひとつの搾取階級の独裁で置きかえることになった。ブルジョア革命はすべて、少数者の多数者になりたいする支配を維持したが、これは暴力に訴えることによつてはじめて可能なことであつた。したがつて、ブルジョア独裁は、その本性から暴力と弾圧を内容とする。自由、平等、友愛、人権、民主主義など、美しい言葉はすべて、じつさいにはブルジョアジーをしっかりと王座にとどめ、ブルジョアジーの自由な企業と自由な搾取に奉仕するのがねらいである。基本的な生産手段と国家の手綱とが少数者ににぎられてゐるかぎり、真の民主主義、多数者のための民主主義は、ありえない。時代の動向から生じる歴史的必然として、プロレタリアートの執権が誕生し、これが、ものすごい社会的激動を生み出す。それによつて、社会の大多数を構成する勤労人民は、民主的権利をあたえられ、社会、経済、文化の主人に、自分自身の運命の主人にひき上げられる。このときから勤労人民は、歴史の真のつくり手となる。プロレタリアートの執権は、少数者である搾取者に向けられた多数者である勤労人民の権力であり、その性質は、本質的に暴力と弾圧でなく、建設と組織である。こうした理由で、プロレタリアートの執権は、民主主義のもつとも高度のもつとも完全な形態であり、ブルジョア民主主義よりも「百万倍も民主的」である。

わが国では、プロレタリアートの執権は、生産力が極度に立ちおくれ、社会主義建設の物質

的前提条件がまだきわめて弱いときに実現した。生産の社会的体制は、十字路に立った——社会主義に進むべきか、資本主義に進むべきか、それともしばらくのあいだ小生産にとどまるべきか。社会主義を建設するためには、われわれは、あたらしい生産力とあたらしい生産関係を、あたらしい経済的土台とあたらしい上部構造を、ほんとうにはじめから建設せねばならぬ。こうした条件のもとでは、あたらしい社会を創造する上で、プロレタリアートの執権のイニシアチブ、その建設的、組織的役割、大衆の政治的自覚が、なおさら重要さをもつ。

どの国でもプロレタリアートの執権は、社会主義か資本主義か「どちらが勝つか」の問題を解決せねばならぬ。発達した資本主義国では、ブルジョアジーは大敵である。資本主義は、国民経済の全分野にわたる生産関係の体系と、この抑圧と搾取の体制に奉仕する巨大な上部構造とからなつてゐる。したがつて、権力をにぎり、プロレタリアートの執権を樹立したあと、社会主義を建設するために、ブルジョアジーその他の反動勢力にたいする階級闘争が、「流血と無血、暴力的と平和的、軍事的と経済的、教育的と行政的」^(註2)のさまざまな形でいままでにおとらず激しくつづけられる。しかし、このような条件の中でさえ、レーニンが指摘したようにプロレタリアートの執権は「もっぱら、搾取者にたいする力の行使であるわけではなく、主として力の行使であるわけでもない。革命的力の行使の経済的基礎、その有効性と成功の保障は、プロレタリアートが資本主義にくらべてより高い形態の社会労働組織を代表し、これをつくり

出すという事実である。これが大事な点であり、これが力の源泉であり、共産主義の最終的勝利が不可避であることの保障である。^(注3)「資本主義的發展の段階をとおらずに社会主義へ前進する国々には、資本主義經濟部門や他のすべての搾取形態を廃絶し、小生産が自然発生的に資本主義的發展の道をたどるのをおさえ、敵対分子が頭をもたげようとするすべての試みを粉碎し、秩序と治安を確保し、国防力を強めること、これらすべてがまちがひなく、長期にわたる複雑な階級闘争を構成し、プロレタリアートの執権のもっとも重要な課題の一つを構成する。この闘争を完全な勝利にいたるまで見とどけるかどうか、プロレタリアートの革命的な立場とブルジョアの改良主義とを区別する重要な目安の一つである。しかし、階級闘争の内容は、それにかぎられるわけではない。というのは、ブルジョアジーその他の反動勢力にたいして徹底的な勝利をおさめ、社会主義と共産主義を成功裏に建設するためには、搾取階級その他の反革命勢力を鎮圧するだけでは十分でなく、資本主義經濟部門その他すべての搾取形態と縁を切るだけでも十分ではない。とくにわが国の北部では、小生産が圧倒的で資本主義經濟部門はいうにたりず、搾取階級を収奪しただけでは社会主義のための物質的基礎をつくり出すことができず、反革命勢力の鎮圧だけでは社会主義に勝利を保障するには十分である。ここでの基本的な問題は、三重革命、つまり生産関係の革命と技術革命と思想文化革命を同時に遂行することによって、私的小生産を社会主義大規模生産に変え、ほとんどな

もないところから社会主義国の物質的技術的基礎の全体、経済的土台、上部構造をきずきあげることである。もっぱらこのような仕方では、あるいは本質的にはこのような仕方では、われわれは、小生産が自然発生的に資本主義に發展するのを防ぎ、資本主義とブルジョアジーを生み復活させる社会經濟条件を絶滅して、社会主義に全面的完全勝利を保障できる。

わが国の北部での二つの道のあいだの闘争、すなわち資本主義か社会主義かの闘争は、本質的には小生産を大規模社会主義生産に高める闘争である。技術革命を要石として前記の三つの革命を同時に遂行するために、プロレタリアートの執権を堅持することは、わが国の北部における社会主義への移行期の階級闘争の基本的内容である。

搾取階級その他の反革命勢力にたいする警戒心をゆるめることは、とくに現在のようにわが国が世界のもっとも狂暴な帝国主義、アメリカ帝国主義にたいし激しい民族、階級闘争をおこなっているとき、また世界的規模で社会主義体制と資本主義体制のあいだで激しいたたかいがおこなわれているときには、危険な右翼的あやまりであり、革命にたいする犯罪である。しかし北部の現在の社会主義革命の中で、われわれが搾取階級その他の反革命勢力の強さを過大に評価するならば、またわれわれが鎮庄の任務だけに目を釘づけにし、われわれの主要な課題が三つの革命を組織し、建設し、遂行することにあるのを理解しないとすれば、これまた重大なあやまりをおかすことになる。

生産関係の革命、技術革命、思想文化革命は、社会主義革命の三つの有機的な構成分である。これらは、からみあい、影響しあい、相互に前進させあう。あたらしい社会、あたらしい人間、あたらしい生産関係、あたらしい生産力は、どれか一つの革命の成果ではなくて、三つの革命全部の共同の産物である。もちろん、このような弁証法的な関連性のなかで、三つの革命はそれぞれ、社会主義革命の過程で特殊な問題を解決するために特殊な位置を占め、特殊な機能をもちつづける。

資本主義的發展の段階をとらずに社会主義に進むというのは、まず第一に、われわれが大工業や、高度に発達した物質的技術的基盤をもたないことを意味する。資本主義経済部門や毎日毎時間資本主義を生み出す私的経済を存続させながら、おくれた、分散した農業を基礎にして社会主義工業化を実現することはできぬ。したがって、生産関係の革命は、前提条件としての一歩であり、これが生産力の発展に道を切りひらき、技術革命の速度を早め、経済分野で勤労人民の集団支配をつくりあげる。この生産関係の革命の結果、労農同盟は固められ、プロレタリアートの執権は強められ、思想文化革命はあたらしい人間のあたらしい思想と感情を湧き出させる社会経済条件によって、利益するのである。

生産関係の革命とは、なによりもまず、資本主義経済部門とこれにともなう人間による人間の搾取を廃絶し、農民や手工業者の私的経済を集団的社会主义経済に変え、生産手段の集団的社会主义所有を二つの形態、すなわち全人民所有と各種集団所有の二つで実施することである。しかし、社会生活のこのような大変革も、けっして生産関係の革命の内容の全部ではない。というのは、経済分野では、集団支配は三つの側面をもっている。すなわち生産手段にたいする支配、经济管理にたいする支配、労働生産物の分配にたいする支配である。したがって、勤労人民の生産手段にたいする集団支配が確立したのち、われわれはつぎのような一連の重要問題を解決せねばならぬ。すなわち、拡大再生産にもっと早い速度をあたえ、技術革命をもっとも急速に実現し、社会労働のもっとも合理的な再分配にもっとも高い労働生産性を実現するために、集団労働と集団財産をどのように管理するか。統一的な中央指導と各部門各地方の権利の行使と集団的支配者としての勤労人民全体の権利の行使とを保障するために、社会的生産制度をどのように組織するか。人民の生活水準を改善しつつ、拡大再生産のために適当な蓄積を確保し、社会主義の社会的精神を完全に発揮しつつ、勤勉を奨励し、文化、教育、科学、技術を発展させつつ、人民の物質的福祉に目をそそぐために、分配をどのように実施するか。社会主義の行動分野を拡げ、私的生産者を協同組合に引き入れ、市場統制をかたくし、投機にたいしてたたかい、土地と労働の管理におけるすべての欠陥を是正しつつ、さまざまな社会主義経済組織を強化し改善するために、どのような経済的行政的措置をとるべきかなど。これらは、全国的規模でも、各地方や各生産単位でも、生産関係の革命によって提起される、さ

し迫った、骨の折れる、複雑な問題であり、われわれは、勤労人民が経済管理でまた労働生産物の分配で集団的支配者となることを構想し完成するうえで、また社会主義変革の課題を完成するうえで、解決せねばならない問題である。

小生産から直接に社会主義へ進むために、われわれは、生産関係の革命と平行して、技術革命を実施せねばならぬ。手工業労働を機械化された労働にかえ、社会主義社会のあたらしい物質的技術的基盤をつくるのが目的である。現在、わが国の北部では、多くの社会的改革をへて、抑圧と搾取の体制は廃絶され、すべての勤労人民は平等で自由であり、国土の主人となっている。しかし、この平等と自由も、主人としての地位も十分とは考えられぬ。なぜなら、わが勤労人民の物質的文化的生活は、弱い物質的技術的基盤にまだ依存しているから。「共産主義は、ソビエト権力プラス全国の電化である」というレーニンの有名な定式は、われわれがこの問題をより完全に理解する助けとなる。ソビエト権力とは、プロレタリアートの執権を、勤労人民が主人である権利を意味する。電化とは、電化を基礎とした大規模工業を、あたらしい社会の物質的技術的基盤を意味する。こうした二つの要因の一つを欠けば、社会主義も共産主義もありえない。われわれは小生産から出発するのであるから、われわれがとくに必要とするのは、レーニンが「電化」と呼んだものである。われわれは、電化を基礎としてはじめて、社会主義経済体制と労農同盟とプロレタリアートの執権をかため、小生産者の心理と習慣をとり

のぞき、社会主義思想を強め発展させ、勤労人民に物質的福祉と文明生活をもたらし、勤労人民を社会の主人であるばかりではなく、自然の主人にもすることができよう。わが党が技術革命を「要石」と位置づけるのは、このようなきわめて重要な意味からである。

技術革命は、生産関係の革命と密接に結びついており、この二つが、弁証法的に相互に影響しあう。後者は、前者のために道をひらき、それを前進させるために社会経済的前提をつくり出す。逆に、前者は後者の成果をかため、社会主義生産関係をたえまなく完全なものにしていくための物質的技術的前提をつくり出す。健全な経済コースは、なによりもまずこの二つの革命を同時に前進させ、両者の弁証法的相互作用をおこなわねばならぬ。われわれは、一方では、社会主義生産関係が演じる能動的な役割を全面的に活用して、社会的労働の急速な再分配をおこなない、生産を拡大し、人民の生活水準を改善し、社会主義工業化のために蓄積の速度を早めねばならぬ。また一方でわれわれは、生産力の発展水準と歩調をあわせつつ、あたらしい生産関係を積極的になたえまなく完全なものとし、あたらしい生産関係、とくにあたらしい経済管理体制が、生産力の発展においてたえず「道路開削機」や「推進機」の役割を演じるようにせねばならぬ。

現在わが陣営では、世界の他の多くの国ぐにと同様、あたらしい科学技術の革命が、人類による自然の征服の面でも、社会関係の面でも、多くの重要な変化をおこしつつある。したがっ

て、わが国の生産力は、漸進的発展と飛躍的発展を同時にやらねばならないし、またできる。すなわち、小生産から大規模生産への変化の法則にしたがって、漸進的に発展すると同時に飛躍によって機械化と自動化、とりわけ機械化へ直接に発展することである。われわれは、一方では、手工業生産のすべての可能性を利用し、これを一步一步半機械化と機械化へもつていき、地方工業の拡大に努力し、これを社会的労働の再分配という観点から農業と結びつけ、このようにして大規模工業が生まれるための条件をつくり出さねばならぬ。また一方でわれわれは、社会主義経済制度に固有の優越性にもとづき、社会主義兄弟国や国際的交流による活発な援助によって、近代技術をそなえた大工業の建設に全力をかたむけ、経済的技術的飛躍をなしとげ、こうした飛躍をつうじてわが国民経済全体の近代化へむかって前進せねばならぬ。これは、わが国で技術革命を成功裏に完遂し、近代的な大規模社会主義生産制度を急速に建設する最善の道である。

社会主義建設とは、あたらしい経済、あたらしい社会を建設するだけでなく、あたらしい社会主義的人間を形成し、この人間に真の価値をあたえ、この人間が全面的に発達して歴史の意識的な創造者となるための条件を実現することである。社会的存在の変革は、社会的意識の変革のための基本的条件であり、あたらしい人間は、あたらしい社会を建設する過程で、実践的活動をつうじ、大衆の革命運動をつうじて、はじめて生まれてくる。しかし、人間の変革、人

間の思想的再形成は、自然発生的な過程ではないし、またそうであることはできぬ。そのうえ「社会主義を建設するためには、なによりもまず社会主義的人間がいなければならぬ。」したがって、経済革命とともに、全社会と広範な人民大衆との思想的精神的文化的生活に根本的な変化を生みだすことをめざした思想文化革命をどうしてもなしとげねばならないのである。とりわけわが国の場合、資本主義的発展の段階をとおらずに社会主義に移行するというのは、高度の創造精神と政治意識を必要とするあたらしい道を進むことである。しかし、わが社会の觀念と習慣は、まだ小生産の刻印をつけており、わが人民の文化的科学的技術的水準はまだ低い。ここに思想文化革命の特殊な重要性がある。

社会主義的人間は、共産主義的人生觀を反映する高貴な徳性をそなえた人間であり、労働者階級と民族の事業にかぎりなく忠誠な人間であり、その生活と事業をつうじて集団支配の考え方、すなわち「万人は各人のために、各人は万人のために」を発揮する人間である。集団支配の精神を育てるためにわれわれは努力しているが、この精神は労働者階級の立場にもとづくものである。それは、資本家や小生産者の個人支配の精神に反対するだけでなく、ギルド型の「集団」精神にも反対する。この型の集団精神は、自分たちの小集団をプロレタリア国家の統一的指導から切りはなし、一つの集団の利益を他の集団の利益に対立させるから。各人についていえば集団支配の精神は、なによりもまず、その人間が労働、生産、公共財産を尊重するこ

とにあらわれねばならぬ。それこそ、プロレタリアートが権力をにぎり社会の主人となったあとのもつとも正しい階級的立場である。それは、雇われ人心理や「役人」スタイルにはまったく無縁である。それは、仕事と日常生活における無規律と無責任のすべてのあらわれに反対する。それは、商人根性、うそつき、とりつくり屋、寄生虫を非難する。それは、官僚主義のすべてのあらわれ、現実や生産からの遊離のすべてのあらわれを非難する。最高水準の仕事だけが人間を一人前の主人にしうることを、高い労働生産性を基礎としてはじめてゆたかな物質的文化的生活に到達し、社会主義を実現できること、この二つを完全に知らねばならぬ。

主人であることを意識しているだけでは十分でなく、科学的な知識をもたねばならぬ。そのときはじめて、社会と自然の主人となり、社会主義的変革を完成し、共産主義を建設できる。革命的情熱なしには革命的行動はあり得ないが、革命的情熱だけでは、よしんば古いものを破壊することができても、あたらしいものを建設することはできぬ。社会主義建設とは、文明の最高峰をきわめるすべての科学的知識、社会科学と自然科学と技術のすべてを組み合わせることである。したがって社会主義的人間は、文化的科学的技術的に先進の水準をもった人間でなければならず、社会と自然の法則を理解し適用することができ、人類が数千世代のエネルギーと力をつうじて集積したすべての文化的科学的達成を創造的に継承、発展させることができる人間でなければならぬ。

社会主義的人間は、熱烈な愛国心もち、同胞と仲間への深い愛情もち、不退転の勇氣と不敗の精神もち、独立と自由への深い愛着をもった人間であり、「自分の国を失って奴隷になるよりは、むしろいかなる犠牲にもあまんじる」人間であり、祖国の防衛のためだけではなく、あたらしい社会を建設する創造的な仕事でも革命的愛国心にみ込まれた人間である。同時に、この社会主義的人間は、プロレタリア国際主義に深くみ込まれ、自分の民族の正当な利益と国際労働運動の共通の利益を正しく調和させるすべを心得ており、せまい民族主義の傾向にも大國排外主義の傾向にもすべて反対する。

わが国の社会主義的人間は、近代文明のもつともあたらしい達成をまねることができただけでなく、四千年の歴史をつうじてきたえられたベトナム人の心と魂を表現するすぐれた素質を継承し発展させうるものでなければならぬ。

このような人間を教育し養成することが、思想文化革命の課題であり、内容である。この革命が達成する成果が多ければ多いほど、またその速度が早ければ早いほど、この革命はますます強力に生産関係の革命と技術革命を促進する。逆に、後者の二つの革命は、思想文化革命が拡大し、その成果をかためていくための経済的技術的基盤をきずきあげる。以上の三つの革命を完成することによって、はじめてわが国に社会主義を成功裏に建設し、わが国を近代的な工業と農業、先進的な文化と科学をもつ繁栄する社会主義国家にかえ、わが人民に物質的福祉と

豊かな精神生活を保障し、われわれの経済力と国防力を強めることになる。したがって、技術革命を要石(ひしなもと)として、三つの革命を成功裏に遂行するために、プロレタリアートの執権を強化し、党の指導的役割、国家の組織上管理上の役割、勤労大衆の集団支配の精神を最高度に発展させるよう努力すること、これがわが国の社会主義革命の基本的な方向、法則的な性格をもった方向であり、わが国が資本主義的発展の段階をとおらずに社会主義へ移行するとき、その必然的な内容をなすものである。この方向づけをたえず頭において、これを全国的規模でも各部門や各水準でも独創的に追求していくこと、われわれの具体的な目標として、大規模生産体制を漸進的に、着実に、均衡をとりながら建設し、人民の生活条件をひきつづいて改善していくこと、これが、社会主義革命においてわが国家、わが人民がはたすべきもつとも重要な課題である。

注1 『ホー・チ・ミン選集』、『邦訳、第三巻、四三二ページ』

注2 『レーニン全集』、第三一巻『邦訳、「共產主義内の『左翼主義』小児病』三〇ページ』

注3 同前、第二九巻『邦訳「偉大な創意」四二三ページ』

注4 『ホー・チ・ミン大統領のよびかけ』、第六巻、一七四ページ(ベトナム語)、スー・タト社、ハノイ、一九六二年

2 初期経済発展のための路線

わが国に大規模社会主義生産制度を建設するとは、国民経済のあれこれの部門に一定数の大企業を建設するだけのことではない。生産の社会制度全体を改造すること、国民経済構造全体を根本的に変革すること、小生産の転換と大生産根拠地の建設を結びつけること、すなわち、小生産企業の成果に依拠して大生産根拠地を建設し、逆に、建設された大根拠地の力を利用して小生産の転換の速度を早め、小生産を大規模生産まで引きあげることである。一般的にみれば、わが国に大規模社会主義生産制度を建設する過程は、技術革命を実施し、手工業労働を機械化労働に変え、これらと結びつけて生産関係を変革する過程であり、社会的労働の再分配をおこなない、協同化の増加と結びつけて専門化を強化しつつ、あたらしい部門とあたらしい業種を大規模に発展させる過程であり、自立した国民経済を建設し、同時に諸外国、主として社会主義制度の国々にとの経済関係を拡大する過程である。

大規模生産制度を建設するには、一定量の生産手段と労働をもたねばならぬ。かつて資本主義は、原始的蓄積の時期に、巨大な資本を急速に集積するために、仮借のない暴力に訴えて「母国」でも植民地でも勤労人民を収奪し、勤労人民を雇用奴隷にかえた。社会主義は、大規

模生産制度を建設するために資本を蓄積するとき、もちろん収奪や搾取によることはできず、本質的には生産を發展させ、労働生産性を高めることによるのである。社会主義は、資本の蓄積だけをつづけるわけにはいかず、人民のすべての階層の福祉を顧慮し、社会主義の原則に依じた分配を実施せねばならぬ。

わが国の条件のもとで、初期のこうした基本的な経済的課題（工業化のための資本蓄積、人民の生活条件の改善）を遂行するためには、われわれは、勤労人民の集団支配制を基礎とし、どのようにして合理的な経済構造を建設し、労働の再分配を遂行するかを心得ねばならぬ。その目的は生産を強力に促進し、労働生産性を急速に向上させることである。合理的な経済構造を建設するためには、なによりもまず農業と工業、中央経済と各地方経済、生産と分配について位置づけと速度を定め、農業と工業以下それぞれのあいだの関連性を明らかにせねばならぬ。

移行期の初期の段階では、国民経済がまだ小生産の段階にあり、産出率のきわめて低い農業労働が社会的労働全体の中でまだ大きな比重を占めているので、基本的に重要な第一歩は、私的所有地と単作を基礎とする農業を多角的集団農業にかえること、向上した労働生産性を基礎に生産のあたらしい方向に應じる社会的労働の再分配へ進むこと、農業労働力の一部を工業発展にふりむけ、だんだんに必要労働を減らし、蓄積の唯一の源泉である余剰労働を増大させる

ことである。このためには、はじめから、中央でも地方でも、工業は農業にはたらきかけ、農業は工業と密接に調整するようにせねばならぬ。工業と農業のあいだの関連性は、中央経済と各地方経済の建設をつうじてはじめて確立できる。

わが国では、大規模社会主義生産制度の誕生と成長がはじまっている。

そのためにわが党の第三回大会は、つぎのように強調した。われわれは、重工業の合理的発展を第一歩とし、農業と軽工業の前進に努力し、工業を指導力としつつ農業を工業発展の基礎とし、地方経済と中央経済を調整せねばならぬ……大会がえがいたこのコースは、われわれの基本的な方向であったし今後もそうであろう。この路線を実施する過程と過去一五年間の生きた現実からすれば、われわれは、初期の経済発展のためのわれわれの路線を具体的につぎのようにはいいあらわすことができる。すなわち、農業と軽工業を前進させることを基礎として、重工業の合理的発展を第一とすること。各地方経済を發展させつつ中央経済を發展させること。

a 重工業の合理的発展を第一とすること

「社会主義の経済的基礎としてただ一つ可能なものは、大規模機械工業である。これを忘れるものは共産主義者ではない。^(注し)」レーニンのこの力強い言葉は、社会主義経済制度のなかで重工業が演じるきわめて重要な役割を指摘し、科学的社會主義を他の種類の「社会主義」から区別

する基本的な判断基準のひとつとして、重工業にたいする態度をあげている。われわれが重工業を重視するのは、それが小生産を大規模生産に引きあげる梃子であるからであり、それが労働にあたらしい道具をあたえ、人間の自然にたいする力を増大させ、労働をおくれた手工業の状態から解放し、あたらしい社会とあたらしい経済を建設するために、労働により大きい生産性をあたえるからである。重工業が提供する巨大な力によって、人間は自然資源をますます完全にとりだし、ますます多くの商品を生産できるのである。

重工業がこのような決定的な役割を演じるし、またわが国にいきわたっている条件を考慮して、わが党は、近代的な重工業の建設を要石とする社会主義工業化が「社会主義への移行期全体をつうじて中心的な任務である」と考えている。しかし、重工業を建設するためには、その前提条件が農業と軽工業とによってつくりだされねばならぬ。前提条件とは労働力、消費財、原始的蓄積、市場の四つである。かつて資本主義のもとで、重工業は、長期にわたる軽工業の発展をへてはじめて生まれ、完全な制度となるまでにほぼ一世紀を必要とした。現在わが国では、社会主義的生産関係のおかげでわれわれは、もっと早い速度で資本の集中と労働の再分配を実行することができる。しかもはじめから国民所得の一部と労働力の一部を重工業の建設にふりむけることができる。われわれ自身の資源と社会主義諸国の援助と国際協力のおかげで、われわれは原始的蓄積の速度をはやめ、複雑な科学や技術の問題をもっと急速に解決できる。し

たがって、わが国の農業や軽工業がまだ低い水準にあるときでさえ、われわれは、重工業の発展のためにかつて資本主義がもちえなかつた一連の条件をもっている。したがって、われわれが重工業建設の課題、重工業に必要な一定の基盤をただちに確立する課題に大胆にとりくまないとすれば、これはわれわれが、わが国にある経済建設に有利な条件を十分に知らないことを意味し、わが国民経済に早期に刺激をあたえ、わが国の農業と軽工業にいつそう早い速度をあたえ、このようにして漸新的なあゆみだけでなく飛躍によって進歩をもたらすために、現在ある利点を利用する能力がないことを意味する。ところでわれわれは、農業と軽工業が重工業のためのしっかりとした基盤となったときをはじめして重工業は力強く前進できるという事実を十分に意識していなければならぬ。われわれが、わが国の農業と軽工業の現在の貧弱な水準を顧慮しないとするれば、農業、軽工業と、重工業とのあいだの必然的な環を見ないとすれば、農業と軽工業の前進をめざさずに重工業を促進するとすれば、われわれは、実践上重工業の発展に失敗するだけでなく、現在の経済的不均衡を悪化させ、いっそう多くの困難をつくりだし、わが国民経済全体の前進をおさえることになる。したがってわれわれは、最初から農業と軽工業の成長を促進するように努力し、こうした分野で急速に最初の飛躍的な前進をなしとげねばならぬ。重工業の前進は、例外なしに農業と軽工業の促進をめざすものでなければならぬ。なぜなら重工業の行動なしには農業と軽工業の進歩はありえないから。そのうえ、重工業が農業と軽

工業に奉仕し、その前進を援助することは、重工業自体の優先的な発展のための条件をつくり出すことにもなるから。

現在、重工業のもっとも重要な課題は、どの生産部門にも例外なく、とりわけ農業と軽工業に、道具を装備できるようにすることである。道具は、それぞれの部門、それぞれの作業種類に適するように、種類も多様でなければならず、技術水準も初歩的なものから近代的なものまで、いろいろでなければならぬ。このようにして、労働生産性をすくなくとも二倍ないし三倍に急速に引き上げるのである。現在の経済情勢のもとでは、労働生産性を向上させるには、一連の重要な措置が必要である。たとえば作業の合理的科学的編成、労働部隊の厳格な活用、労働者の技能の改善、生産の方向と労働力分配の方向の正しい決定、経済管理の効率増進、思想活動の強化、日常生活の組織化の改善など、すべての人びとが例外なく熱心に働き、厳格に作業規律を守り、八時間の労働時間をフルに使うようにする措置である。しかし、作業道具の改善は、やはりもっとも基本的な措置である。このためには、われわれは、機械技術部門を早急に重要部門にたてなおし、資本と労働を大胆に投下し、もっと早い速度でこれを発展させるようにせねばならぬ。現在のもっともさし迫ったひとつの問題は、あたらしい技術工場を建設しつつ現在ある技術企業の管理に大きな注意をほらい、各部門と各工場がもっている実際の力を十分に調査し把握して、すべての技術工場をひとつの体系に組み入れ、任務を分担させ密接に

協力させること、全生産網にたいする総合計画を基礎として、各工場に生産の正しい方向を示すことである。各技術部門の技術幹部は、まず農業、小工業、手工業の中で底辺までおりてゆき、各種の道具をどのように改善するかについて、包括的な調査をおこない、短期間にもっと適当な設備を生産できるようにすることである。

わが国の技術部門は、その課題をみたすために、中央から地方の段階までのびる一つの体系に発展させ、この体系の中で製作が修理と、専門技術が一般技術と、賢明に結びつけられるようにせねばならぬ。中央政府は、農業、軽工業、資本建設、輸送、通信などのために近代的な機械と装備を生産する、技術水準の高い技術工場の建設と管理を監督し、一方、地方の技術体系は、農業生産に奉仕し、当面必要な消費財を産出することを主要な任務とする。

わが国の経済をだんだんに近代化し、生産作業と日常生活の現在の要求をみたすために、重工業のもう一つの重要な課題となるのは、自立経済の基礎として役立つエネルギー源と資材と、装備をつくりだすように努力することである。

電力は、大きく発展させ、当然に他の部門より一歩先にいなければならぬ。火力は水力と結びつけ、大規模発電所は中規模発電所と結びつけ、いずれも中央政府が直接に管理せねばならぬ。同時にわれわれは、小規模の水力発電所を可能なかぎりいたるところに、とりわけ高地に建設せねばならぬ。経済膨張のために急速に電力資源をつくりだすように、今後数年のあいだ

われわれは、国内産の石炭に依存し、大容量の火力発電所を建設し、一方現在ある可能性にもとづいて水力発電所建設の積極的な準備をせねばならぬ。電力、セメント、煉瓦、タイルの生産のために、また燃料用、輸出用に、われわれは急速に石炭の生産を増強せねばならぬ。このためにわれわれは、古い炭坑の採掘をつげつつ、あたらしい炭坑を開発せねばならず、石炭管理体制を円滑にし、この管理機構を補強し、各基礎単位の明確な任務を決定し、さまざまな労働組織を強化し、労働と装備のあいだ、石炭生産の連鎖のなかの環と環のあいだに、均衡のとれた合理的な関係を打ち立てねばならぬ。

建設資材（セメント、木材、煉瓦、タイル、石灰など）の生産は、わが国家の重要な任務と考え、全国的な生産網に組み入れ、中央政府と地方政府のあいだの責任分担を明らかにし、手工業と近代工業の結合を密接にすること。われわれは、とりわけアメリカ帝国主義者による野蛮な破壊戦争の時期がおわれれば、あたらしい資材基盤、技術基盤の建設と歩調をあわせるようにせねばならぬ。

冶金部門の建設については、われわれは、さまざまな経済的技術的問題に注意をはらい、建設と生産で最高の経済効率を確保するように努力し、鉄金属の冶金に当然重点をおき、一方、非鉄金属の冶金にはわが国の自然資源の状態とみあう適当な位置を保留せねばならぬ。今すぐわれわれは、地質学的調査を強め、調査、企画、生産のさまざまな課題を担当できる幹部と熟練労働者の養成にとめねばならぬ。

化学部門は、それが近代工業で演じている大きな役割にふさわしく急速に成長させねばならぬ。近い将来についてはわれわれは、初期の基本的な経済的課題の完遂に直接関係があるいくつかの主要企業の建設に努力を集中せねばならぬ。すなわち肥料、除虫剤、合成樹脂などを生産する企業である。同時にわれわれは、長期経済技術計画を積極的につくりあげ、これに各期ごとに定められる具体的目標をもち、各期の経済計画がわが国の生産を明確に援助して、「化学化」の道を前進させるようにせねばならぬ。

近い将来における重工業の各部門の発展のために上記した方向づけは、小生産を大規模生産に引き上げるために重工業が演じる「梃子」としての役割にも、重工業自身の長期の前進にも一致するものである。

注一 『レーニン全集』、第三二巻、「邦訳「共産主義インタナショナル第三回大会」、五二五ページ」

b 軽工業に大いに馬力をかけること

重工業の発展は、軽工業の均衡のとれた膨張を要求する。軽工業は、原始的蓄積の期間に人民のための必需品と輸出用製品を生産し、重工業のための重要な販路となる。

低開発経済と多年の戦争のため、わが人民の生活水準は、まだ低く、たくさんのさし迫った

問題が解決を迫られている。現在われわれは、まだわが社会全体の生活条件を根本的に改善することができない。しかし工業化の初期の段階に不可欠な最低生活水準を確保するために、われわれは、軽工業を發展させ、消費財の生産を急速に増大させ、無用な欠乏に終止符をうたねばならぬ。

一方、われわれの豊富で熟練した労働力と、われわれの利用しうる自然資源、とくに豊富な熱帯性農業があるので、われわれは、軽工業に強い刺激をあたえ、国内消費にも部分的には輸出にも、さまざまな消費資材を急速に生産することができる。

わが軽工業の体系は、人民生活の中で、また輸出において、重要な役割を演じるためには、全面的に発達し、食品、織物、家庭用品、木工品、紙類、文化用品の各工業を含まねばならぬ。このような軽工業を中央レベルでも地方レベルでも、各部門と各企業の経済的技術的特性に依りて建設せねばならぬ。はじめはそれは、初歩的な技術を近代的な技術と結合できようが、だんだんに全体として機械化され近代化されねばならぬ。軽工業は、国家所有企業のみならず、手工業と小工業の労働者によって運営される多数の集団企業を含まねばならぬ。手工業と小工業を見下すのは、わが国の現在の経済情勢の理解がとぼしいこと、小生産から大規模生産への前進の法則を不十分にしかつかんでいないことを示す。われわれは、手工業と小工業のなかで社会主義生産関係をたえまなく強化し完全なものにし、国家による指導と管理を強め、

協同組合の成員のあいだに真の平等をつくりだし、協同組合と国家のあいだに正しい関係をつくりださねばならぬ。同時にわれわれは、積極的に技術改善を追求し、生産を増大し、生産される商品の種類を豊富にし、手工業と小工業を軽工業の効率的な部分にかえねばならぬ。

要するにわれわれは、社会主義工業化を遂行しつつ、基本的な部門すなわち機械工業、電力、燃料、冶金、化学工業、建設資材、食糧、織物、家庭用品、木工品、紙類、文化用品などの部門をしっかりとおさえねばならぬ。これらの重要部門に十分な注意をはらい、それらを均衡のとれた合理的な仕方でも發展させることは、生活条件の改善の必要と拡大再生産の必要をみたす助けとなるだけでなく、農業とともに自立した国民経済の十分な基盤をつくりだすのに役立つのである。

○ 農業の發展につとめること

わが国の農業は、社会に穀類その他の食糧など必要な産物を提供する基礎的な経済部門であり、これを基盤として工業が拡大する。わが国の農業は、必然に二つの方向に發展せねばならぬ。すなわち、きわめて多様な産物を含む生産総量を急速にふやすこと。同時に労働生産性を急速に高めること。われわれは、このようにしてはじめて農業の全面的な成長を促進し、近代工業を建設し、いままで国内需要に応じていた社会的労働の一部を輸出用製品の製造に向

け、外国貿易をつうじて、農業労働の一部に技術革命のための装備と機械を生産させることができる。これは、人民の生活水準を改善し、農村市場を拡大し、同時に社会主義工業化のための蓄積をつくりだす正しい道である。

この初期の段階では、農業の任務はきわめて重い。農業生産は、力強く前進し、全人民の必要を、なによりもまず食糧の点でみたし、全人民にますます改善される食事を保障し、軽工業には原材料を、技術革命に役立つためには輸出品を提供し、すべての戦線で国防需要にこたえねばならぬ。全国でも各地方でも、こうした需要を正確に具体的に見きわめ、現在わが国の農業がもっている可能性に依拠することによってはじめてわれわれは、生産の最良の方向を出し、生産の地方別専門化と合理的な企画立案をおこなない、技術革命に強い刺激をあたえ、全国の農業にあたらしい様相をもたせることができる。

わが国の農業は、熱帯農業で带状の温帯地帯をもち、三つの地域すなわち平地、内陸部、高地にはっきり区画されていてとなまれ、各地域はそれぞれ独自の強みをもっている。高地は、林業、家畜飼育、多年性工業用作物が強みであり、平地は、穀類その他の食用作物、短期性工業用作物が強みである。内陸部では米、代用食品作物、豆類、工業用作物を栽培し、大規模な家畜耕作をいとなむ。地方政府は、農業発展の過程で地域のそれぞれの強みを活用すべきであり、一方、中央政府の各部門は、三地域全部の農業生産を増進するため装備と資本を適当な部

門に集中すべきである。最近数年間、平地の農業は大きな進歩をとげ、いくつかの点で注目すべき業績をあげた。しかし、短期間のあいだに米、代用食品作物その他の作物の産出に飛躍的な前進がなければ、とくに労働のあたらしい分配を可能とするような労働生産性の飛躍的向上がなければ、わが経済にもわが人民の生活にも本質的な変化をもたらすことはできぬ。内陸部と高地は、過去数年間あまり前進をとげず、その大きな底力にはけっして対応していない。いまや、われわれの業績を基礎として、農業発展の方向を大きく変え、内陸部と高地に大きい割合で市場性商品を生産する農業地帯を大胆にもうけるときである。平地の農業生産を内陸部や高地の農業生産と密接に結びつけることによってはじめてわれわれは、全面的で豊かな農業を、工業発展の「基盤」としての役割を全面的に演じる能力のある農業を、うみだすことができる。平地の農業は、力強い成長をとげ、高地の農業発展のためのしっかりした「跳躍台」となる必要があり、逆に、高地の農業は平地の農業を支えるために、その可能性を發揮する必要がある。以上述べた三つの地域のほかに、海は海産物の豊富な資源としても、便宜な交通輸送路としても、とくに重要である。われわれは、社会主義工業化の中で、生産のための方向を定め、あたらしい分業を実施しつつ、海がもっている巨大な可能性をひきだすことに十分な注意を払う、人民の生活水準を改善し、国を豊かにするうえで海が効果的に貢献できるようにせねばならぬ。

近い将来についていえば、農業の戦略課題はつぎの三つの目標にある。すなわち「もみ米五トン、農民一人、豚二頭」である。「耕作地ヘクタール当りもみ米五トン」は、米作農民だけでなく、わが社会全体にたいする十分な食糧を意味する。それは、食糧問題が米だけで解決されるという意味でなく、代用食品作物、野菜、その他の食糧もそれぞれの地方の特異性に応じて適当な割合で食糧問題の解決に寄与するという意味である。

「耕地ヘクタール当り農民一人」は、集約耕作に必要な人力の提供をめざすだけでなく、輸出品の産出に労働力の一部をさきつつ、農業と工業を發展させるためのあたらしい分業をめざすものである。

「耕作地ヘクタール当り豚二頭」は、家庭消費用に食肉を提供するだけでなく、集約耕作のための肥料を提供し、食肉の一部は輸出用にあてるのである。こうした三つの目標にむかって全力を傾けることは、単作農業を多角農業にかえ、地方経済を全面的にはたかせ、各地方の労働をあたらしい全国的な分業の基礎として再分配するために努力することである。

こうした戦略課題をはたすためにわれわれは、わが国に大規模社会主義農業を建設し發展させる方向を十分に知らねばならないとともに、すぐつぎの段階での工業と農業の関連性を十分に知らねばならない。われわれは、農業にたいする全般的指針と運営上の指針を大胆なやり方で完全無欠にし、実践的で徹底したあたらしい活動スタイルを採用せねばならぬ。指導的な幹

部は、協同組合や地区を洩れなく訪れ、その情勢を評価し、それぞれの経済的技術的問題を根本的に解決できそうな、大胆で実践的な措置を勧告する能力をもつ必要がある。個々の典型的な成功から、科学性のある一般的結論をひきだす能力をもつべきであって、たんなる経験主義で満足してはならぬ。しかし、こうした成功を「何倍にもしよう」とするとき、具体的な条件を十二分に考慮にいれ、得られた経験を種類のちがう土壌や作物や動物に一つひとつ適応させねばならぬ。民主主義をひろげ、技術革新を奨励せねばならないが、同時に、経済面でも技術面でも、生産面でも分配面でも、各地方、各協同組合の特異性に応じて厳格な規律を実施せねばならぬ。そして小生産者がおちいりやすい誤りである気まぐれや分散主義とたたかわねばならぬ。党と政府の幹部、とりわけ県や村の段階の幹部は、一つひとつの作物や動物について、経済上技術上の特異性を徹底的に知っていなければならぬ。幹部は、水、肥料、種子、耕作曆、農業機械にかんする問題を解決できなければならぬ。幹部は、協同組合の管理にかんじて実践的な知識をもち、一人ひとりが農業生産の一定の分野で専門家となり、その分野に責任を負えるようにせねばならぬ。幹部は、当面は協同組合の新規則にかんじて十分な知識をもち、これを慎重に実施せねばならぬ。われわれは、農業管理を完全に努力し、中央から基礎のレベルまで管理機構を強化しつつ、農業のためにあたらしい物質的技術的基礎を積極的に建設せねばならぬ。すなわち、水利網を完成し、集約耕作のために十分な水を確保し、

肥料、とくに堆肥と緑肥の供給をふやし、悪い種子をのぞき、労働力に適当な道具を供給することなど。

このようにして、初期段階の経済上の二つの基本課題、すなわち工業化のための資本蓄積と人民の必要の充足をなしとげるために、まだ遅れているわが国の農業は、深刻で多面的な革命的改造の過程をへなければならぬ。すなわち、技術改善と組み合わせた生産関係の改造、地方別専門化と組み合わせた農業の全面的発展、耕地の拡張と組み合わせた集約耕作と輪作である。農業のこのような革命的な改造は、農民だけの仕事であることはできず、労働者階級、社会主義国家全体、すべての部門、すべてのレベルの共通の関心事でなければならぬ。工業とおなじように農業は、国民経済の基本的な部門であり、社会主義集団所有体制に（たとえ程度は浅くても）依拠し、社会的拡大再生産に寄与している。それで、われわれが経済に全般的な指針であれ、運営上の指針であれ、指針を示す作業のうえで、農業を軽んじることがあつてはならぬ。なぜなら、農業の発展が緩慢で不均衡な場合は、確実に社会的生産の循環全体に悪影響をおよぼすし、とくに農業が重工業の重点的発展の基盤と考えられている初期段階ではそうだから。したがって、わが国家機関は、中央でも地方レベルでも、とりわけ工業、財政、商業の部門で、農業にたいしいっそう奉仕を厚くし、いっそう強力にはたらきかけることさえ必要であり、これによって短期間のうちに、わが国民経済全体の中で他の変化を先取りするような基

本的な変化を生じさせる必要がある。

d 中央経済と地方経済を同時に建設すること

わが工業は、深部にわたる改造をとげている多角的農業と密接に調和的に調整しあうために、二つの部門を含む必要がある。一つは中央政府が運営する部門、もう一つは各地方政府が運営する部門である。上記の調整は、全国的なレベルだけでなく、各地方でもおこなわれる。農業は、中央でも地方でも工業に食糧、労働、原材料、市場を提供する。農村地域のための生産手段と消費財は、地方工業だけでなく中央の工業によっても供給される。（農業といずれかの工業部門とのあいだの）こうした二重の関係は、それぞれの時期にそれぞれの部門が到達した技術水準と生産の規模に応じて、たえず進化する。近い将来については、農業ではあたらしい分業が実施されつつあり、中央で運営される工業はまだ若いのであるから、農業と工業のあいだの調整は、地方レベルでとくに重大である。したがって農業と工業のあいだの最適の均衡を達成するためには、経済管理の責任を地方の各段階にうつし、中央政府からの援助をもっと強め、中央経済のさまざまな部門を建設しつつ、繁栄する地方経済を急速にうみだすようにせねばならぬ。

中央経済とともに地方経済を建設することは、合理的な経済構造を樹立することであるが、

そのねらいは、工業と農業のあいだに可能なかぎりよい関係を確立することだけでなく、小生産から大規模社会主義生産へ前進しつつあるわが経済がかかえたその他の重要問題や、部分と部分との関係の問題全部に合理的な解決をあたえることである。事実、わが経済の客観的發展は、全国規模でも地方規模でもいくつかの問題点を提起し、全国についても各地方についても均衡のとれた比重という問題をなげかけている。わが社会主義経済には、中央の管理のもとではじめて繁栄できるものもふくまれている。わが国の経済生活のこうした客観的現実を見のがし、全国的な問題点と地方的な問題点に区別をもうけないと、経済法則の作用をおさえ、資本主義的發展の段階を知らないうかが経済の膨張をさまたげることになる。大規模機械化生産は、中央政府による集中的な統一指導と、各地方政府の集団支配の権利との正しい結合からはじめて生まれてくるものであり、小生産の転換や地方レベルの労働再分配と結びつけて大企業を建設してはじめて可能なものである。われわれは、全国だけでなく各地方の大きな底力を全面的に發揮させるすべを得、それによって多くの場所で、さまざまな規模で生産の強力な發展を促進する必要がある。われわれは、社会主義のすぐれた特質を利用して、大規模な近代的経済根拠地を打ち立て、わが国民経済の背骨として役立たせるばかりでなく、地方レベルで、適当な経済組織を建設するすべを心得、それによって人民のすべての可能性を活用し、人民を経済の建設、生産の發展、

日常生活の組織化に参加させるようにする必要がある。

われわれは、おくれた経済と低い生活水準から出発しているのであって、わが国と人民の消費需要は、ますます複雑になっている。中央官庁は、全国的意味のある基礎的消費需要にしか目がとどかず、またそうでなければならぬが、各地方は、適切に時機を失しないように二義的な消費需要をみたさねばならない。中央政府と地方政府の密接な連絡と明確な責任分担、これが、全国の發展水準にあわせるだけでなく、各地方の可能性と特殊性にあわせて人民の消費需要をみたしていく最善の道である。したがって、生産と消費の均衡という問題は、全国規模だけでなく各地方ごとに提起し解決せねばならぬ。全国規模の均衡と地方ごとの均衡と、この二つの均衡は、どちらも独自の重要性をもち、相互に支援しあい、補完しあうものである。生産と消費の均衡にかんする主要問題が中央政府によって解決されれば、各地方政府は、各地方でおこる同じような問題にたいしよりよい解決策を出せることになるし、逆に、地方的な均衡問題が解決されれば、中央政府が全国的意味のある均衡にかんする主要問題をよりよい仕方で解決できる条件が生みだされることになる。

各地方では、生産と消費の均衡がとれると、これは経済をいっそう大きく前進させ、生活水準を向上させ、国民経済にいっそう大きく貢献することになる。各地方は、その潜在的な可能性を最高度に発達させねばならないし、それは可能でもあり、また、その潜在力と要求に見あ

って経済を膨張させる点で他の地方と競争せねばならないし、それは可能でもあるから、生産も消費もいっそう多様化し、人民の生活条件は改善されるであろう。もちろん、全国の消費にたいし統一的な基礎的標準をもうけねばならぬ。なぜならこれが社会主義の原則であり、集団所有制にもとづく社会主義体制の至上命令だから。

小さい手工業生産から大規模の近代的生産への前進は、必然に労働の再分配を要求する。一定の技術水準は、必然にこれに照応する分業を生みだす。現在、生産力が国境をこえて成長しているとき、社会的労働は個々の国の枠内だけでなく、ある程度までは国際的規模で分配される必要がある。わが国では、生産性がきわめて低い農業労働力がまだ社会的労働力全体の四分の三を占めている。だから、あたらしい分業は、なによりもまず農業労働の再分配を意味する。食糧生産労働の一部を工業用作物栽培、家畜飼育、漁業、林業にうつし、農業労働の一部を工業、輸送、通信にふりむけ、未熟練労働を熟練労働にかえ、生産性の低い労働を高い生産性水準に引き上げること、これが経済建設のさし迫った要求であり、現在の段階における労働管理の主要目標である。労働再分配のこのような措置は、時機に適し合理的であれば、技術革命の速度をはやめ、大規模生産制度の誕生をはやめるであろう。われわれは、原始的蓄積も人民の生活水準の改善も、社会的労働の再分配、経済の各部門間の労働の再分配を基礎としてはじめて達成できるものであって、農業労働の現状をそのまま維持することによって達成できる

ものでないことを、深くわきまえねばならぬ。

すぐ目の前の段階では、主としてさまざまな生産根拠地や各地方からはじめて、あたらしい分業を実施する必要がある。うたがいのもなく、中央で運営される経済部門の力強い成長は、一定数の地方労働者を引きつけ、労働にまったくあたらしい質をあたえ、大規模生産の上昇という方向で労働の構造を変えるであろう。しかし、このような部門の発展だけに依存しておれば、労働の再分配はきわめて緩慢に進むしかあるまい。というのは、毎年これらの部門は労働力のうち比較的小さい割合しか吸収できず、社会的労働の一部だけの生産性しか向上させることができず、一方、労働力の大部分は、各地方にとどめられ、合理的な分配と合理的な利用をさし迫って必要とする。どのようにして労働の生産性を高め、農業労働力の一部を古い職業から解放するか？ この解放された労働をもっとも有利に利用するにはどうするか？ 毎日おこってくるこのような問題を時機を失せずとらえ解決できるのは、それぞれの協同組合と各地区だけである。小規模の地方の機械工場を設立したことによって、数百万の労働日が解放された。しかし、多くの場所では、この労働日があたらしい職業に用いられず、したがって社会のためにあたらしい富がつけられてはおらず、農業労働の生産性は向上してはいない。経済管理のこのような欠陥が時機を失せず克服されないならば、科学と技術の農業への導入が妨げられ、あたらしい分業が阻害され、あたらしい経済の建設の速度が落ちるであろう。

小生産から大規模生産へ前進しているわが国の分業のこうした発展法則は、われわれにたいし、中央で運営される経済部門の成長を促進するだけでなく、各地方経済を合理的に建設するために全力をかたむけることを要求している。地方経済の建設と結びつけた各地方の労働分配を基礎として始めて、われわれは、社会全体のための労働の再分配に進むことができる。逆に、国民経済の膨張と中央運営経済部門の膨張は、各地方の経済状況と労働状況に作用をおよぼし、各地方の労働の再分配を促進するであろう。

都市と田舎の関連性には、ふつう二つの現象があらわれる。都市の田舎からの分離と田舎の都市化である。この二つの過程は、けっして孤立したばらばらのものでなく、経済の発展とリわけ工業の発展と密接に結びついている。都市の田舎からの分離は、実は工業の農業からの分離を意味し、田舎の都市化は、実際は農業の工業化、田舎地域への工業の移植、工業と農業の密接な調整を意味する。中央で運営される経済を建設し、これと平行して各地方経済を發展させるのが、都市と田舎を結びつけ、急速にこの両者の差異をなくする最善の道である。中央で運営される工業根拠地を適切な場所に建設し、農業と地方工業をふくむ地方経済を擴張することによって、われわれは、都市も田舎もともに発達させることができるようになる。多くの場所では田舎地域と密接につながりあった都市があらわれるであろう。国全体の政治、経済、文化の中心としてはたらくいくつかの比較的大きい都会のほか、われわれは、経済發展の力にも

とづいて、多数の小規模中規模の町を各地に建設するであろう。それによって町が田舎地域に影響をおよぼし、田舎地域が経済、文化、社会の分野ではやい速度で進歩するのを助けるようになるであろう。そのときわれわれは、高地でも低地でも、各地方に例外なくあたらしい様相をもたせ、すべての市民にどこで生活していても、物質的な福祉と豊かで健全な文化生活を提供することになるであろう。

中央経済と地方経済を同時に建設することは、人民の国防にしっかりと経済的基礎をつくることにもなる。わが国の人民戦争の強さは、全人民が、決起して敵に対決し、政治、軍事勢力に組織され、三つの戦略地域つまり山岳森林地帯、平地、都市のすべてで適切な戦術を用いるときに発揮する力量の中にある。各省が、作戦のうえでも兵站のうえでも、戦闘のために生産のためにも、戦略単位である。だからわれわれは、近代的重工業の建設をめざすだけでなく、強固な地方経済の建設にとめねばならず、大きな生産力をうみだすだけでなく、われわれの軍事戦略にそうてこの生産力を地理的にどのように配分するかを心得ねばならぬ。そうすることによってわれわれは、どのような種類の戦争でも、どのような状況のもとでも、われわれの底力を戦闘でも生産でも維持し拡大し、長期闘争にそなえて人民の力をそだてることができらる。

わが国の経済發展にかんする上記の法則は、中央経済と地方経済のあいだに幾多の関連性を

つくりだし、経済管理の面で幾多のあたらしい問題を提起している。

地方経済が拡大すればするほど、その管理上の任務は重くなり、一方、中央政府による集中管理の内容もますます豊かとなる。わが経済が発展するにつれて、多くの地方的な問題点が全国的意味をもつようになり、均衡のとれた生産割合や生産分野にかんする地方的性質をもった幾多の問題が全国的なひろがりをもつようになる。このようにして中央経済は、地方の可能性や技術革新の展開のおかげで一步一步強化されるであろう。しかし、地方管理の内容は、経済が成長するにつれてますます豊かになるであろう。つまり、均衡のとれた生産割合や生産分野の問題で地方管理の限界をこえたものは、中央政府にうつされるし、これらの事項にかんする一連のあたらしい問題が地方の経済生活自体のなかからおこってくる。このようにして、中央政府の管理にも地方政府の管理にも、経済生活によってつねに変動しつねに発展する内容が提供される。各地方への拡散によって中央経済が弱くなるだろうとか、集中化によって地方経済の成長がおさえられるだろうとか恐れる必要はない。まえにわれわれは、中央政府と省政府のあいだの経済上の責任分担にむかっていくつかの措置をとったが、これはかならずしも正確に定められたものではなかった。われわれはまだ、つぎのような現実、つまりつぎのような法則を十分には考慮に入れていなかったのである。すなわち、わが社会主義経済は、必然に中央で運営される経済と地方経済とを含まねばならないという法則である。管理上の責任を各地方へ

分配するねらいは、各地方が農業と地方工業を拡大するように、あたらしい分業を実施するようになり、そしてこれを基礎として、中央経済の発展により大きく貢献するように、地方人民の生活によって提起される問題に中央官庁が定めた路線と政策にもとづいて時機を失せず解決をあたえるように、そのための条件をつくりだすことである。

すべての分野で管理上の責任をこのように分担させることによって、われわれの統一経済構造のなかには、中央経済と地方経済、中央工業と地方工業、全国計画と地方計画、全国予算と地方予算が生まれることになる。

経済管理を地方化し、地方経済の発展につとめることは、けっして各地方を独立の経済単位にかえることと同じではない。中央政府は、主要な均衡と指数からなる全国計画をつうじ、生産消費にかんする重要政策と基本基準の確定をつうじ、資源と資本の配分をつうじて、経済制度全体の統一的集中指導権をにぎる。中央経済は、もっとも重要な部門をふくみ、国民経済全体にかんする指導力、梃子としてはたらく、各地方は、中央政府が設定した路線、政策、共通の方向、計画にもとづいて、それぞれの経済を建設し管理する。各地方経済は、国民経済の構成分であると同時に、あたえられた地方の範囲内では、一つの合理的な均衡のとれた構造である。地方経済は、中央政府がつくりあげた共通の方向、計画、政策を具体的に表現するものであるが、同時にその地方の技術革新と創造性、その特徴と特異性を反映する。

各地方相互間の関係は、社会的分業の全国的制度の中の各部分の社会主義的協力の関係である。この関係はさまざまな側面をもつ。すなわち技術、原材料、消費にかんする交換と援助、共通の利益をもつ経済文化施設の建設のための協同の努力など。こうした関係は、中央官庁の指導のもとにおかれる。それは国家計画に逆行すべきではなく、逆に、国家計画を補完し豊かにするべきものである。

各省が経済の発展に必要なすべての条件をもつように、われわれは、経済、文化、教育の分野で管理上の責任を各省に委譲するほかに、各省に十分な労働力、資源、金融、市場を確保し、各省が経済発展と労働の大規模な再分配に必要とするものをみたとすようにせねばならぬ。当然ながらある地方に定められる最適の規模は、各省同一の、融通のきかない、不変の枠ではない。われわれは、各省のうちどれかを限定して、面積、人口、工業資源、農業資源、輸送手段、通信手段などすべての要因を慎重に吟味し、地方経済の均衡のとれた拡大に役立つ調和をつくりだすようにする必要がある。

中央経済と各地方経済との関連性は、多面的で複雑である。この関連性は、たとえば計画立案、歳出入、資源と生産品の割当などにかんする一連の規則や実践的な措置の形に具体的にあらわす必要がある。党と国家がきめた経済発展にかんする路線と政策を実施するために、われわれは、いくつもの一般原則やスローガンで満足してはならず、逆に、組織問題や法令を

徹底的に研究し、仕事と責任の明確な分担を実施し、無用と同じことを二重にやるとか、具体的に担当する人間がいらないとか、官僚的な集中化や無政府的な分散化におちいるとか、しないようにする必要がある。

e 経済管理を改善すること

経済発展の路線と方向がきまると、適当な管理制度をつくることごとくに重要になる。なぜなら、それが路線そのものの成否をきめることになりかねないから。経済管理の現在の制度と機構は、まだ多くの不十分さを示し、われわれの経済建設の課題に十分にこたえてはおらず、それによって党の路線と政策の実行に悪影響をおよぼし、経済改造と経済建設の速度をある程度弱めている。にもかかわらず、この分野でのわれわれの欠陥に十分に気づいていない同志たちが多い。同志たちは、経済管理の重要性を十分には理解せず、経済組織の仕事に真剣には取り組んでこなかった。

経済を管理することは、客観的法則にもとづいて発展する生きた有機体を管理することである。管理制度は、それが経済一般の進化を規制する法則と、各地方、各部門、各単位、各時期におけるこの法則の特異なあらわれとを全面的に反映しているときはじめて、適切なものと考えてよい。管理制度は、客観的現実から生まれ、経済状態とともに変動するのであるから、気

まぐれや図式主義や官僚主義を許さない。それは、すべての部門、すべての段階の指導者にたいし、経済生活に徹底的に精通し、すべてのあたらしい要因の出現に敏感であることを要求する。プロレタリアートの執権の強みは、どこから来ているのか？ プロレタリアートの執権は、ものごとの発展法則を理解し、ものごとの進展により緊急に必要なことが生じたとき、これに応える措置を主張する能力をもっている。その強みは、まさにこの能力から来ている。

現在北部では生産の発展と労働の再分配がその初期の段階にあるが、このようなときには経済管理体制は、極度の柔軟性を示し、社会主義の普遍的経済法則にも、小生産から大規模生産への前進を規制する法則にもかなうものでなければならぬ。この体制は、中央の統一指導制をも、各地方や各基本単位の集団支配制をも最大限に反映するものでなければならぬ。われわれは、市場関係を正しく利用し、採算制の適用範囲をひろげつつ、一方では計画化作業を促進せねばならぬ。物質的な刺激にもいわさねばならないが、一方では政治思想教育を強め、大衆の社会主義意識を高める必要がある。

社会主義経済管理については、まっさきに計画化作業について述べておく必要がある。これは、社会主義経済制度の特別の長所である。計画化作業をないがしろにし、計画経済発展の法則を軽んじるのは、社会主義経済の本質から離れることであり、プロレタリアートの執権の国家がもっている経済の組織者、管理者としての役割を抹殺することである。しかし、いまわれわれが当面している問題は、計画経済の中で、われわれは、どのようにすれば計画化作業を実施できるか？ また、どのように実施すべきか？ われわれは、市場関係と信用、価格、賃金、利潤などの梃子をどの程度まで利用すべきか？ である。ここに現在わが国の経済管理がかかっている基本問題の一つがある。

われわれは小規模生産から出発するのであるから、全国的意味のある経済問題にも、地方的意味のある経済問題にも当面している。それでわれわれは、中央、地方、基礎の三段階で総合計画をつくりあげる必要がある。これは、客観的な必然であり、わが国の経済の現在の発展段階に一致し、経済の拡大と蓄積の初期段階の本質的な課題に一致する。各段階の計画化関係官庁がいまあたえられている課題と権限は、これによってこれらの官庁が、国民経済の発展に最大限寄与しつつ、それぞれ独自の特殊な経済問題を解決できるようにすることを目標としている。中央の計画は、国民経済全体がとるべき方向を示し、中枢部門の速度をきめ、経済発展の主要均衡と主要段階を規定し、全国について主要課題と主要指数を立てる。中央の計画化関係官庁の全般的指示と運営上の指示にもとづいて各地方と各基礎単位は、中央計画が立てた課題と指数の完遂をめざしてそれぞれ独自の発展計画をつくりあげると同時に、すべての潜在力を活用し、すべての課題を果たし、地方レベルまたは基礎レベルにあるすべての問題を解決するうえで、最大の創意と構想力を示さねばならぬ。計画化の各段階は、生産と採算制、蓄積と拡

大再生産の単位である。全国にたいして定められた経済指数と技術指数のほかに、各段階は独自の指数をもつことができ、またもたねばならぬ。計画化の三つの段階は、あたえられた課題や機能はちがうが、有機的な一体をなし、その中で中央計画化関係官庁が指導的役割を演じる。

わが国民経済は、急速な革命的变化の過程を経過している。生産でも消費でも不断にあたらしい要求、潜在力、均衡があらわれるが、われわれは、これを現実の実践をつうじてしかとらえることができない。したがって、われわれは、一方で長期計画を堅持すると同時に、もう一方で短期計画に最大の注意をはらわねばならぬ。前者は比較的長期にわたる国民経済の発展をえがき、大規模生産の建設と拡大のための主要計画を含むものであり、後者は、特殊な目的を達成し、特殊な問題を解決し、計画の実施過程で発生するさまざまな問題に時機を失せず解決策をあたえるための具体的な運営上の計画である。

たとえば五年（一〇年）にわたる長期計画なしには、経済全体の発展を目に浮かべることができず、資本の蓄積、幹部や労働者の養成、科学的技術的研究、基本調査や地質学的調査、経済地域の画定、生産計画の立案など、すべての必要な準備をおこなうことができない。しかしわれわれの現在の経済条件のなかでは、われわれは、短期の年間計画に最大の重要性をおき、毎月、あるいは毎日でもよい、年間計画の実施状況を監視せねばならぬ。なぜなら、こうした実践的な活動が目みえた成果をあげるのだから。経済の発展を綿密に追求し、基礎単位的情勢

を徹底的に把握し、あたらしい要因を見つけたし、時機を失せずすべての欠陥を是正すること、これはすべての経済業務の正規の工作スタイルでなければならぬ。その意味で、経済と生産の指図は、作戦の指揮に比せられよう。

現在わが社会主義経済の重要な部分は、分散した手工業の状態にまだ低迷している。社会生活の多くの要求、とくに日常の必需品は、わが国家が完全に予見し満足させるには、あまりにも数多く多様でありすぎる。この状態は、わが国家にたいし経済を指図しつつ、計画と市場を上手に結びあわせ、計画を市場によって補完することを要求する。われわれは、国家計画（これは党の第二次綱領とみなしてもよいが、プロレタリアートの執権の国家によって施行された法律である）によって基本的経済関係と主要な均衡を規制することができるし、またせねばならないが、それだけでなく、経済指数を統制し、二義的重要性しかもたず国家計画の計算にふくまれていない一定の経済活動を調整する目的で、市場機構を利用することができるし、またせねばならぬ。われわれは、計画化作業と国家計画の指数に最大の注意をはらわねばならないが、それだけでなく、市場の活動を厳格に統制し、市場が計画経済の管理におよぼすマイナスの影響をおさえつつ、そのプラスの役割を促進するようにせねばならぬ。

他の社会主義国の経済建設の実践も、わが国のそれも同様に実証しているように、经济管理においてはわれわれは、価格、賃金、利潤、信用などの梃子を正しく利用し、採算制の体制と

の現在の条件の中では、最大の利潤は、生産を拡大し、部門や業種を多様化し、製品の量をふやし、各部門についてもわが国民経済全体についても労働生産性を高めることにある。このような基盤にたち、もっぱらこのような基盤にたつてはじめて、われわれは、利潤について語ることができ、利潤造出をわが経済の社会主義的性質と調和させることができる。われわれは一方で、どの部門でも、どの時期にもそれぞれできるかぎり利潤をつくらねばならないが、同時に利潤と損失の問題を総合的に検討するために、長期にわたるわが国民経済全体の発展を考慮に入れる必要がある。

われわれが小生産から大規模生産へ、自然経済から商品経済へ前進するにつれて、社会的再生産の過程にとって流通と分配の問題がますます重要性をもってくる。流通は、多くの分枝をもっているが、生産の各部門のあいだ、生産と消費のあいだをつなぐ環として、また、各経済部門や各経済分野を結びつけて統一した有機体にし、自立したわが国民経済を諸外国の国民経済に結びつける環として、生産に積極的に奉仕し、経済交換を拡大し、価格政策を補強し、売買を改善し、流通経費を減少させねばならぬ。われわれは、このような仕方ではじめてあたらしい分業と拡大再生産の過程を促進し、蓄積に寄与し、人民の必要をよりよく満たすことができる。商業業務の幹部は、「俗っぽい商人」ではない。彼らは、社会の全成員の経済的利益を追求し、社会の全成員に主人としての権利を保障する、社会の「主婦」、人民の「委員」と考

社会主義的な商売の仕方を全面的に実施せねばならぬ。商品と貨幣関係は、生産発展の一定の水準と密接に結びついた歴史の産物である。私的所有を基礎とすれば、この関係の発展は、階級分化をとめない、社会を富者と貧者に分割するのを促進する。しかし、経済の梘子がひとつとびプロレタリア国家の手ににぎられ、搾取階級が廃絶され、小生産者が集団作業の道につくと、労働の再分配や技術革命と結びつけられた商品と貨幣関係の正しい合理的な発展は、生産の増大を促進しあたらしい生活を組織するプラスの要因となる。したがって、価値法則をはたらかせ、採算制を實行し、価格、利潤、賃金、信用などの梘子を利用することはきわめて重要な経済問題である。価値法則と採算制の實行によって、経済上技術上の措置の経済的効果性を測定し、各企業、各地方、各部門、各段階の作業の質を調べ、経済上のすべてのかくれた可能性を動員し、国家と民族のために技術革新、節約、勤勉を奨励することができる。わが国のようにまだ貧しく、労働生産性が低く、資金が限定されている国で経済建設の事業をおこなうには、拡大再生産を實施しつつ、目前の必要をみたすことができるように企業の効率になおさら大きい注意をはらうことが要求される。われわれは、全国規模だけでなく各部門の内部でも、各レベルやそれぞれの基礎的な経済単位でさえ、拡大再生産のための利潤を蓄積せねばならず、生産が一循環するごとにすべての部門、段階、単位がはつきりした進歩のあとを見せねばならぬ。しかしわれわれは、利潤と損失を私的小生産者のせまい心で見えてはならぬ。われわれ

えねばならぬ。

金融銀行業務は、国民所得の分配のための枢軸であり、わが国民経済全体の手形交換所であり「神経中枢」である。これはたんに資本を集めるだけではなく、資本をいっそう急速に蓄積、集中するための条件をつくりだし、国民所得の正しい分配をおこない、経済発展のそれぞれの段階の特殊な特質と要求に一致するように蓄積と消費とのあいだに合理的な関係をつくりだすものでなければならぬ。

わが国はまだ貧しく労働生産性はきわめて低い。原始的蓄積と目前の消費とのあいだに正しい関係を打ち立てることは、きわめて骨のおれる課題である。原始的蓄積なしには、経済拡大に質的な飛躍はありえず、繁栄する経済とみちたりた生活の基礎として役立つ重工業や大規模生産はあり得ない。したがって「ベルトをひきしめ」ほんとうに不可欠のものではないすべての支出を削減し、断固として蓄積のために資金を留保することは、至上命令であり、わが人民の社会主義建設における高い政治意識を実証するものである。しかし、社会主義経済の性質そのものからみても、労働生産性を高め、生産を拡大する必要からみても、われわれが人民の福祉にいっそう大きい顧慮をほらい、人民のすべての基本的な必要をみだし、日常生活の中ですべての無用の欠乏や複雑さに終止符を打つよう、決意することが要求される。

金融銀行業務はそのほかに、その活動をつうじて各部門、各地方、各生産単位にたいするその統制と監督を強め、すべての部門と段階にたいしその経済計画化と生産方向を完全なものにさせ、思いきって労働、資源、資金を節約させ、断固として使い込みや浪費とたたかわさねばならぬ。使い込みと浪費という二つの悪は、許しえない犯罪とみなすべきである。というのには、この二つはわれわれから物質的富を奪いとるだけでなく、あたらしい生産関係を傷つけ、あたらしい人間、社会主義的人間の思想と感情に悪影響をおよぼすからである。

こうした課題を果たすために、すべての部門と段階の経済幹部、とりわけ商業、金融、銀行業務の幹部は、極力勉強して、党と国家の経済路線と経済政策を徹底して理解し、流通、分配、信用について基礎的な知識を得、こうした梃子の体系の重要性を完全に理解し、この体系を拡大強化して経済指導と经济管理のうえで活用するよう努力する必要がある。

現在のわが国の经济管理できわだった特徴の一つはつぎのとおりである。すなわち、一方でわれわれは、小生産から大規模生産へ、分散から集中へ前進する社会主義経済を管理せねばならず、また一方で近代的な、厳格に組織され、高度に集中された企業を運営せねばならぬ。したがって、わが国民経済全体のための通常的管理体制のほかに、つぎのような基本原則にもとづいて企業のための適切な管理制度をつくりださねばならぬ。すなわち企業の政治課題をみたくこと、技術を完全にわがものとし、技術改善のための条件をつくりだすこと、すべての面で、つまり計画立案、資材、装備、金融、労働の面で、生産規律を守ること、集団的に主人と

なり適当な生活条件を獲得する労働者の権利を保障すること。こうした管理の基本原則は、近代工業と労働者大衆の集団支配制との集中的統一的性格を表現するものであり、労働生産性を刺激してたえず向上させ、勤労人民の生活水準を改善する助けとなる。これが企業管理の目的である。

われわれは、经济管理、生産の発展、社会生活の組織化の課題をになうために、強力な機構をつくり、これが经济管理の要求をみたし、各部門や各地方の特殊性に適應できるようにせねばならぬ。この機構は、系統的に基礎の方向をむき、経済上技術上のあらゆる問題に十分に通じているものにせねばならぬ。われわれは、この機構をつくるるとき、この機構を経済課題から遊離させ、生産技術の緊急な要求をみたすのを妨げるような行政業務にまねてはならない。さもないと、重要問題がおこっても、だれもそれを解決する権限はないとか、あるいは責任と権限の所在が二重にあるとかいうことになる。また、机の上で仕事をすると人間はたくさんいるのに、管理者、統制者、監督者が欠乏するということにもなりかねないし、そうなれば管理上の効率を傷つけることになる。この機構の運営部門のあいだには、確立した仕事上の関連性をもたせ、正しい規定や規則をつくって権限と責任を明確にきめるようにし、これによって各部門、各段階が国家の全体としての主権にしたがいつつ、それぞれ主人となることを保障し、管理上の各段階が経済上技術上の一般基準を基礎とし、かつ国家計画の枠組の中で、すべての潜

在力を十分に汲みつくすため、また、すべての生産課題を成功裏に完遂するために、労働、資金、資源を割当てる権利をもつことを保障せねばならぬ。

各部門や各段階のあいだの関係では、統制業務、すなわち経済統制、技術統制、人事統制に大きく注意せねばならぬ。統制業務と経済契約体制は、管理上のきまりきった日常的仕事にし、管理上の実務に誤りや欠陥があれば、すべて時機を失せず是正できるようにしておく必要がある。

経済組織の一つの重要な課題は、经济管理の中で党、国家、大衆の関係を正しくきめることである。党は、経済建設者軍の指揮官であり参謀部であるから、基本的な路線と政策をつくり、主要な原則と措置を確立し、経済戦線で大衆を強力な攻勢に動員し、国家机关の活動を統制せねばならぬ。党の指導性は、歴史的必然である。それによって、わが経済に正しい方向が保障され、人民の各階層の利益が守られ、主人としての人民の役割がたえまなく強められる。一般に革命において、また特殊的には経済建設において、わが党にはなんら他意はない。国民経済全体も各工場や各農場も、形態こそ異なれ、また経済的技術的条件こそ異なれ、集団所有の人民財産である。こうした客観的現実が、わが党にたいし、それぞれの場合（工業、農業、工場、協同組合など）に適した、さまざまな指導方法を編みだし、これによって党の指導性を堅持し、行政の管理機能を維持し、一方、大衆が主人である権利を直接行使するのを保障する

ように要求している。

人民主権の象徴である国家は、その名において国民経済を管理する権力機関である。したがって、党の経済上の路線と政策が実施されるためには、国家の管理上組織上の機能を發揮させねばならぬ。国家権力の各段階は、法律、条令、規則にもとづき、かつ専門的、技術的、職能的官庁をつうじて、直接に経済を管理し、生産と分配に指針をあたえ、さまざまな社会階層の物質的利益を党が定めた路線にそうて調和させる。強力な国家機構を建設し、その各段階の管理機能と「権力機関」としての役割を尊重し、経済を管理するためのあらゆる条件と十分な権力を国家機構に保障すること、これがすべてのレベルの党機関の責任である。わが党の経済指導面での成功は、正しいコースをえがき、党の隊列を動員して経済、技術業務に真剣に取り組ませただけにあるのではなく、党が強力な行政制度をつくりだしたこと、この行政制度が管理上の課題をにない、党の路線と政策を大衆の実践的な行動にうつしかえる能力をもっていたことにある。

結局、党の指導性も政府の管理上の役割も、人民が社会生活のすべての分野で集团的に主人である権利を保障することをめざしている。しかし、われわれは、全人民の力を経済建設に結集し、官僚主義のあらゆるあらわれと権力乱用を防ぐためには、大衆が经济管理と党や国家機関の活動の監督とに直接参加する適切な形態を考え出さねばならぬ。

労働組合は、「共産主義の学校」であり、经济管理の学校であり、労働者大衆の教育の学校であって、労働者にその所有する企業の政治的課題を納得させ、その企業が生産制度、人民生活、国の運命と将来にたいしてもっている位置づけと重要度を納得させねばならぬ。労働組合は、労働者が主人であるという意識と主人としての能力をたえまなく高め、労働者がすべての生産活動と労働者が所有する企業の生活とに効果的に参加するようにすすめねばならぬ。经济管理機関は、労働組合の意見に十分考慮をはらわねばならぬ。なぜなら、これこそ、经济管理機関が大衆政治組織の声に耳をかたむけ、大衆が集团的に主人である権利を尊重することになるから。労働組合の一つの重要な課題は、労働者を動員し案内して、競争運動に全面的に参加させ、それによってこの運動に真に大衆的な性格をあたえ、労働者がじっさいにその企業の主人であることを示すことである。社会主義競争は、集団経済体制とあたらしい民主主義体制の産物であって、政治的、道義的にも、経済的、技術的にも、豊富な内容を含んでいる。それは、大衆を動員し教育する適切な道であり、生産を促進し、技術を改善し、労働生産性を高める強大な動力である。それは、国家の利益をそれぞれの集団や個人のそれと正しく調和させる。労働青年同盟は、生産、科学、技術の戦線の精鋭部隊であって、管理機構の中で、とりわけ基礎のレベルで、その役割にふさわしい位置をもたねばならぬ。党と国家機関は、そのあたらしい経済上の重責を果たし、複雑な科学上技術上の問題を解決するうえで、労働青年同盟に依

掘せねばならぬ。こうした熱烈な社会活動の過程で、わが青年たちは、きたえられ、教育され、生産の面でも日常生活の面でも、社会の眞の集団的な主人にかわる。

このように、国民経済全体でも各経済単位でも、党、国家、人民のあいだに不断の密接な調整がなければならぬ。これを基礎としてはじめて、人民主権が完全にかつ永続的に守られ、社会主義体制がほんとうに固められるのである。

資本主義的發展の段階をとおらずに社会主義に進むことは、勤労人民にとっては自由と幸福にいたる最短の道である。しかしわれわれは、多くの困難と労苦に直面せねばならぬ。なぜなら、われわれはゼロから出発し、古い社会からほとんどなにも継承していないから。そのうえ、これは歴史上あたらしい道だから。

この革命の道は、困難にみちている。しかしマルクス・レーニン主義の光に照らされ、兄弟諸国やわれわれ自身の国で得た豊富な経験のおかげで、わが党は、だんだんに革命の發展法則を全面的に理解するようになり、その路線と政策を完全なものにしてきた。そのうえ、さまざまに変動する状況の中で一〇年にあまる社会主義革命をへて、われわれは、経済建設と社会改造のうえで貴重な経験を集積している。わが幹部は、管理幹部も技術幹部も、目に見えて成熟した。とりわけ幹部の隊列は大きくなった。あたらしい生産関係が社会で支配的な位置を占め、経済發展でも、アメリカの侵略に反対し救国をめざす抗戦でも、きわめて積極的な役割を

演じている。わが人民の勤勉な労働は、将来の進歩のためにいくつもの物質的根拠地をすえた。最後に、われわれは兄弟諸国から大きな援助を受け、経済、技術、その他すべての分野で兄弟諸国が得た経験から教えられた。これらが基本的な利点であり、これによってわれわれは、確固とした足どりで前進できる。きたるべき時期に、われわれは、一点の疑いもなく社会主義革命でいっそう大きい成功をなしとげるであろう。われわれは、北部の経済的底力をいっそう増大させ、それによって人民の生活水準を改善し、南部の一四〇〇万の同胞とともに、アメリカ侵略者にたいし完全勝利をかちとるわれわれの鉄の決意を必ず実行するであろう。

われわれの世代は、「二つの大きい帝国主義、フランスとアメリカ」を敗北させただけでなく、このベトナムの土の上に社会主義祖国、強く美しく、独立で自由な祖国を、建設する道をひらいたことを、限りなく誇りに感じる。そこでは民主主義と幸福が支配し、ホーおじさんとわが全人民の願望がみたまされるのである。

三 党、それはすべての勝利の組織者である

1 わが国の具体的条件に創造的に適用された

マルクス・レーニン主義の勝利

四〇〇〇年をこえるわが民族の歴史から見れば、四〇年はきわめて短い期間にすぎぬ。しかし、わが人民がそのきわめて偉大な、もつとも誇るべき成果をあげたのは、まさにここ四〇年のあいだであった。進歩的人類の全体としての流れの中に組み入れられたわが人民が、あたらしい時代の強力な生命力と、わが民族のかがやかしい伝統と、自分の運命、自分の将来にかんする十分な自覚と、これらを起動力として前進したのは、この期間であった。

わが国は、面積がとくに大きいわけでもなければ、人口がとくに多いわけでもない。わが社会は、長いあいだ封建制度の中で停滞し、それからほぼ百年のあいだ帝国主義によって奴隷化され、そのときはベトナムの名さえ地図から抹殺されていた。しかし、四分の一世紀のあいだに、わが人民は立ちあがって、一連のうちつづく革命過程をなすとげた。すなわち、八月革命

とフランス植民地主義にたいする抗戦、北部の社会主義革命とアメリカの侵略に反対し救国をめざす抵抗である。こうした革命の業績は、その性質と規模により、民族的な観点だけでなく国際的な観点からみたその歴史的意義によって、わが国とわが人民をあたらしい時代の水準まで引きあげた。あたらしい時代、それは、民族独立、民主主義、社会主義という崇高な理想の勝利をまのあたりに見ている時代である。

こうしたすべての歴史的な成功を決定した第一義的な本質的要因は、わが党の創建であり、わが党による革命の指導であった。わが党、それは、マルクス・レーニン主義の不敗の旗を堅持する、あたらしい型のプロレタリアートの党、労働者階級、勤労者、全民族の利益と正当な願望を忠実に、かつ全面的に代表するプロレタリアートの党、緻密(めいみつ)に織りなされた組織をもち、統一と一枚岩の伝統をもち、大衆と緊密に結びついたマルクス・レーニン主義党である。

わが党は、マルクス・レーニン主義の革命の科学で武装し、世界プロレタリアートの百年をこえる貴重な経験の継承者として、ベトナム革命を指導して正しい道をたどらせ、北部では人民の民族民主革命の課題を徹底的に遂行し、北部を社会主義革命の段階までみちびき、一方、全国で人民の民族民主革命を完成するために努力している。

人民の民族民主革命でわが党がおさめたかがやかしい成功は、わが党が戦略戦術にかんする一連のきわめて基本的な問題を解決したとき、わが党が用いた正しい創造的な解決方法にもと

づく。すなわち

(1)労働者階級とその前衛、マルクス・レーニン主義党の指導性を確立し、たえまなくこれを強化すること。

(2)二つの戦略課題、すなわち帝国主義にたいする抗戦と封建制にたいするたたかいを正しく結びつけ、反封建の課題は、反帝の課題と密接に調整しつつ一步一步遂行し、反帝の課題に効果的に役立たせること。

(3)農民層の大きな勢力を結集し、しっかりした労農同盟を成功裏に建設すること。労農同盟こそ革命の支柱であり、労働者階級の党が行使する単独の指導性の中心的な保障である。

(4)労農同盟を基礎として党が広範な民族統一戦線を打ち立てたこと。これはすべての愛国進歩勢力を結集し、革命の鋒先を民族の共通の敵に向けるものである。

(5)敵の内部矛盾を上手に利用し、その隊列を分断し、中立化させるすべての勢力を中立化させ、もつとも危険な敵を孤立させ、革命の前進にいっそう有利な条件をつくりだすこと。

(6)革命的方法を柔軟かつ正確に適用すること。それぞれの時期にあわせて、あらゆる形態の組織と闘争を活用すること。大衆の政治勢力を築きあげ、これを基礎として革命武装軍を樹立するのを基本課題と考えること。革命情勢がいきわたったときはいつでも、党は、政治勢力も武装勢力もともに用い、軍事闘争を政治闘争に結びつけ、敵を田舎地域でも都市地域でも攻撃

し、一步一步完全な勝利にみちびく成功をつぎつぎおさめたこと。

(7)革命の偉大な成果である人民民主主義権力をかため、強めるとともに、これを、戦争を遂行しあたらしい社会を建設するための効果的な道具として用いること。

(8)マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義を基礎として、国際的統一を強めること。

過去一〇年あまりのあいだわれわれは、全国で人民の民族民主革命を完成するために、南部のわが同胞とならんでたたかいつつ、北部では人民民主主義国家にプロレタリアートの執権の歴史的な役割をもたせた。それは、三重革命の同時的遂行をつうじて、北部を社会主義への移行までみちびくためであった。三重革命とは、生産関係の革命、技術革命、思想文化革命であり、そのなかで技術革命が要石である。社会主義革命は、われわれにはまだまったく目あたらしいものである。しかし過去十余年の事実からわれわれは、わが党が主張した北部の社会主義への前進という基本方向は完全に正しいものであると断言できる。

ベトナム革命の過去四〇年にわたる経験の偉大な宝庫は、マルクス・レーニン主義を植民地半封建国家に成功裏に適用した経験の宝庫である。わが党のこの期間の歴史は、マルクス・レーニン主義の普遍的原则をわが国の具体的条件に創造的に適用した歴史である。わが党は、大多数が農民からなる社会で生まれ、成長し、その隊列の中に農民層出身の多くの成員を引き入

れた。しかしわが党は、労働者階級の革命政党という性格をたえず完全に保持してきた。それはなによりもまず、わが党がマルクス・レーニン主義思想に徹し、マルクス・レーニン主義への絶対的な忠誠を示しているからであり、わが党の政治上組織上の路線がマルクス・レーニン主義のもの、労働者階級のものであるからである。マルクス・レーニン主義はもともと徹底的に革命的な教義であり、ただ一つの科学的な教義であり、灯台のように、わが党にたいし、ベトナム革命のすべての問題をどのように解決するか、正しい革命の路線と方法をどのようにつくりあげるかを示し、それによってブルジョアジーの改良主義と小ブルジョアジーのせまい民族主義的傾向や「諸階級の上に立つ」と称する主張をうちやぶり、トロツキストその他反革命分子の挑発と破壊の試みを失敗させ、党内の政治的動揺と右翼的、「左翼的」偏向を克服し、すべての時期に革命のすべての課題を成功裏に完遂することを教えてきた。

わが党は、兄弟諸国と兄弟諸党の革命の経験の研究に大きな重要性をおき、それを自分の責任を果たそうとするプロレタリア党にとっては、絶対的な必要条件であると考えている。しかしわが党は、普遍的法則であるマルクス・レーニン主義の原理や、兄弟諸国の民族民主革命と社会主義革命にかんする経験を適用するにあたって、つねに、ベトナム革命の具体的な実践と、歴史的、社会的、経済的、民族的伝統その他独自の特徴をそなえたベトナム社会の生きた現実とを、出発点と考える。ベトナム革命が刈りとったすばらしい勝利は、党の路線と方法を

みがきあげるにあたって、党が用いた独立の創造的な方法にまさに由来するのである。

a あたらしい段階で党の指導性を強めるために努力すること

われわれの現在の革命の課題は、過去のそれにくらべると、はるかに重くかつ複雑である。一方で党は、民族民主革命を全国で完成し、アメリカの侵略に反対するわが全人民の闘争を全面勝利にみちびくために、最大の努力をせねばならず、多くの困苦と犠牲が待ち受けている。また一方でわが党は、北部の社会主義革命と社会主義建設に強力な動力をあたえねばならず、これは、ほとんどまったくあたらしい試みである。この巨大な事業のために、われわれは、過去十余年のあいだにわれわれの業績から生じている基本的な利点に依拠することができる。しかしそれはほんの最初の一步にすぎない。共産主義者は、つねに現実をまともに見すえ、将来をどのように見通すかを心得ている。明らかに、現在北部では、手工業労働がまだ社会的労働の大きな部分を占めている。したがってわれわれは、まだわれわれの理想からもわが人民の社会主義にかんする熱望からも道遠い。わが党とわが人民は、近代的な工業と農業、先進的な文化と科学を現実のものとするためには、特別の努力をかたむけ、無数の困難を克服しなければならぬであろう。

党の指導性は、すべての成功を決定する要因である。したがって、われわれの現在の革命の

課題を遂行するうえで中核的な問題は、党の指導性を強めるために努力することである。

わが党は、権力をにぎっている党である。このような党の歴史的責任は、軽くなるどころか逆になります。だれもが知っているように、すべての革命の基本問題は権力の問題である。しかし、わが党の革命の事業、プロレタリアートがおこなう階級闘争では、それを全体としてみれば、権力の獲得は最終目標ではない。権力の掌握は、革命の終点を意味せず開始を意味するにすぎない。

プロレタリアートが権力をにぎることが絶対的に必要であるのは、支配階級を打倒しプロレタリアートの執権を樹立することなしには、プロレタリアートは、階級闘争を最後までやり抜くことができないからである。いいかえれば、搾取階級だけでなく搾取の源泉までも廃絶し、階級対立だけでなく階級差別までも廃絶し、貧困と荒廃の原因を除去するだけでなく人民のために豊富と幸福の生活をつくりだすこと、要するに、まったくあたらしい社会、共産主義社会、物質的福祉と豊かな精神的生活をすべての人びとが享受する無階級社会を建設することができないからである。

このような広がりと深さをもった社会改造の時期、客観的な歴史の発展法則と一致し、組織化され、計画化された変動の時期、この時期の全期間にわたって、社会の指導勢力として労働者階級の党が演じる役割は、ますます重要さを加える。党は、社会でもっとも能動的な要素で

あり、もっともよく組織され、思想的政治的にもっとも自覚ある要素である。それは、時代の動向について、闘争の見通しと目的について明白な見解をもっている。党だけが、大衆を組織し、決起させることができ、社会機構のすべての構成部分のすべての活動と努力を集中させ、調整し、促進することができ、あたらしい社会の建設という歴史的課題の完成にこれらの活動と努力を集中させることができる。

現在の段階で党の指導性を強めるには、党は、ひきつづいてその政治路線を發展させ、完全なものにするとともに、それをいっそう具体的にするために、徹底した研究をおこなわねばならぬ。

第三回党大会で決定され、そのあとの中央委員会総会で發展させられたこの政治路線は、現在もひきつづいて基本方向である。実践は、わが党が正しいコースをたどってきたことを実証している。しかし、弁証法的唯物論は、われわれがものごとの現在のつかみ方で満足してはならないことを教えている。社会も生活も、けっして変化と發展をやめることはない。とりわけわれわれはいま、移行期の初期段階にあるだけに、なおさらである。つまりわれわれは、実生活の事実を持続的に深く研究せねばならず、現実の社会經濟過程、大衆が得た経験、われわれ自身の成果と欠陥の点検、この三つをもとにして深い分析をおこない、われわれの経験を総括し、理論的に一般化し、それによって党の路線と政策をたゆみなく補完し發展させ、これ

をいっそう具体的なものにせねばならぬ。

社会発展の客観的法則が、つねに党の路線の出発点でなければならぬ。民族民主革命と戦争において党のコースが正しいのは、党が革命の法則と人民戦争の法則を徹底的につかんでいるからである。社会主義革命と社会主義建設で客観的法則を軽んじるのは、いっそう許しがたいことでさえある。エンゲルスがわれわれに教えたように、「社会主義は、それがひとたび科学となった以上は、科学として追求されることを要求するものである点を常時心にとめ」^(第一)ねばならぬ。プロレタリアートの執権と人民の革命的情熱は、きわめて重要な原動力であって、それなしには社会主義建設について語ることができぬ。しかし、しばしばきわめて「頑固で御しがたい」客観的法則と経済的事実を考慮せずに、原動力さえあれば社会主義の建設には十分と考えるとするれば、それはきわめて重大なあやまりである。レーニンは、主観的要因、すなわち人間、前衛党、大衆が演じる役割を力をこめて強調しつつ、一方では、各国共産党にたいし、党の政策の基礎を希望的観測にもとめてはならぬ、党の感傷を革命の戦略戦術の出発点としてはならぬとくりかえし警告した。この点でレーニンの政治活動は、その全体がわれわれにかがやかしい模範となっている。よく知られた一例は、レーニンが戦時共産主義から新経済政策への移行を主張したときである。この政策をねりあげるときも実施するときも、レーニンは、革命的情熱にはみちているが経済法則には無知な共産主義者を説得して、新経済政策は資本主義の

復活を意味するどころか、それこそロシアが資本主義をうちやぶり、社会主義への移行段階にはいることができるただ一つの政策であることを納得させるのに、たいへんに骨を折ったのである。

わが党は、民族民主革命の法則と人民戦争の法則を理解する点では十分に成熟しているが、社会主義革命と社会主義建設の法則をつかむ点では、緒についたばかりである。わが党は、この点でなみはずれた努力をかたむけ、例外的なはやさで成熟をとげることによってはじめて、社会の指導者としてその責任をはたすことができよう。革命の勝利と革命的創造性はつねに、客観的法則を適用するとき一般的なものと特殊なもの^(第二)を正しくむすびつけることから生まれる。わが国は、小規模生産が支配的であり、資本主義的發展の段階をとおらずに直接社会主義へ前進するのであるから、われわれはまったくあたらしい一連の問題に直面せざるをえない。プロレタリアートの執権を堅持し、密接に調整しあいつつ、技術革命を要石として三重革命を遂行すること、これがわが国の社会主義革命と社会主義建設の基本方向である。しかし、わが国で支配的な条件のなかで、技術革命の法則、社会主義工業化の法則、生産関係の革命の法則、思想文化革命の法則、さらには経済的な関連性の全系列を規制する法則は、どのように作用するのであろうか？ わが党は、こうした問題を慎重に熟慮せねばならぬ。われわれは、科学的社会主義の原則をもっと十分にもっと徹底的に研究し、ベトナム革命の現実を正しくとら

えるよう努力し、兄弟諸国で得られた経験から学ばなければならぬ。とりわけ、われわれは、社会主義革命と社会主義建設の数年間の経験を総括して、党の理論的水準を高め、実践上の諸問題を解明し、これを基礎として、党の路線と政策をいっそう発展させ、完全なものとし、党の路線と政策にますます科学的な性格をあたえることによってますます効果的なものにしていかねばならぬ。

党と国家機構の、実践的に組織活動をおこなう能力を高めることは、党の闘争力の向上と社会にたいする指導性の強化をめざす努力の中で、いま決定的な緊急な問題である。

正しいコースをえがくことは、決定的に重要であるが、それだけでは十分ではない。そのほかに、われわれは、具体的な課題の遂行のために、すべての社会勢力とすべての物質的精神的潜在力を動員して、これを使いこなす膨大な組織事業に従事せねばならない。

人民の民族民主革命の中で、わが党は、正しいコースをたどったばかりでなく、大きな組織能力を示してきた。わが党は、非合法活動でも合法活動でも、武装闘争でも政治闘争でも、平常の状況でも危機の時代にも、革命情勢が出現するまえでもあとでも、科学の基準にあてはまったともいふべき組織事業を遂行した。わが党は、大衆の中にあるすべてのかくれた可能性や大小をとわず革命の底力をすべて動員し、勢ぞろいさせ、全面的に発動させた。わが党は、それぞれの時期の敵味方の力関係に応じて、きわめて多様な形態の宣伝、組織、闘争を考案し、

これらを上手に組みあわせた。

過去一〇年のあいだわが人民は、大戦線への義務の完遂に全力を集中せねばならなかった。ここ数年は、そのうえに、ある程度までわれわれの社会生活を狂わせた野蛮な破壊戦争に対処せねばならなかった。しかし党の指導のもとにわが人民は、それにもかかわらず、社会主義建設で、経済と文化の発展で、日常生活の組織化で、重要な業績をあげた。これは、わが党が、正しい路線を追求しただけではなく、実践的な組織活動の面でも、あたらしい革命段階で成熟を示しはじめたことを実証している。しかし社会主義建設の緊急課題からみれば、われわれの知識にも組織能力にもまだ欠陥や弱点が残っている。経済建設が勤勉、正確、計画化、調整、同時執行、能率などを要求しているとき、経済と生産を管理し人民の必要をみたすための機構の多くの部分に当惑、だらしなき、怠惰、非能率の徴候があることは、実践的な組織活動の面でのわれわれの弱点を暴露している。

資本主義的発展の段階をとおらずに直接社会主義に前進することは、われわれが大規模機械化生産の学校を卒業しなかったことを意味する。わが党と国家が組織と管理の面で示した弱点の主要な理由は、ここにある。

小生産は、分散的、散発的で、散漫な、だらしない、無政府的な性格をもっているので、それがわれわれに残したのは、大規模社会主義生産制度の組織上の要求と衝突する有害な活動

スタイルや習慣だけであった。小生産から出発したわれわれは、経済発展の二つの路線、資本主義的か社会主義的かの選択を迫られるだけでなく、組織の二つの方法、つまり手工業のそれか大規模工業のそれかの選択を迫られている。万一にも誤った路線をとれば、革命の方向をそれらし、プロレタリアートの執権の廃止にみちびくにちがいない。ところが、組織と管理の面で誤りをおかし、われわれの組織上管理上の活動に、われわれがなん世代にもわたってなれてきた小生産者の考え方や方法をもちこむならば、社会主義、つまり大規模機械化生産制度をもった真の社会主義はありえない。

われわれは基本的な利点をもっている。すなわち正しい政治路線、プロレタリアートの執権の鋭い力、しっかりした労農同盟、広範な民族の団結、あたらしい生産関係の巨大な力、人民の革命的情熱、豊かな自然資源、兄弟諸国の献身的な援助である。それではわれわれにもっとも欠けているものはなにか？ 経済、科学、技術の知識と組織上管理上の能力である。

数十年のあいだ、民族民主革命と戦争の中で、われわれは、勇氣、大胆、忍耐、不屈の学校をへてきた。これは、はかり知れない利点であり、きわめて貴重な財産である。しかしそれをもってわれわれがいちじるしく欠いているものを埋めあわすわけにはいかぬ。すなわち、経済の建設と拡大、文化の発展、人民の生活水準の改善のための事業、つまり権力をにぎった党、プロレタリアートの執権の国家に課せられる基本的な課題を組織してゆく能力、これがいちば

ん欠けているのである。

現在、中央の段階から基礎単位つまり工場、国营農場、協同組合にいたるまですべての段階で、また党機関でも国家機関でも、組織活動の重要性を不十分にしか知っていない同志たちがたくさんいる。彼らは、政治思想活動を組織活動から切りはなし、政治的思想的一般論や一部の同志の場合には「机の上の仕事」にさえ、組織活動のかわりをさせている。組織活動、それは大きな努力、徹底的な研究と調査、正しい方法をさがすための多くの熟慮と実験を必要とする骨の折れる活動であり、基本的な事実をじかに調べ、任務の遂行を綿密に見まもり、時機を失せず欠陥を是正し、情勢の変化からおこってくるあたらしい問題を解決するなどを必要とする仕事であり、要するに労苦と困難にみちみちた課題なのである。

レーニンは述べた。「われわれは、成功裏に行政するには、人民を説得する能力のほかに、内戦に勝利する能力のほかに、実践的な組織活動をおこなう能力をもたねばならないことを十分に理解せねばならぬ。これは、もっとも困難な課題である。なぜならここでは数千万の人民の生活のいちばん深いところにある土台、つまり経済的基礎をあたらしい仕方では組織することが問題だから。それはもっともやりがいのある課題である。なぜならこれが（その大綱において）完遂されたときはじめて、ロシアはたんにソビエト共和国でなく、社会主義共和国になつたといえるであらうから。」

ブルジョアジーが指導した革命では、勤労大衆が達成した唯一の課題は、封建体制を打倒することであった。あたらしい社会を組織することは、少数者である搾取者、ブルジョアジーの手ににぎられていた。事実、この事業にはブルジョアジーはたいして努力を必要としなかった。というのは資本主義社会と資本主義経済は、自然発生的に、無秩序に、無政府的に、そして労働する人民のいいようない災禍と引換えに形をととのえたからである。

ところが社会主義革命では、ブルジョアジーの打倒と権力の奪取のあとに、労働者階級と勤労人民は、党に指導されて、偉大な創造の課題に直面する。あたらしい社会、人間による人間の搾取のない社会、経済生活、文化生活のすべての面で、強力に均衡のとれた仕方で発展する社会を組織し建設する課題である。社会主義と共産主義は、きわめて科学的で、複雑で、精密な、そして日ましに合理的になっていく生産と分配の制度である。それは、たえまのない技術革新と生産関係の継続的な改善にもついで生産と労働生産性が日ましに強力に成長することを保障する。それはもっともよく組織された社会であり、歴史上最も最高の社会組織である。だから、われわれの大業の勝利は、わが党に代表される労働者階級の組織能力、新社会建設の主要な道具であるプロレタリアートの執権の国家的組織能力に大きく依存するのである。

アメリカの侵略に反対し救国をめざす抵抗と社会主義革命がわが人民とわが党のまえにしている多くの課題は、いずれも大きい課題であり、緊急な課題である。現在の躍進の中で、革

命事業を力強く前進させ、ますます大きく、ますます複雑な建設を遂行する必要と、まだ十分なわが党の組織能力やわが国家の管理能力と、この二つのあいだの矛盾が発展しているが、これを克服するために、全党をあげて急速な進歩をとげねばならぬ。組織の役割にかんするわれわれの考え方に革命的な変化をあたえ、党の組織活動と国家の管理スタイルに、すべての部門、すべての部門、すべての段階で、強力な改善を加えたのは、まさにこのときである。

プロレタリアートの執権の全体系を党が指導することは、原則の問題であり、執権の運命そのものに決定的な意味をもつことである。したがってわれわれは、すべての分野で休みなく党の指導的役割を強め、案内役としての党の活動の質を高めねばならぬ。党は、プロレタリアートの執権の制度に指導を与えるが、それは、すべての分野で正しい路線をつくりあげることによってであり、国家機関と大衆組織の役割を推進しそれらの活動を統制することによってであり、党内と大衆のあいだで政治思想活動をおこなうことによってであり、党員が党の路線や政策を実行するときでも、国家や大衆組織がおこなった決定を遂行するときでも、模範的な熱心さを示すように党員に要求することによってである。

党の指導性を強めることは、経済、国家、社会生活のすべての側面を管理するときの政府の役割を強め能率を高めることから切りはなすことはできぬ。党が権力をにぎっているというのは、党が社会全体のほんとうの指導者となったことを意味し、党がプロレタリアートの執権の

国家を駆使できることを意味する。この国家こそ、一方では敵対勢力からのすべての反対を抑圧する、きわめて強力な道具であり、また一方では、これがとくに大事な側面であるが、人民を社会主義建設のため、そして社会生活の全分野の管理へ参加させるために、動員し、組織する、きわめて強力な道具である。党は、国家機構を用いることなしには社会にたいする党の指導性を行使することはできぬ。したがって、党の指導性を強めることと国家機構の役割や能率を高めることのあいだになんらかの矛盾があると考えるはならぬ。権力をにぎった党の強さや闘争能力は、実は、その指導のもとにある国家機構の能率と気力の中にある。党は、プロレタリアートの執権の頭脳として、政府機関にたいする指導性をゆるめるわけにいかないが、しかし政府の仕事のみならず引き受けることはできぬ。党の指導性を格下げしたり、ゆるめたりするのは、プロレタリアートの執権を弱めることである。しかし、党に政府の仕事を押しつけるのは、党の機能には無縁な仕事をせおわせることであり、これは党の指導性を強めるどころか、弱めることになる。政府の各部署のかわりに仕事をして、各部署が全面的に組織上管理上の役割を果たすのをさまたげるのは、党の指導性を直接傷つけることを意味する。党の組織能力を高めるとは、なによりもまず、党が国家機構を指導し活用する能力を高めることである。国家機構は、党の路線と政策にそって経済建設と文化建設を指図し、人民の必要をみたして、くために、専門的、職能的、技術的な官庁をそろえているのである。

わが国の経済は、小生産から大規模生産へ急速に前進している。それで指導者は、一方では経済法則を徹底的に理解するとともに、また一方では、さまざまな経済過程に注目し、経済生活になにかあたらしいできごとがおこらないか注視する必要がある。それによって、経済拡大に最大速度をあたえるように、組織と管理の面で必要なあらゆる変更や改善を加えるのである。組織の科学と芸術に精通した最良の組織者とは、組織活動に柔軟にとりくみ、あたらしいできごとがあれば、自分の組織体系と行動様式に時機を失せず変更を加えて反応する組織者である。

社会主義的民主主義をたえまなく発展させることは、国家権力を強め固めるもつとも重要な条件である。同時にそれは、党が権力をにぎっているとき、党と大衆の結びつきを強めるもつとも効果的な措置である。

党が権力をにぎっているので、党と大衆の関係には質的な変化がおこった。人民の権力機関としての国家は、いまでは、もつとも広範な大衆組織となり、党はこれをつうじて（レーニンがソビエトにかんして述べたように）もつとも基本的な課題、人民生活のとくに重要でとくに肝要な側面にかんして、人民と直接の永久的な接触をたもつのである。古い体制の打倒でも、あたらしい体制の建設でも、革命はつねに大衆の事業である。党の指導のもとに労働者階級と勤労人民は、社会の主人であって、プロレタリアートの執権をつうじてあたらしい社会の建設

をおこなう。そして国家は、このプロレタリアートの執権のもっとも強力でもっとも有効な道具なのである。したがって、国家の役割を軽んじるのは、大衆の役割を格下げし、その主権を侵害することである。国家の役割を堅持するのは、国と社会にたいする管理の中で大衆が演じる役割を高めることであり、大衆をきわめて組織的にあたらしい社会の建設に参加させることであり、党と大衆をもっとも広範な組織をつうじて一つに結びつけることである。大衆の主権と国家権力機関の主権のあいだには対立はないし、またあってはならぬ。プロレタリアートの執権のもとで、社会の唯一の主人は、労働者階級と集団農民と社会主義知識層を含む人民であり、勤労大衆である。国家権力は、人民が社会の主人としての権利を国家レベルで行使するための道具であり、組織である。権力をにぎったプロレタリア党の力、敵対勢力の鎮圧とあたらしい社会の建設におけるプロレタリアートの執権の力は、なによりもまず、つぎの事実にある。すなわち、社会主義的民主主義がますます完全に発展することによって、党と国家機関が、社会生活のすべての面で大衆に密接に結びつき、あたらしい社会の形成に大衆がますます広範に参加するのを保障することである。

残念ながら、党、国家、大衆の関係の真の性質について、十分に知るまでになっていない同志たちが、何人もいる。不当な処置によって、党と大衆、国家と人民、党と国家、あるいはその逆の関係がそこなわれた場所もある。こうした欠陥は、早急にかつ断固として是正せねばならぬ。

らぬ。権力をにぎった党にとって最大の危険として避けるべきものは、誤った路線を採用することだけでなく、官僚主義、命令主義、横暴におちいることである。これらは、党を大衆から引きはなし、プロレタリアートの執権を弱める。党の強さは、大衆との密接な結びつきにある。国家権力が強いのは、それが真に人民に属し、人民によって、人民のために行使されるからである。国家が強くなればなるほど、国家はますます多くの勤労人民を国の管理に引き入れ、社会の指導者としての党がますます強くなる。強固な物質的技術的基盤にめぐまれた社会主義経済に立脚して、社会主義的民主主義を全面的に発展させたとき、わが社会主義体制は、厳いひわのよう

注1 『マルクス・エンゲルス全集』、第七巻、「邦訳『ドイツ農民戦争』への序文」、五五一ページ」
注2 『レーニン全集』、第二七巻、「邦訳『ソヴェト権力の当面の任務』、二四四～二四五ページ」

b 党を不断に強化、建設するに

党の闘争力を高め、社会活動のすべての分野でその指導性を強めるために、われわれは、党をますます強くするようにたえまなく党を固め、築き上げねばならぬ。党は、その理論的武器であるマルクス・レーニン主義をますます固くにぎり、社会主義社会の発展法則にますます深く精通し、この知識を現実に応用するうえでますます成熟し、それによって、党の路線と政策

を正しく独創的につくりあげねばならぬ。党は、その構造の全体が、上から下まで、すべてのレベルの委員会とすべての専門部で、強くなければならぬ。党の全身が、神経中枢から一つひとつの体細胞にいたるまで、強くなければならぬ。それは、党の路線と政策がどの段階でも例外なく、指導部によっても各部門によっても、黨員によっても大衆組織によっても、そして一般に人民によっても、徹底的に理解されるように保証するためである。全党あげて最大の努力をかたむけ、一人ひとりの幹部と黨員は、ますます大きくなります重い課題をかがやかく遂行するために、全力をあげねばならぬ。

党を強め築きあげるこの事業の中で、党細胞と基本組織の質を高めることがとくに重要となる。細胞は、党の基本的な組織であり、党と大衆のあいだのきずなであり、これによって党の路線と政策が実施され、これのなかで党の戦闘分子と幹部が養成される。党生活とすべての分野の社会生活とのあいだのきずなは、工場、建設現場、国营農場、協同組合、政府機関、国营販売所、研究所、学校、大学、病院、軍隊など、いたるところに細胞が存在するおかげで、ますますかたくなる。党の不断の成長は、社会のたえまない発展、大衆の高揚する革命の高潮と歩調を合わせている。これは細胞と基本組織に反映する。社会生活で、わが人民の現在の生活の中で、多少とも重要な問題がおればかならず、人民は、つねに党の意見を求め、その声に耳かたむける。党が大衆と直接の日常的な接触を保つのは、細胞と基本組織をつうじてであ

る。細胞は、大衆の革命的創造的事業においてだけでなく、大衆の日常生活においてもまた欠くことのできない要因となっている。細胞は、大衆の思想と感情のなかに、もともと神聖な願望の中に、つねに生きている。ある細胞が強いか弱いか、ある細胞あるいは一人の細胞員がやった、なにか特定の行為がよいか悪いか、正しいか正しくないか、これが人民の物質的精神的生活にたちまち直接の影響をおよぼすのである。

したがって党の建設にあたってわれわれは、細胞と基本組織を強め、それによって、全分野における細胞の指導的役割と闘争力を強めるために、全力を傾けねばならぬ。党の闘争力とはいっても、結局は、その全体が細胞の能力となって具体的にあらわれる。党の路線と政策を大衆行動にかえる能力である。実践的な革命の課題を成功裏に完遂しようとする大衆行動にかえる細胞の能力である。細胞と基本組織の強化のためにわれわれは、ここ数年「四良」細胞・基本組織建設運動を強力に推進してきた。この活動は、それぞれの時期の政治課題をもとにし、その遂行と結びつけられる。細胞は、その受持区域内で生産が前進せず、労働生産性が上昇せず、人民の民主的権利が制限され、国家にたいする義務が完遂されず、人民生活が安定せず、あらゆる面で徐々に改善されることもない、などであれば、良細胞とみとめるわけに、いかな

われわれは、細胞の指導性をいっそう効果的にするために、細胞のすべての活動を改善せね

ばならぬ。細胞の会議は、具体的に豊富な政治的内容をもち、党の路線と政策を討議し、受持ちの地域なり単位職場なりに課せられた課題、こうした課題を達成する方法、生産活動と人民の日常生活、党員や幹部のあいだの仕事の分担と責任の分担、細胞決定の遂行の監督、各細胞員が演じる役割などを討議する必要がある。細胞と基本組織の活動の仕方は、党の路線と政策に一致して具体的な課題を遂行するために、行政機関、専門機関、大衆組織の権限と能力を全面的に活用し発展させるように、修正する必要がある。

党と細胞は、党員一人ひとりですぐれた共産主義者であるときはじめて、強くなることのできる。党を構成すべきものは、労働者階級や集団農民や社会主義知識層のなかのもっともすぐれた、もっとも啓発された分子、社会の発展と進歩を代表する人びと、労働者階級と党の事業に絶対的に忠誠で、大衆に密接に結びついた人びと、労働者階級と勤労人民と民族のために私心なく、忍耐強く、ゆるぎなくたたかう人びと、社会主義と共産主義の理想の勝利のためにたたかう人びとである。どの党員も例外なく、党の路線、政策、決定を効果的に遂行するために努力し、戦闘と生産で模範となる必要がある。党の政策と細胞の決定を実施するにあたって、党員は、その政治的立場、思想、モラル、生活スタイルについて自分をきたえ、一方、その職業的技術的水準をあげるために、はげしく勉強せねばならぬ。党員は人民の物質的精神的福祉に顧慮をほらい、人民が集団的に主人である権利を尊重せねばならぬ。すなわち党員は、大衆

にはない特権や特典を手に入れてはならぬ。党員は、公共の利益への全的な献身とまったくの無私を示し、ホー・チ・ミン大統領が教えたように、人民の指導者であると同時に召使いであらねばならぬ。

われわれは、大衆運動をつうじて、あたらしい勢力を、とりわけ若い人びとの中の最良の分子、革命的情熱にみち、党の理想に献身する用意があり、創造的イニシアチブを発揮できる人びとを発見し、教育し、育成し、党に受け入れねばならぬ。わが党の創設者、偉大な教師にたいするわれわれの感謝のしるしとして、中央委員会は、本年入党をゆるされた党員を「ホー・チ・ミン組」と呼ぶことを決定した。経験ある先輩とならんで若い人びとが入党することによって、党は、わが人民のますます高揚する革命の波の象徴であることをひきつづいて示し、党の要塞である細胞の力は、あたらしい政治課題に耐えるものとなるであろう。あたらしい真にすぐれた勢力を入党させるとともに、われわれは、大衆に憎まれ、前衛革命党の党員たるにたいし、おくれた分子や墮落した分子を断固として党から追放せねばならぬ。このような分子はたくさんはいないが、彼らが党から排除されないと、党の闘争力は害され、大衆との関係がこわされるであろう。

三 党、それはすべての勝利の組織者である

党の大衆との密接な結びつきを固め強めることは、労働者階級の党の存在と発展を規制する法則である。これは直接にかつ毎日細胞と基本組織をつうじておこなわねばならぬ。細胞と細

胞員全員は、大衆とたえず接触をたもち、大衆の考え、気分、希望を徹底的に理解し、大衆を教育し、団結させ、組織し、大衆に道案内して、党の目的を達成するための努力へ大衆を参加させねばならぬ。われわれは労働組合を固め強めるために努力し、それによって労働組合が真に労働者大衆の希望、闘争力、創造力を代表するようにさせ、国家、社会、経済の管理に効果的に参加させるようにする。われわれは、若いえりぬぎの男女労働者を労働組合の指導部にいれるように配慮せねばならぬ。労働組合は、労働者大衆を教育し、動員し、組織するために全力をかたむけ、社会主義競争運動を強力に促進し、それによって労働生産性を高め、企業の管理の中で労働者の集団支配制を高め、労働者の物質的福祉を改善するようにせねばならぬ。

青年を教育し、いまやホー・チ・ミン大統領のかがやかしい名前を冠している労働青年同盟を拡大強化することは、党のきわめて重要な課題である。労働青年同盟は、つねにかかわらず、党の貴重な右手、党の隊列を補充する汲めどもつきぬ源泉、党と人民の革命事業の当然の継承者でなければならぬ。婦人の役割と勢力は、大いに重視せねばならぬ。革命とわれわれの現在の社会にたいする婦人の貢献は、ほんとうにはかりしれないほど大きい。党、細胞、基本組織は、婦人を教育し、団結させ、援助して政治生活と社会生活へ、あたらしい社会の建設へ、全面的に参加させるように、あらゆる努力をおしんではならぬ。

党と大衆を密着させて一体のものにするために、もう一つの重要な措置は、細胞と基本組織が、適当な形で定期的な会合をひらき、その中で党が大衆の面前で自己批判をおこない、大衆の批判と提案に耳をかたむけることである。大衆による細胞の批判は、党の強化と建設にとつてきわめて重要であり不可欠である。細胞と各段階の党委員会は、大衆が党にかんして率直な意見を表明するように奨励し手引きする必要がある。あたらしい党員の受入れ、細胞、基本組織の段階での党委員の任命などについて、われわれは大衆の意見をきき、われわれの選考と決定を十分に根拠あるものにする助けとせねばならぬ。

ひとたび正しい路線と正しい政策がつくり上げられると、革命の勝利をもたらすうえで決定的な要因は、この路線と政策の実行をめざす組織活動である。その鍵は、あらゆる面で確固性、有能さを示す幹部の部隊をもつことである。

アメリカの侵略に反対し救国をめざす抵抗と社会主義の建設は、日ましに大きく日ましに重い課題をわれわれのまえにつきつける。したがって党は、あたらしい段階の党の政治路線を代表できるすぐれた幹部の部隊を駆使できるようにしておかねばならぬ。しかも、目前の必要だけだけでなく、長期の必要にもこたえられるように十分な数を確保せねばならぬ。この部隊は、すべての分野で革命の要求をみたせるように、あらゆる部門、あらゆる専門の幹部を含んでいなければならぬ。

幹部の質は、革命のいずれかの時期に党が委任した課題を遂行する中で、幹部があげた成果

にあらわれる。幹部が自分の革命の任務を果たしたかどうか、党の路線と政策を正しくかつ徹底的に実行したかどうか、これが幹部の質と有能さを測定する基準である。自分の責任を果たそうとする幹部はだれでも、高い革命の気概と十分な革命の知識をもっていなければならぬ。プロレタリアートの革命戦士として幹部は、なによりもまず、党に、党の革命路線に、階級と民族の革命の大業に、共産主義の理想に、絶対的に忠誠でなければならぬ。幹部は、純粹の革命的情熱と大衆にたいする深い愛着とにみち、いかなる労苦も犠牲も恐れず、すべての困難を克服しすべての任務を遂行するために、きわめて勇氣ある努力をかたむけねばならぬ。幹部は、こうした革命的徳性なしにはマルクス・レーニン主義を正しく把握することもできないし、党の路線と政策の本質を理解することもできず、自分の革命の任務を遂行するにあたってなにひとつ創造性を發揮することもできぬ。わが党の幹部の部隊は、人民の長期革命闘争のあゆみのなかで形づくられ、発展してきた。二つの大きい抗戦と社会主義革命のなかできたえられて、幹部の部隊は、全体としてすばらしい革命的徳性を示してきた。革命の現在の段階でわが党は、こうした基本的な利点をひきつづいてはぐくみつ、一方、権力をにぎった党の幹部のあいだに生まれるおそれのある墮落と後退のあらゆるあらわれと時機を失せずたたかい、これを防がねばならぬ。

しかし、革命の課題を遂行するには、革命的精神だけでは十分ではない。革命は、意識的な行動であり、幹部が革命の知識をもち、社会の客観的發展にかんする法則を理解することを要求する。社会主義革命は、人類史上もつとも根本的な革命である。それは、古い社会秩序を破壊するだけでなく、あたらしい社会を、そのあらゆる複雑さの中で、とりわけその経済生活の面で、組織し建設することを意味する。党の幹部は、こうした任務を果たしうるためには、政治学、経済学、文化、科学、技術など多くの分野の知識に十分に通じていることと、組織能力、管理能力をもっていることが決定的に必要である。さもなければ幹部は、手さぐりし、しろうとと細工し、自分の任務を敏速に成功裏に遂行できず、革命の事業にとって有害な誤りや欠陥を避けることができぬ。したがって幹部は、どのような配置につこうと、必要な知識で武装せねばならず、自分の業種に熟練するようにし、科学と技術をわがものとするように努力せねばならぬ。そのときはじめて幹部は、自分の責任を果たすことができ、大衆を指導し革命を力強く前進させる能力があるということになる。

三 党、それはすべての勝利の組織者である

社会主義革命の中で、党の基本的な政治課題は、プロレタリアートの執権を堅持し、技術革命を要石として三つの革命を遂行することである。党の闘争力、黨員と幹部のすばらしい素質と有能さは、こうした任務を成功裏に完遂することで表現される。党の幹部の部隊は、必ずつぎのような人びとを内容とする必要がある。すなわち、大衆を組織し、大衆を道案内し、社会主義の理想を実現するための毎日の時々刻々の闘争に大衆を参加させる能力があり、そしてこ

の活動の中で最高の決意、最大の自己犠牲心を示し、自分の任務の完遂に必要なすべての知識をもっていることを示すすべての人びとである。

わが党とわが国家は、経済建設と文化発展の必要に、当面のそれにも長期のそれにも、こたえるために、党の革命事業への無条件の忠誠に生きがいを感じる多数の知識人の養成を、社会科学でも自然科学でも促進せねばならぬ。わが国の知識層は、その構造と性質において根本的な変化をとげた。現在のわが知識人は、社会主義的知識人であり、労働者農民に密接に結びついている。その圧倒的多数は、労働者農民の家庭の出身であり、その教育を社会主義体制のもとで受けてきた。比較的古い知識人も、党によって教育され、長い革命の過程できたえられ、その政治的思想的立場において明らかな進歩を見せ、人民に大きく奉仕してきた。しかし知識人は、労働者階級や農民層出身のものを含めて、弱点をもっている。これを知識人は、自分自身の努力と党からの教育と援助によって克服し、自分たちのすべての才能とエネルギーを人民の偉大な革命事業にささげることができるようになる必要がある。

わが党は知識人を大いに尊重する。なぜなら知識こそ不可欠の力であり、労働者階級と勤労人民が自分を解放し社会主義と共産主義を建設する闘争の中で、不可欠の武器だから。労働者階級は、多数からなる自分自身の知識層をもたねばならぬ。その上に党は、労働者農民を助けてだんだんに近代的な科学と技術の知識を身につけさせ、それによって生産を高め、技術革命

を前進させ、文明生活を組織するようにせねばならぬ。われわれは、知識人、文化、科学、技術にたいする偏見をかなぐりすてねばならぬ。幹部、黨員、青年、労働者の一人ひとりが、自分の仕事をうまくこなし、たえまなく進歩するために、学習にいそしみ、知識水準を高めるように努力する必要がある。われわれは、どれかのレベルをえらんで党委員会にたいし、政治的基準のほかは、经济管理、科学、技術の面でもその資格にかんする一定の基準を設けるところまで前進せねばならぬ。党委員会は、科学、技術の活動に指針をあたえるために、経済、科学、技術の各部門や各局の専門家を含めて資格あるスタッフをもつ必要がある。一方、各省、専門官庁、研究所の党委員会と指導機関は、補強する必要がある。科学幹部、技術幹部は、熟練労働者から主任技師や学者にいたるまで、ますます多数養成する必要がある。

三 党、それはすべての勝利の組織者である

革命の発展を規制し、同様に党の発展を規制する法則は、党が老練な幹部を若い幹部と正しく組み合わせ、それによって、それぞれのすぐれた資質が相互に補完しあうと同時に、その弱点が相互援助によってよりうまく克服できるようにすることを要求している。というのは、この二種類の幹部は、それぞれ長所と弱点をもっているから。わが党は、老練幹部にたいし丁重に配慮するとともに、一方では、高い革命的資質、大きい能力、潜在力をもち、さまざまな革命運動の中でその真価を実証した多数の若い人びとを育成し、養成し、大胆に昇進させねばならぬ。

れの純粋性を党はたえず守り抜こうとしている。第二に党の正しい政治路線であり、これは毎日大衆の意識的な行動にうつされている。そして第三に党の理想、目標、課題にかんする全党員の啓発である。党の思想的統一、党の基本的組織原則である民主集中制によってしっかり保障されている。しかし党は、革命闘争軍である。思想的統一だけでは、まったく不十分である。というのは「思想それ自体はなにごとをも実現できない」から。思想を行動にかえること、これは必然に組織をつうじておこなわねばならぬ。そのうえ組織的統一がなければ、思想的統一は存在することも維持することもできない。これは、党内に思想の自由がないことを意味するのではない。逆である。民主集中制は、すべての党員が党のすべての事項を討議し、決定する権利、革命に関係あるすべての問題について、あらゆる考え方を、党組織内で、提出する権利を、必要とし、かつ保障している。全党によってつくりあげられた綱領と党則の枠組みの中で、すべての党員が民主的権利を全面的に行使し、その知性を全面的に花ひらかせること、これは党の生活力のもっとも重要な保障の一つをなしている。いろいろな考え方もみ消してしまふことは、プロレタリア党、マルクス・レーニン主義思想にはまったく無縁である。しかし思想の自由は、党を討論クラブに変えることを断じて意味しない。党は、戦場で一人の人間のように行動せねばならない軍である。したがって、少数は多数にしたがい、下級は上級にしたがい、一部は全体にしたがい、全党員が中央委員会（党大会と党大会とのあいだの最高

マルクス・レーニン主義党の強さは、その団結と一枚岩の意志、思想的、組織的統一にある。わが党のすべてのすばらしい伝統の中で、これがいちばんすばらしいものである。わが党がすべての時期にすべての試練に耐え抜き、革命を現在の勝利にまでみちびいてきたのは、そのゆるぎない統一と団結のおかげである。レーニンが述べたように、組織なしにはプロレタリアトはなにものをもたず、組織され団結したとき、それはいっさいをにぎる。党が権力をにぎったあと、その統一はなおさら重要さをもつ。なぜなら、社会全体の前進を指導する勢力である党自体の隊列の中に、意思と心情と行動の統一がなければ、革命の成果を守ることができず、歴史上もっとも困難で、もっとも偉大な課題、すなわち完全にあたらしい社会、社会主義社会の建設が達成できるわけがないから。

われわれは、きびしい闘争とひきつづく成功の四〇年によってきたえられた団結と統一の伝統を発展させ、ひたすらホー・チ・ミン大統領の神聖な遺訓にしたがいつつ、いま「党の統一をひとみのように大切にすること」を決意している。党は、分派主義を革命にたいするもっとも重大な犯罪と考え、そのあらわれはどんなものでもけつして許さない。党は労働者階級の前進であり、社会のもっとも活動的な要素であって、一つの意思、ただ一つの意思しかもたない。

党の統一が依拠するものはなにか？ それは第一にマルクス・レーニン主義思想であり、そ

指導機関)にしたがうという原則は、民主集中制の基本原則である。これをおかすことは、党の鉄の規律を傷つけることであり、党の統一を破壊することである。レーニンが述べた。「プロレタリアートの党の鉄の規律を(とりわけプロレタリアートの執権の時期に)ほんの少しでも弱めようとすることは、だれであれ、じっさいにはプロレタリアートに敵対してブルジョアジーを助けているのである。」

党の指導性は、つねに集団指導の原則に依拠する。個人的横暴は、党の指導性の本性とはまったく無縁である。いかなる個人も、ずばぬけた素質をもっているものでも、すべてのものとやあらゆる出来事を、そのすべての側面と休まない変化の中で、完全に理解し完全に把握することはできぬ。ここから集団的知性の必要が生まれる。集団的な心にもとづいておこなわれた集団的な決定だけが、主観主義を避けることができる。主観主義、それはしばしば危険な結果をもたう誤りにみちびくものである。集団指導は、党の指導性の最高原則である。これは、けつして指導者の個人的責任を軽くするものではない。現在、いくつもの指導機関で一部の同志たちは、集団指導の原則にしかるべき考慮をはらっていない。一方、一部の同志たちは、なにごとをするにも「集団」まかせで、自分自身の誤りや失敗を、なんでもかんでも「集団」のせいにし、自分の個人的責任をみとめようとはしない。われわれは、このような状態に終止符を打たねばならぬ。

以上述べた思想的基礎と組織原則のほかに、党の団結と統一をすくなく左右するものは、同志たちがおたがいをどのように取り扱い、意見の相違をどのように解決するかである。同じ理想と目標を追求し、そのために生死の闘争をおこない、無数の困難にも直面し、禍福をともにしてきた共産主義者たちは、おたがいに限らない愛情と愛着を感じている。どのような感情も、共通の理想と目標をめざす闘争の中で共産主義者たちを結びつけている同志愛以上に神聖なものはない。原則の問題には譲歩はあり得ない。しかし、複雑な問題の解決にあたって共産主義者たちは、原則の侵害はいかなるものも許さない一方、おたがいにたいしては、理性にも感情にも一致する仕方であるまい、意見が食い違っている場合、必要とあれば、おたがいに相手が意見をかえるのを待つべきである。これは必要であり、党の統一と団結に貢献する。われわれは、こうした問題では貴重な経験をもっている。ひきつづいてこれを生かしていく必要がある。

自己批判と批判は、党の統一と団結を強める基礎的な方法であり、党の発展と前進を規制する法則である。

社会主義社会を含めて社会の発展は、矛盾にみちた複雑な過程である。古いものとあたらしいもの、進歩と立ちおくれのあいだに、たえまなくたたかひくりひろげられる。情勢が進展するにつれて、あたらしい課題が党のまえに立ちはだかり、こうした課題の遂行のために、問

題点にとりくむあたらしい方法を要求し、組織活動、政治活動、思想活動のうえであたらしい接近方法を要求する。党は、思想的、政治的に統一一体であるが、幹部と党員は、ものごとについて右へならえ式のとらえ方はしていない。情勢と課題が少しでも変われば、ある同志たちはすばやく事態の進展を見ぬき、どのように行動すべきかを決定するが、他の同志たちは、理解するのにひまがかかり、あるいは不完全にしか理解しない。また別の同志たちは、ほんとうにぐずぐずしており、あたらしい情勢をとらえてあたらしい課題にりとくむことができず、これまでにしかれた道すじをはなれるのを拒否する。そのうえ、さまざまな複雑な要因があるので、まだ非プロレタリア的な思想の影響を受けている党員も多い。したがって、党自体の中で古いものとあたらしいもの、進歩と立ちおくれのあいだでたえず闘争がおこるのはきわめて当然である。幹部と党員の知識水準を高める努力と結合した自己批判と批判、これがこうした矛盾を解決し、党の団結を強め、幹部と戦士を教育し、そのすぐれた素質を発展させ、その弱点をおぎなう基礎的な方法である。レーニンは述べた——自己批判をおこない、誤りと欠点を公然と認める勇氣ある党、こうした欠陥の原因を発見し、断固としてこれを是正するために努力するすべを心得ている党、このような党だけが革命党の名にあたいし、このような党だけがたえず大衆と密接に接触を保ち、それによって革命に勝利をかちとることができる、と。ホー・チ・ミン大統領は、自己批判、とくに下からの批判をおこない、それによって党のためにはま

すまず大きい活力を、幹部と党員のためにはひきつづく進歩をもたらすようにすることを、つねにわれわれにすすめた。

すべての幹部と戦士は、あたらしい時代のますます重い革命の課題になうために、たえずなくそのプロレタリア的立場を強め、その革命的モラルを高めるように努力する必要がある。ホー・チ・ミン大統領の生涯と事業は、共産主義倫理のかがやかしい模範であり、われわれはみな、自分をきたえるためにこれにしたがうことを決意している。私心なく、忍耐づくよく、勇敢に、最後の息をひきとるまで共産主義の理想のためにたたかった同志たち、チャン・フー、ゴ・ジア・トウ、レ・ホン・フォン、グエン・バン・クイ、ファン・ダン・ルー、ホアン・バン・トウ、ボー・バン・タン、グエン・チ・ミン・カイその他多数の同志たちの模範的行為は、われわれが革命的徳性を育てていくのを助ける教訓である。

わが党は、労働者階級の前衛であり、発展する社会のもっとも流動的な要素を代表している。したがって、わが党がもち得る思想は、ただひとつプロレタリアートの思想、マルクス・レーニン主義思想だけである。われわれのプロレタリア思想を強めつつ、われわれは断固として小ブルジョア思想とたたかう。小ブルジョア思想のもっとも普通のあらわれは、政治の分野では右翼的「左翼的」動揺、とりわけ右翼的動揺であり、思想の分野ではさまざまな色彩の個人主義であり、方法論の分野では主観主義、一面性などである。小ブルジョア思想を克服する

ことは重要であるが、同時にわれわれは、党に浸透するおそれあるブルジョア思想のすべての影響に断固として反対し、その他非プロレタリア思想のすべての残りかすを一掃せねばならぬ。

非プロレタリア思想のすべてのあらわれは、わが党の思想には無縁である。われわれは、健康体をむしばもうとする微生物を絶滅すると同じように、確固としてこうした思想を絶滅せねばならぬ。

*

要するに、わが党の強さはすべての分野にあらわれる。党は、党の路線でも、この路線の実行でも強くなければならぬ。党は、政治的にも思想的にも組織的にも強く、国家機構の建設でも、経済管理担当機関の建設でも強くなければならぬ。党は、大衆との密接なつながりを維持し、たえまなくプロレタリアートの執権を固め、社会主義的民主主義をひろげる点でも強くなければならぬ。党は、社会の発展法則を徹底して理解し、それを確固としてとらえる点でも強くなければならぬ。党は、階級と民族の革命の大業、わが党を組織者とし指導者とする革命の大業に、うちつづく成功をかちとる点でも強くなければならぬ。党の強さの源泉は、マルクス・レーニン主義思想とあたらしい型のプロレタリア党の組織原則を基礎とした団結と統一にある。

われわれは、党を建設し、それをますます強くし、階級と民族によって課せられた歴史的使命を党が成功裏に果たすことができるようにすることを決意している。

注1 四良とは

生産課題をよく遂行し、

法律と党や政府の政治指令をよく実行し、

マルクス・レーニン主義をよく学習し、

大衆活動をよくおこなうこと。

注2 『レーニン全集』、第三一卷、「邦訳「共産主義内の『左翼主義』小児病」、三〇ページ」

2 国際的団結を強くし、平和、民族独立、

民主主義、社会主義をめざす闘争を強化すること

われわれは、世界革命が力強く高揚し、ますます大きい勝利の見通しが開けているとき、わが党の創立四十周年を祝っている。

第二次世界大戦後、社会主義は、一国の国境を越えて成長し、世界体制となった。社会主義陣営は、それがかちとったきわめて大きい成功のおかげで、人類社会の進化の決定的な要因と

して、革命のとりでとして、世界平和の柱として、その役割を引きつづいて十分に果たしてき
た。アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ諸国の民族解放運動の力強い高揚は、植民地奴隸制
度の大本を崩壊させた。民族解放運動は、新旧植民地主義の足かせをうちくたくためたためたか
いつづけ、帝国主義の後方基地に決定的な打撃をくわえている。帝国主義諸国の幾千万の労働
者と勤労人民は、国家独占資本家の反動支配とその好戦政策に鋒先をむけて、前代未聞の強力
な闘争をおこなっている。この闘争は、帝国主義のねぐら自体を打撃する巨大な勢力である。

これら三つの偉大な革命勢力は、広範な世界の平和運動とともに、帝国主義に多くの側面か
らくりかえし攻撃を加え、局面を基本的に平和、民族独立、民主主義、社会主義の側に有利に
かえている。世界の人民は、こうした勢力の同盟に依拠して、アメリカを先頭とする好戦的帝
国主義者のあらゆる黒いたくらみや戦争の賭けを失敗させ得る地歩をちゃんと占めている。

第二次世界大戦につづく時期はまた、社会主義革命の高潮をまのあたりにし、世界革命史上も
つともはげしく沸きだっている時期である。われわれの陣営では、十億をこえる人民が、さま
ざまの社会経済条件から出発しつつ、社会主義建設の道に巨歩を進め、かつてのおくれた国ぐ
にを、すばらしい政治体制、近代的な工業と農業、先進的な文化と科学、強大な国防をもった
国ぐにに変えつつある。国の独立と人民の幸福は保障されている。人類は、こうした国ぐにの
なかに、かがやかしい模範と希望のみなもとを見いだしている。

民族独立運動は、社会主義の影響のもとに、広がりから見ても深さから見ても、いちじるし
く大きく成長し、あたらしい質をもつようになった。この運動のきわだった特徴は、新旧植民
地主義をとりのぞき、帝国主義に奉仕するいっさいの反動勢力をとりのぞいたたかいが、社会
を非資本主義的発展の方向で改造する努力と有機的に結びついていることである。あたらしく
解放された多くの国ぐにで、民族民主革命は、移行の形態こそさまざまであるが、資本主義的
発展の道をとらずに社会主義革命へ前進することができる。それは、真に革命的な党の指
導、正しい路線と適切な革命の方法、労働者農民その他進歩的階層の確固とした支援、社会主
義諸国からの積極的な援助のおかげである。

現在の帝国主義諸国では、資本主義が国家独占資本主義へ急速に転化し、労働者階級と勤労
人民にたいする搾取と抑圧が強められたために、社会的矛盾がますますはげしくなっている。
これによって労働者階級は、その意志統一、行動統一をさらに強め、これを基礎として、勤労
人民の広範な大衆その他の民主的階層を統一戦線——国家独占資本家の支配とアメリカ帝国主
義者の手綱に反対し、民主主義、社会進歩、平和、民族主権をめざす統一戦線に結集すること
が可能となっている。つまり、やがては社会主義革命の勝利につづく革命の高潮のために、そ
の前提条件をつくりだすことができるのである。

こうした三つの大きい流れは、われわれの時代には社会主義革命の高波に合流し、人類を社

会主義の軌道にのせ、世界の人民を前進させて資本主義から社会主義への移行を世界的規模で完成させる。

過去二五年のあいだ、頭目アメリカにひきいられた帝国主義者は、社会主義のますます大きくなる成功に絶望的に立ちむかい、労働者階級と被抑圧人民のますます強力になる闘争に対決し、国内ではテロルとデマゴギーに訴えつつ、世界の革命運動に反撃を加えるためにはいかなる手段も辞さなかつた。彼らは、軍隊を増強し、軍備競争をおこない、西ドイツと日本の軍国主義を復活させ、気狂いのようにあたらしい世界戦争を準備し、社会主義諸国を包囲し、脅迫し、破壊しようとし、同時にあらゆる方法で社会主義陣営と世界の革命勢力を分断することをたくらんだ。植民地従属国については、帝国主義者は新植民地主義に切り換え、民族解放運動の鎮圧をめざして数かずの「特殊戦争」や「限定戦争」をひきおこした。

しかし、帝国主義者がわが世の春をうたう時代はすぎた。彼らの気狂いじみた反革命行動も、彼らの崩壊をくいとめることはできぬ。帝国主義は、世界の革命勢力のために敗北をこうむり、一つまた一つと陣地から後退を余儀なくされてきた。その中で最悪の成り行きとなったものは、いま世界の憲兵の役割をはたしている帝国主義の頭目、アメリカ帝国主義者である。一点の疑いもなく、世界革命はいまや攻勢に立ち、これは日まじし堅固となり、日まじし強力になっている。社会主義、民族独立、民主主義、平和の勢力は、攻勢戦略を実行するとき、あ

らゆる好戦政策を失敗させることができ、帝国主義者が各地域でどのような種類の戦争を引きおこそうとも、これをうちやぶることができ、結局は帝国主義者の戦争計画全体を挫折させることができる。社会主義、民族独立、民主主義、平和の勢力は、帝国主義者を一步一步後退させ、帝国主義を一画また一画と打ちのめし、その全面的崩壊を促進し、これによって、世界の恒久平和を保障し、ますます大きい規模で民族独立と社会主義の勝利を保障するのであらう。

アメリカ帝国主義者が火をつける戦争をふみ消し、帝国主義の戦争屋がたくらむあたらしい世界戦争計画を挫折させ、平和、民族独立、民主主義、社会進歩にますます大きい成功をかちとるためには、アメリカ帝国主義に反対する世界諸国人民の統一戦線をうちたてる必要がある。この統一戦線の中核は、社会主義諸国、国際共産主義労働運動、民族解放運動によって構成すべきであり、同時にこの統一戦線は、平和と正義を愛するすべての勢力をひきつけ、つぎのような共通の目標をめざして、世界諸国人民のすべての潜在力を動員する必要がある。すなわち、アメリカ帝国主義者、その同盟者、召使いと戦争気狂いを孤立させること。かれらのあらゆる侵略計画とあらゆる侵略行動を阻止し粉砕すること。平和を守り、引きつづく勝利の前進のうちに、世界革命をまえへまえへ押し進めつづけること。

三 党、それはすべての勝利の組織者である

いま世界的規模でおこなわれているきびしい激烈な階級闘争が、緊急に要求しているものは、社会主義陣営と国際共産主義労働運動がマルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義

にもとづいて団結を回復し強化することである。そのときはじめて、世界のすべての革命勢力を結集して帝国主義に対決させ、社会主義諸国に敵対する帝国主義者のすべての軍事侵略計画とすべての分裂策動を挫折させ、国際共産主義労働運動を弾圧し破壊する帝国主義者のあらゆる試みを撃退することができる。

ベトナムにたいする侵略戦争は、すべての帝国主義者のなかでもっとも好戦的なアメリカ帝国主義者が追求する世界戦略の重要な一部である。アメリカ帝国主義者は、この戦争によつて、わが国の分断を永久化し、南部をアメリカの新植民地と軍事基地にかえ、同時に社会主義を後退させ、ベトナムを、世界戦争の準備と革命運動の鎮圧のために用いられる戦略、戦術、新兵器の実験場に使用おうとしている。アメリカ帝国主義者は、彼らの犯罪的なベトナム戦争の中で、極度に野蛮な新ファシストとして本性をむきだしにしてきた。しかしかれらは、泥沼にはまりこんで身動きならず、みじめな失敗をなめてきたし、いまは世界中で、アメリカ国内でさえ、きびしく非難されている。資本主義世界でかれらが占めていた王座は、ますますゆらいできて、いまは目に見えて衰退している。アメリカの侵略に反対し救国をめざすベトナム人民の抵抗は、アメリカ帝国主義を先頭とする帝国主義を打撃する世界諸国人民の闘争の波の頂点である。ベトナム人民の抵抗は、現代の世界の基本矛盾を解決する上でも、社会主義、民族独立、平和を守る上でも、自由、正義、人間の尊厳、生存権をめざす世界諸国人民の闘争を強力

に推進する上でも、重要な寄与をしている。

わが人民は、世界諸国人民が人類のもっとも危険な敵、アメリカ帝国主義に反対してたたかっている革命闘争の前線に立っていることを限りなく誇りとしている。われわれは誓う、アメリカ帝国主義者とその手下の侵略をうち破り、わが愛国の抗戦を勝利の結末までみちびくために、全力をあげることを。それによつて、われわれの神聖な民族的義務と崇高な国際主義的責任を果たし、世界中のわが兄弟、わが友人の信頼にあたいすることを。

わが党は、創立以来つねに、国際プロレタリアートとの連帯、植民地国の革命との連帯を、もっとも重要な義務であり、基本原則であり、われわれ自身の革命が勝利するための決定的な要因の一つであると考へてきた。こうした正しい国際主義路線は、わが党が革命の全行程をつうじて、つねにたどってきたものである。この路線が、一方では世界の革命運動からのますます大きい支援と援助をわれわれにもたらしたのであり、また一方ではわが人民に気高いプロレタリア国際主義の感情をたたきこみ、わが人民をブルジョア、小ブルジョア民族主義から守るとともに、帝国主義者やその手下の背信的な分裂策動を挫折させてきたのである。その上、この路線は、わが人民にたいし、世界諸国人民の革命闘争に積極的に寄与するようにすすめてきた。

レタリア国際主義にもとづいて、社会主義陣営内と兄弟党間の統一と団結を回復し、これを守っていくことをめざして、過去においてつねにそうであったように、これからも全力をかたむけるであろう。われわれは、ひきつづいて、わが国と社会主義陣営の国々に、とりわけソ連、中国との友好のゆるぎないきずなを強め、かため、兄弟諸国とのあいだであらゆる分野の協力と相互援助を強めるであろう。

われわれは、資本主義諸国のプロレタリアートと勤労人民の平和、民族独立、民主主義、社会進歩をめざす闘争を精力的に支援する。

われわれは、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ諸国人民の新旧植民地主義に反対し民族独立をめざすたたかいを断固として支持し、民族主義諸国との友好関係をひきつづいて発展させる。

われわれは、共通の敵、アメリカ帝国主義にたいする闘争のなかで、インドシナ諸国人民のあいだの兄弟の連帯を強めるために、わが国とカンボジア王国とのかたい友好をさらに強めるために、相互に独立、主権、統一、領土保全を尊重することを基礎として、ラオス王国とのあいだで善隣関係をうち立てるために、最大の努力をかたむける。

われわれは、アメリカ帝国主義者を先頭とする帝国主義戦争屋の侵略好戦政策に反対し、兄弟諸国、世界中の進歩的人民と肩をならべてたたかいつづけ、平和、民族独立、民主主義、社

会主義をめざす共通の闘争のなかで積極的な役割を演じることを決意している。

われわれはまた、われわれの主権と独立を尊重する世界中のすべての国々にとのあいだで、平等と互恵を基礎として、国交を樹立する用意がある。

過去四〇年間を通じて、ベトナム革命のすべての歴史段階は、一つとして例外なく、とりわけ八月革命からアメリカの侵略に反対し救国をめざす現在の抗戦にいたる時期には、社会主義兄弟諸国、国際共産主義労働運動、民族解放運動、平和と正義を愛する世界の人民から受けた積極的な支援と心からの援助にかたむくむすびついている。

わが人民は、社会主義兄弟諸国、とりわけソ連と中国のはかり知れない貴重な援助にたいし、これをプロレタリア国際主義の気高い象徴と考えて、永遠の感謝をささげる。われわれはまた、他の兄弟諸党のわが人民との連帯にたいし、またわれわれの長期闘争への積極的な援助にたいし、心からの感謝をおくる。われわれは、国際プロレタリアート、民族主義諸国、アメリカ人民をふくむ世界中の進歩的人民がわれわれの正義の大業につぎることのない共感を示し、つぎることのない支援を与えていることにたいし、心から感謝する。

訳者あとがき

これは、ベトナム労働党第一書記レ・ズアン氏が一九七〇年二月、党創立四十周年にあたって発表した論文の全訳であります。論文は、二月十四日付党機関誌『ニャンザン』に「党の輝かしい旗のもと、独立と自由のため、社会主義のため、新たな勝利にむかって前進しよう」と題して掲載されました(『赤旗』七〇・二・一六)。

翻訳の台本には、ハノイの外国語出版所から発行された英語訳を用い、題名もこれに従いました。英語訳は、つぎのとおりであります。Le Duan: The Vietnamese Revolution, Fundamental Problems, Essential Tasks, Hanoi, 1970.

原著にたいし、これを論評するなど、もとより力にあまることで、ただ一言一句、意味と感觸を誤りすくなく日本語にうつしかえるのに汲々としただけではありますが、あえて感想を言えば、論文は、ベトナム人民の不敗の力の源泉をあますところなく明らかにし、ベトナム人民の勝利が世界の平和に通じる大道であることを、十分の説得力をもって教えていると思います。この意味で、今日のベトナム問題や、また広く戦争と平和の問題を真面目に考えようとする人は、どのよ

うな立場の人でもかならず深く研究するに値いする論文であると信じます。

著者レ・ズアン氏の経歴は、かならずしも明確ではありませんが、各種の報道を総合すると、生年は一九〇七年または一九〇八年、出生地は南ベトナム最北のクアンチ省（これは、今度のクアンチ省解放によって実姉の現存が確認された）、ハノイのクアンダイ・ニャンザン紙が報じていることから見ても、確実と思われず、成人後ハノイにうつって鉄道に勤務、一九二八年、ベトナム青年革命同志会に加盟し、対フランス抵抗運動にはいりました。同志会は、ホー・チ・ミンによって一九二五年に中国で創設され、機関誌『青年』を発行し、ベトナムの工場、鉱山、農園に支部をつくり、労働者階級のあいだに次第に影響力をひろげていた組織であります。

一九三〇年二月、インドシナ共産党の創立と同時に入党、翌三一年には北部地区党委員となり、同年ハノイでフランスに捕えられて二〇年の刑をうけ、悪名高い焦熱の流刑地プーロ・コンドールに送られました。三六年に、フランス人民戦線政府の大赦によって釈放され、三七年には中部地区党委員として活躍、四〇年にふたたび捕えられ、刑期一〇年でまたプーロ・コンドールに送られ、四五年八月革命ではじめて解放され、南部地区党委員会書記となりました。

一九五一年、インドシナ共産党がベトナム労働党と改称した第二回大会で、レ・ズアン氏は中央委員兼書記局長となり、六〇年九月第三回大会で、第一書記にえらばれました。

鉄道労働者出身の生粋の革命家の風貌は、大言壮語なく、美辞麗句なく、淡々と、しかし鋭利

に展開される論文の行間にも汲みとれることを改めて思います。

七月三十日から八月一日まで東京で開かれた「インドシナの平和と正義のための宗教者世界集會」に参加され、第十八回原水爆禁止世界大会にも参加されたベトナム宗教者代表団一行五名は、八月九日、十二日神奈川県に來られました。川崎で労働者市民の歓迎集會と川崎市長の招宴をおわってから、横浜市立大学医学部の歓迎集會にむかう途中、私は、ベトナム統一仏教協會のブイ・フー・チ、グエン・バ・ゴク両代表と同車しました。この論文を翻訳していると話しましたところ、両氏は「翻訳は完了したか?」「いつ出版されるか?」「内容はどう思うか?」「どの点にいちばん関心をもったか?」とたまたまかけるように質問されました。會話の力は皆無に近い私ですが、両氏が論文の内容にくわしく、かつ日本語訳の出版に大いに期待しておられることだけは、よくわかりました。

原文は、ずいぶん長い文章からなっており、ときには一つの文章が一ページにおよぶこともあり、また、原文の意味はもちろん、調子をそこなうことなく、よみやすい日本語にするよう努力を傾けましたが、結果は読者のみなさんの御批判にまつほかありません。

注はすべて原文にあるものです。原注と英訳者注と二種類ありますが、区別はしませんでした。マルクス、エンゲルス、レーニン、ホー・チ・ミンからの引用は、日本語訳のページ数をか

かげておきました。が、行文の便宜上訳文はかならずしも一致しません。御了承願いたいと思います。

この本には、すでに翻訳があります。『世界政治資料』第三四八〜三五〇号（七一年一月上旬〜二月上旬）に三回にわけて掲載された「ベトナム革命の基本問題と主要任務」がそれです。簡潔で原文に忠実であり、とりわけいかにも当を得た訳語を随所に見出して、たいへんに感心しました。私の訳文が重大な誤訳を免れ得たとすれば、それは主としてこの先訳のおかげであります。深く感謝します。

出版については、新日本出版社の方がた、とりわけ編集部近藤紘彦氏にお世話になりました。あつくお礼申します。

一九七二年八月二十九日

訳者

長尾正良（ながおまさよし）

1906年生まれ

ベトナム人民支援委員会神奈川県センター共同議長・神奈川県平和委員会会長

おもな訳書 「南ベトナム解放戦争の11年」「われらの街—ファンズム・ドイツの心臓部にて」（以上、新日本出版社）「鉄条網の中の抵抗」

ベトナム革命

新日本新書 160

1972年9月30日 初版 ©

定価260円

著者 レ・ズアン
訳者 長尾正良
発行者 松宮龍起

郵便番号102 東京都千代田区富士見2の13の14
発行所 株式会社 新日本出版社
電話 東京 (262) 4732 (営業)
(265) 2075 (編集)
振替番号 東京 13681
印刷 享有堂印刷 製本 飯塚製本

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

新日本新書発刊のことば

新日本出版社がこれまで発行してきました世界・中国両革命文学選をはじめ、幾多の書籍は、現在、ますます多くの読者のみなさんの支持をうけるようになっていきます。このことは、労働者をはじめ、日本の働くすべての人たちのなかに、進歩をねがい、日本の行く手について真剣に考え行動する力が大きく成長しつつあることを、はつきり示していると考えます。

このたび新日本新書を発刊することになりましたのは、このような要求にもとづいて、日本の政治・経済をはじめ、思想・文化などひろい分野にわたって、読みやすい大衆的な啓蒙書を提供しようという意図からであります。そのため、日本の進歩的学者や文化人、その他の方がたの著作、諸外国の文獻、解説書、初歩の学習書をはじめ、歴史、ルポルターージュ、大衆的な読みものにいたるまで、ひろく刊行してゆきたいと考えております。

また、私たちは、このシリーズをたんなるきわものとしてではなく、また読みすてにするようなものではなく、長い生命をもつ価値あるものに育ててゆきたいとねがっています。みなさんの座右の書として、また読書サークルやその他の集まりの伴侶となり、日本の独立・民主・平和・中立・生活向上をねがうすべての読者の方がたに、生活と思想への指針として役だてていただけるものとなれば幸いです。

一九六四年七月

新日本出版社

新日本新書

29	演劇への道	小堀幸三編	280
27	南ベトナム解放戦争の十一年	ベトナム研究 誌編／長尾良哉	280
26	私学の歴史	伊ヶ崎暁生・種田登著	280
25	社会発展史入門	安藤貞男著	240
24	やさしい賃金論	北田寛著	240
22	ストライキの歴史	塩田庄兵衛編	260
21	マルスク・レーニン主義の文化論	藤原惟人著	240
20	今日のチベット	高野好久著	240
18	日本の税金	山城善郎著	240
17	あの人の生きたように	イグエン・パン・チヨイの妻の記録 ベトナム文芸出版社編／松井博光訳	260
16	科学に新しい風を	坂田昌二著	240
15	弁証法的唯物論入門	中原雄一郎著	260
14	大学の自治の歴史	伊ヶ崎暁生著	280
12	アメリカから来たスパイたち	大野達著	240
11	ベトナム―詩と竹の英雄の国―	山岸一登著	240
10	日本歴史 上・中・下	加藤西村米田佐藤矢代本多著	300 320 320
9	原爆ゆるすまじ	広島県被爆者の手記編集委員会編	240
5	青いノート	エ・カサケービチ著／西本昭治訳	240
3	南ベトナムからの手紙	ベトナム文芸出版社編／友野協会訳	240
1	憲法問題入門	長谷川正安著	260
30	経済学 上・下	金子ハルオ・林直道著	300 320
31	知られざる支配者たち	大野達著	240
32	史的唯物論入門	西本 未著	240
34	あなたの音楽手帖	井上頼雄著	280
35	革命家マルクス	土屋保男著	280
36	在米日本人労働者の歴史	カール・ヨネ著	260
37	ベトナム問題入門	ベトナム研究 誌編／岡倉吉忠訳	280
38	物語プロレタリア文学運動上	藤原惟人手塚英孝編	240
39	フォーク・ソング	―アメリカの抵抗の歌の歴史― 三橋 未著	280
41	日本革命の展望 上・下	高岸顕治	220 220
45	若きマルクス	1 2 3 4 セレブヤヤ著／西本昭治訳	300 300 260 260
47	憲法裁判―家庭事件と自衛隊―	風草八土著	280
48	かわりゆく教科書	徳武敏夫著	300
49	石川啄木	加藤徳三著	280
50	ベトナムの婦人たち	ベトナム研究 誌編 婦団連訳	260
52	ベトナムの人民戦争	日本ベトナム友好協会編	260
53	朝鮮問題と日本	畑田重夫・川島三著	280
55	謀略―CIAとアメリカの労働運動―	ジョシ・テス著 田北英介訳	280
56	現代トロッキズム批判	柳利夫著	280
57	国際通貨危機	森野仁著	280

58	一九七〇年と安保・沖縄問題	上田耕一郎著	280
59	激動する世界 I (ヘアジア)		
	II (アメリカ・ラテンアメリカ・中東)		
	関倉吉郎監修・A.A.研究所編		280
61	現代に生きる宗教者の証言 日本宗教者平和協議会編		320
62	日本の中立化と安全保障	不昧聖著	280
63	パリからの報告	長谷川正安著	260
64	一九七〇年と日本の軍事基地	林茂夫・加藤編	280
65	輝坊といっしょにー共働きの育児日記ー		
	早乙女枝・勝元著		300
66	近代日本人のあゆみ	夫丸義一・桜井五郎編	280
67	地方自治入門	横井順著	240
68	子どもと読書	代田昌編	240
70	おかあさんの小児科ノート	毛利久来著	280
71	日本の貧困地帯上・下	堀正規編	280
72	沖縄問題入門	沖繩返還問題編	260
73	兵庫米騒動記	阿部喜著	280
74	火をぬすむもの	1 2 3 4 5 6	
	セレブワロワ著／西本昭治訳		280
75	日本社会党論	田口富久治編	240
76	公明党	村上重良編著	240
77	核兵器と放射能	三宅雄著	280
78	あすを告げる青春	尾花清・柴田章編	280

79	安保条約下の治安体制	中川真人・渡辺脩著	280
80	神話と教育	東木・徳武・吉村・木多・山本・岩本著	280
81	フリードリヒ・エンゲルス		
	若き日の思想と行動ー土屋保男著		280
82	集団保育とこころの発達	近藤薫樹著	240
83	安保条約下の教育	伊ヶ崎晩生・山科三郎著	240
84	近代日本と民主主義	鈴木安藏著	280
85	マルクスの主義と産業社会論	山口正之著	240
86	ヨーロッパ観劇の旅	水井智雄著	240
87	若きレーニン	第一部・第二部 藤原惟人著	280
89	死をよぶ科学ーB.C兵器ー和気朗著		260
91	中教審大学ー警察管理下の東京教育大学ー		260
	東京教育大学闘争記録編集委員会編		280
93	わが祖国の自由と独立	日本ベトナム友好協会編	320
94	急進主義と世界の学生運動	河村豊・佐々木一司著	280
95	日本の医療	奥山賢二著	240
96	アメリカ帝国主義		
	ーその侵略と干渉の二世紀ー関倉吉志郎編著		280
97	新版 労働災害	藤本武著	300
98	新植民地主義	ジャック・ウイティス著／A.A.研究所訳	240
99	小学一年生	山本典人著	280
100	冬の峠	ドラエナ著／山村房次訳	280

101	日本映画の現代史	山田和夫著	280
102	人民のラオス	アミー・ボンレナット著 藤田和子訳	280
103	思想としての民主主義	藤原惟人著	280
104	統一戦線運動	岡崎万寿著	360
105	戦後労働組合運動の歴史	塩田庄兵衛・中林賢一・田沼肇著	320
106	小林多喜二 上・下	手塚英著	260
107	社会主義朝鮮	川越登著	280
108	民主主義と宗教	日本宗教者平和協議会編	320
109	日本民謡	服部知清著	320
110	公害について		300
	水島フジナートとある医師のたなかいー原博著		300
111	貧困化と労働組合運動	堀江正規・若根広編	300
112	回想の詩人たち	斎藤義治著	260
113	働くものの精神衛生	池田篤信・石田一宏著	260
114	唯物論の歴史	西本一著	300
115	戦後沖縄の労働運動	前原穂積著	300
116	レーニンと文化	高橋勝之著	260
117	現代日本の憲法問題	渡辺洋三監修	300
118	現代と疎外	森宏二編著	260
119	子どものしつけ百話	近藤・橋本・好水・天野著	280
120	私の青春と読書	春日正一著	280

121	教科書裁判の思想	徳武敏夫著	280
122	スパイ大作戦ー現代アメリカの謀略ー	関倉吉志郎編	260
123	銀行	渡辺佐編・銀行労働研究会著	280
124	ストライキ	藤本武著	300
125	地球の汚染	三宅雄著	280
126	都市と交通ークルマ社会への挑戦ー	平井都士著	280
127	ふるさとの祭	橋浦泰雄著	260
128	資本論の学習	金子ハルオ著	300
129	歴史と庶民の対話	高橋碩一著	280
130	かわりゆく日本農業	重富健一著	260
131	原爆被災者問題	田沼肇著	300
132	教育権	牧野登著	280
133	広島の詩人たち	増岡敏和著	280
134	民族の悲劇ー沖縄県民の抵抗ー	瀬長危次郎著	300
135	ルポルタージュ職場	労働者ルポルタージュ集団著	280
136	あなたの健康ノート	南雲清編	280
137	時代に生きる思想	真下信一著	300
138	司法権の独立	長谷川正安著	260
139	パリ・コミュニケーションの詩人たち	大島博英著	300
141	治安維持法	松尾善著	280

142	民族の怒り—もえあがる沖繩—	潮長亀次郎著	300
143	日本の進路とマルクス主義	上田耕一郎著	260
144	倫理と進歩	セルサム著／橋坂郎訳	280
145	若き知性に	宮本百合子著	260
146	現代の詩—鑑賞と批評—	壺井繁治著	260
147	近代日本女性史 上	米田佐子著	300
148	近代日本の先駆者たち	藤森成吉著	300
149	日本の貿易	北田秀治著	300
150	現代社会と知識労働	山口正之著	280
151	労働組合運動論	荒畑広著	260
152	民社党論—その理念と体質—	高橋彦博著	260
153	母親のための教育学	深谷鏡作著	300
154	日本共産党の立場 —60年代から70年代へ—	宮本顕治著	320
155	大気汚染と健康	丸屋博・安賀昇・橋本卓・工藤翔二著	320
156	文学への思索	藤原惟人著	260
157	現代の高校生—親と子の対話のために—	田代三良・戸石泰一著	280
158	沖繩基地とニクソン戦略	不破哲三著	300
159	この五十年をふりかえって	野坂参三著	300
160	ベトナム革命—その基本問題と主要課題—	レ・ズアン著／長尾正良訳	260

新日本
出版社